令和４年度
交流及び共同学習実施報告書

山梨県教育委員会

令和4年度　交流及び共同学習　実施報告書

目　次

【県立】

〇盲学校　・・・・・・・・・・・１

〇ろう学校　・・・・・・・・・・１１

〇甲府支援学校　・・・・・・・・・・２５

〇あけぼの支援学校　・・・・・・・・・・３３

〇わかば支援学校　・・・・・・・・・・４１

〇わかば支援学校ふじかわ分校　・・・・・・・・・・５７

〇やまびこ支援学校　・・・・・・・・・・６５

〇富士見支援学校　・・・・・・・・・・７５

〇富士見支援学校旭分校　・・・・・・・・・・７６

〇ふじざくら支援学校　・・・・・・・・・・７７

〇かえで支援学校　・・・・・・・・・・８７

〇高等支援学校桃花台学園　・・・・・・・・・・９７

〇特別支援学校うぐいすの杜学園　・・・・・・・・・・１０３

【国立大学法人】

〇山梨大学教育学部附属特別支援学校　・・・・・・・・・・１０６

※　各支援学校の「教科等区分」の表記については、次のものを示しています。
- 自立：自立活動
- 特活：特別活動
- 総合：総合的な学習（探究）の時間
- 生単：生活単元学習
- 遊び：遊びの指導
- 職家：職業・家庭
- 保体：保健体育
- 作業：作業学習

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立盲学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立盲学校
所 在 地	〒４００－００６４　山梨県甲府市下飯田２丁目１０―２
電話番号	０５５―２２６－３３６１
校 長 名	白倉　明美
交流及び共同学習主任名	小林　えみ

２　学校教育目標

自己実現・社会的自立ができる力を養い、健康で心豊かな人間を育成する。

Ⅱ　交流及び共同学習推進協議会の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	池田地区自治会連合会　会長、池田地区自治会　会長	会長
2	池田地区社会福祉協議会　会長	
3	池田地区シニアクラブ連合会　会長	
4	池田地区ボランティア推進会　会長	
5	山梨ライトハウス青い鳥成人寮　施設長	
6	甲府西幼稚園　園長	
7	甲府市立池田小学校　校長	副会長
8	甲府市立西中学校　校長	
9	山梨県立甲府西高等学校　校長	
10	山梨県立甲府城西高等学校　校長	
11	山梨県立盲学校　ＰＴＡ会長	
12	山梨県立盲学校　校長	
13	山梨県立盲学校　教頭	
14	山梨県立盲学校　事務長	

２　経過

開催月日	協　議　会　の　内　容
５月１８日（水）	令和３年度の様子、令和４度交流及び共同学習の計画、意見交換
２月１５日（水）	令和４年度交流及び共同学習の実践報告、来年度に向けての課題の検討

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
（２）相互の理解を深め、社会で共に生きて行くという意識を高める。
（３）視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

【各学部の目的】
（１）幼稚部
①自由あそびや集団での活動をとおして、生活経験を広める。
②継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせる。
③同年齢の集団における活動の中で、雰囲気を感じたり、自分の気持ちを表現したりできるようにする。

（２）小学部

①休み時間や給食・教科交流・学校行事などの交流及び共同学習を通して、生活経験を広め、集団のルール等の社会性を育てる。

②継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせながら、より良い関わりを育てる。

③同年齢の集団における活動を通して、自分の感情や意思を表現したり、もてる力を発揮したりする中で、お互いの関係を深めさせる。

（３）中学部

①学校行事・課外活動などを通して、生活経験を豊かにし、相手を思いやる心や協力する態度を育てる。

②共に活動することを通して相互の理解を深め、自らの障害を受容し主体的に行動しようとする意欲を高める。

③様々な人たちとの関わりを通して、視覚障害について多くの人への啓発を促す。

（４）高等部

①学校行事・生徒会活動・治療奉仕活動を中心に、社会経験を広め、積極的に社会に参加しようとする態度を育てる。

②共に活動することを通して相互の理解を深め、自らの障害を受容し、生きる力を付けようとする意欲を高める。

③様々な人たちとの関わりを通して、視覚障害について多くの人への啓発を促す。

２　提携校

学部	交流及び共同学習提携校
幼稚部	甲府西幼稚園
小学部	甲府市立池田小学校　沖縄県立沖縄盲学校（オンライン）
中学部	甲府市立西中学校　　京都府立盲学校（オンライン）
高等部（本科普通科）	山梨県立甲府城西高等学校　山梨県立甲府西高等学校

３　実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	教科等区分	実施内容
幼	通年	甲府西幼稚園	５歳児	体験あそび	自由遊び、おあつまり活動
	１１月２日				盲学校交流体験会
小	２学期	甲府市立 池田小学校	１・２ ３・４ ・５年	教科 特別活動	教科学習（音楽、体育：運動会練習等） 創立 110 周年行事作品展示
	９月２３日				クラブ活動 池田小運動会
	通年				自己紹介カード交換 お礼状作成
	通年	沖縄県立 沖縄盲学校	２・５年	教科 道徳 総合的な学習	教科学習（国語、家庭科等） 道徳 総合的な学習 （リモートで実施）
中	１・２学期	甲府市立 西中学校	１・２・３年	特別活動	通信（壁新聞）制作 本校学園祭　作品展示
	１１月７日		１・３年	特別活動	西中学校合唱祭参加
	６月	京都府立 盲学校	３年	特別活動	オンラインによる交流

高	２学期	山梨県立甲府城西高等学校	１・２・３年	特別活動	通信（壁新聞）制作 本校学園祭　作品展示 学校紹介ＤＶＤ拝受
	２学期	山梨県立甲府西高等学校	１・２年	特別活動	本校学園祭　箏曲部演奏 ギター弾き語り　作品展示
	１２月２３日		１年	課外活動	書道部活動見学
全	１０月１５日	上記の幼稚園・学校	全学年	特別活動	本校学園祭　箏曲部演奏 ギター弾き語り 作品展示

４　学校間交流の様子

（１）幼稚部

今年度の幼稚部には４歳児３名、５歳児２名の合計５名が在籍している。今年度は幼児の実態から５歳児１名が毎週水曜日に甲府西幼稚園の園庭での「自由あそび」や室内での「おあつまり」に参加した。おあつまりでは、『あわぶくたった』や『いちりんしょう』などのわらべ歌あそびで、甲府西幼稚園の友達と円を作ったり、くぐり抜けをしたりして、大勢の中で一緒に遊ぶ体験ができた。

１１月の交流体験会は、今年度も感染防止対策として盲学校と甲府西幼稚園に会場を分けて実施した。年少組がアイマスク体験、年中組が白杖歩行、年長組が点字体験を行った。甲府西幼稚園の先生方にも協力してもらいながら、園児に視覚障害について知ってもらう良い機会となった。

「自由あそび」

「おあつまり」

（２）小学部

今年度の小学部には１学年３名、２学年２名、３学年１名、４学年２名、５学年１名の計９名が在籍している。全員が池田小学校（以下「池田小」と記載）と交流及び共同学習を行った。感染症予防対策をしながら、池田小の運動会への参加、自己紹介カードや作品等の交換を実施した。学年によって、教科等の交流も行った。

また、２年生と５年生は沖縄盲学校（以下「沖縄盲」と記載）とリモートで交流及び共同学習を行った。

①池田小学校との交流

年度の初めに、写真やメッセージを書いた自己紹介カード等を交換した。互いの様子を知ったり交流への期待感を高めたりすることができた。

毎年、個々の実態に合わせて参加種目や方法、合理的配慮等を検討し、練習及び運動会に参加している。練習期間は、ほぼ毎日池田小に通い練習を積み重ねた。当日はリレーやダンスなどの表現活動、玉入れなどの競技で練習の成果を発揮することができた。練習や運動会の際には、互いにあいさつしたり声をかけ合ったりするなど、児童同士の交流が見られた。

六星祭（本校学園祭）では、池田小の児童が授業で制作した絵画や習字などを展示

している。また、池田小では本校の児童が作った作品を展示する機会を設け、多くの児童や保護者の方に作品を見てもらっている。視覚障害のある児童が授業の中でどのような材料や手法で、何を作っているのかを知ってもらう良い機会となっている。

②沖縄盲学校との交流

今年度新たに、沖縄盲学校と、小学部２年生２名と５年生１名が教科学習や道徳等においてオンライン交流及び共同学習を行った。お互いの住んでいる県や学校について紹介しあいながら、意見交換を行うことができた。また、単元を通して一緒に学びあう学習を取り入れることにより、互いの成長を交流の回数を重ねるごとに感じることのできる交流となっている。画面越しであるが、距離を感じず、話が途絶えることなく話し合いをする場面等も見られ、今後の交流も楽しみになっている。

「運動会参加」

「交流展示」

「沖縄盲とのリモート交流」

（３）中学部

今年度は１学年２名と２学年１名、３学年１名の計４名が甲府西中学校（以下「西中」と記載）と作品展示、盲学校通信制作、合唱祭への参観という形で実施した。また、今年度初めて中学部３年生が、京都府立盲学校（以下「京都盲」と記載）とオンラインによる交流及び共同学習を行った。

①甲府市立西中学校との交流

合唱祭へ参加した。当日は提携校のボランティア委員会の生徒の案内により座席についた。生徒の人数が少ない本校において、大勢の生徒による合唱を聴く機会は貴重で、短い時間ではあったが、有意義な交流となった。

盲学校通信の制作では、昨年度、一昨年度と一つの交流イベントとして盲学校通信を送付した。その時に提携校への意識が高まり、自分たちのことを伝えようとする気持ちを強く持つことができたため、本年度も同様に作成した。自分たちの学校を知ってもらいたいという気持ちを送ることができたと感ずる。

作品展示では、提携校の作品を本校学園祭で展示した。ＳＤＧｓを取り上げた展示で、本校の生徒にとって学びの多い内容となった。

②京都府立盲学校との交流（オンライン）

今年度の中学部３年生の修学旅行を京都・大阪方面で当初計画していたため、事前学習の一環として京都府立盲学校とのオンラインでの交流を行うことになった。発表のための事前準備や当日の発表を通して、自分のことを他の盲学校の同年代の仲間に知ってもらおうする気持ちを高めることができた。

「甲府市立西中学校合唱祭参観」

「京都盲とのオンライン交流」

（４）高等部

①甲府城西高等学校との交流（以下「甲府城西高」と記載）との交流

・学校紹介ＤＶＤ鑑賞

例年、本校にて学校紹介を含む交流が行われるが、残念ながら本年度も中止となった。そのような中、本年度は学校紹介のＤＶＤを鑑賞することを通して、互いの学校の様子を知る機会を設けた。生徒は学習や活動の様子が自分たちの学校とどのように異なっているかということに関心を寄せながら映像を鑑賞することができた。鑑賞後は印象に残ったことなどを感想にまとめ、届けた。

②甲府西高等学校との交流（以下「甲府西高」と記載）との交流

・本校学園祭での交流演奏会

甲府西高との交流では、例年、本校の学園祭にて、吹奏楽部の迫力ある演奏が披露されていたが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症拡大により、本校の幼児児童生徒のみの学園祭としたため、実施できなかった。しかし今年度は、実施可能な内容を甲府西高と相談するなかで、箏曲部とギターの弾き語りによる交流を実現することができた。本校児童生徒は、素敵な音色と歌声に心を震わせ、手拍子やリズムを取りながら楽しむことができた。

・甲府西高の部活動見学（書道部）

同年代の仲間が活動している様子を知り、文化的活動への興味関心を高めることを目的とし、今年度初めての試みとして、甲府西高書道部の活動の様子を見学させていただいた。

身体を目一杯使って作品を作り上げていく集団での迫力のあるパフォーマンスを直接見ることができたことは、生徒にとって、大変貴重な経験となった。

③作品展示

本校学園祭「六星祭」に、以下の作品の展示を行った。

甲府城西高：書道９点、絵画４点

甲府西高　：書道条幅６点、半紙１１点、絵画６点

スペースに限りがあるため、作品数を絞っての展示であったが、迫力のある、また、味わい深い素晴らしい作品と出会うことができた。来場者にはじっくりと作品を味わっていただき好評を得られた。

５　成果と課題

（１）幼稚部

毎週の交流の中で、甲府西幼稚園の幼児から話しかけてくれたり、関わってくれたりする機会が多くあり、本校の幼児も自分から近づいて行ったり、近くでよく顔を見たりする姿が見られた。

大勢の友だちと一緒に行う「おあつまり」では、友だちの歌声を心地よさそうに聴いたり、一緒に楽器を演奏したりして、大勢の中で活動に取り組む良い機会となった。

来年度、幼児は本校小学部に入学し、池田小学校と交流及び共同学習を継続していくこととなる。今後も池田小学校の児童とともに素晴らしい交流が継続されることを期待する。

（２）小学部

①池田小学校との交流

感染症対策のため、教室内での交流や学校見学及び体験会等は、実施が難しい場合があったが、学校や学級の様子を紹介する掲示物を交換するなど、工夫してお互いの様子を知ることができた。学年によっては、教科学習やクラブ活動などに参加することができた。

交流運動会では、感染症対策を取りながら、練習から参加し、本番では練習の成果を発揮できた。交流活動を通して、同年齢の友達と一緒に行事を成し遂げたり、友だちと触れ合う楽しさを味わったりすることは、児童にとって大きな成長につながっている。

教室内での交流及び共同学習の必要性を感じ、実施したいという意見があるので、感染症の状況を鑑みながら、少しずつ進めていきたい。

今後もよりよい交流ができるように、双方の実態等を考慮し、交流内容等や関わり方などを検討し実施していきたい。

②沖縄盲学校との交流

今年度初めての取組であったが、実施に向けてお互いの担任同士の丁寧な事前の打ち合わせやお互いの児童の実態把握、年間計画や学習進度等の確認などを行い、国語や道徳、総合的な学習等による交流及び共同学習を実施した。実施学年によっては、単元を通し実施した。同年代の盲学校の児童と交流をする中で、お互いの盲学校や地域の様子を知ることができた。授業においては、画面を通して意見交換や作品を見せ合う等の学習発表をするなど、なかなか話すことのできない他県の友達とコミュニケーションをとることができ、貴重な経験をすることができた。

児童からは、お互いのことがより分かり、楽しかったという声が聞かれ、今後の交流への期待感をもっている様子が伺えるので、今年度、取り組んだ学習内容や実施方法等を振り返りつつ、来年度以降の効果的なオンラインによる交流へと繋げていきたい。

（３）中学部

①甲府市立西中学校との交流

今年度も生徒同士の直接的な交流の機会を増やすことは叶わなかったが、掲示物を作成して届けることを通して、自分たちのことを知ってもらうことに取り組むことができた。目の前にいない仲間のことを想像しながら内容を工夫する様子を見て、交流活動の重要さを改めて実感した。コロナ禍の終わりが見通せない中ではあるが、お互いにとって有意義な交流活動を今後も行うことができるよう、内容や方法を工夫していきたい。

②京都府立盲学校との交流

今年度は新たな活動として、他の盲学校とのオンラインでの交流が実現した。盲学校の生徒数が全国的に減少傾向にある中で、このような交流を通して同じ視覚障害のある仲間との関わりを広げていくことは、生徒の成長にとって大変意義のあることだと感じている。

（４）高等部

①甲府城西高校との交流

新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度もやむを得ず、生徒同士がお互いの学校を行き来して行う活動は中止せざるを得なかった。しかしながら、学校紹介の DVD を鑑賞したことにより、本校生徒にとって、同年代の仲間の活躍への興味関心を高めることにつながった。コロナ禍の終わりが見通せない中ではあるが、お互いにとって有意義な交流活動を今後も行うことができるよう、内容や方法を工夫していきたい。

②甲府西高校との交流

本校学園祭において、今年度は交流演奏会が実施でき、甲府西高の箏曲部とギター弾き語りの演奏をしていただいた。演奏会は、幼児児童生徒がとても楽しみにしているものである。来年度も、内容や方法を工夫しながら、実施できるようにしていきたい。

書道部見学では、本校生徒が同年代の仲間との関わりや様々な活動への興味関心の幅を広げるためにはどのようなことができるのかを模索していく中で、甲府西高校の協力のもと、部活動の見学が実現した。生徒同士で直接的に関わる時間を設けることはできなかったが、同年代の仲間の活躍の様子を知るよい機会となった。目的や内容、事後の振り返りの方法について考えていき、より良い活動が行えるようにしていきたい。

③甲府城西高校及び甲府西高校　書道・美術作品展示

今年度の六星祭でも、書道及び美術の貴重な作品をお借りし、展示し全校並びに関係者で鑑賞することができた。素晴らしい作品に好評を得られた。来年も充実した交流となるよう、内容や方法を探りながら実施したい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
（２）相互の理解を深め、社会で共に生きていくという意識を高める。
（３）視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

２　交流先

学　　部	地域交流先
幼稚部	池田地区文化協会
小学部・中学部 高等部	情報文化センター・青い鳥成人寮、池田地区ボランティア推進会 池田地区シニアクラブ友愛会、池田地区文化協会、池田地区住民
寄宿舎	池田地区シニアクラブ友愛会

３　実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	１０月１９日	全提携先及び地域住民	児童会会長	自立	地域の方々と学校周辺の清掃と点字ブロック点検を行った
中 高	６月９日 通年	情報文化センター	１年	自立	新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった
中 高普通科	１０月１９日	全提携先及び地域住民	生徒会役員	自立	地域の方々と学校周辺の清掃と点字ブロック点検を行った
理療関係	通年	地域住民	全学年	臨床実習	理療治療を実施した

学科	６月４日	地域住民	１・２年	臨床実習	「検校祭」における治療奉仕を実施した
	３月６日	地域住民	全学年	臨床実習	例年の形の「健康祭り」は中止
幼小中高普	１月上旬～２月上旬	地域住民	全学年	体験あそび図工・美術・家庭	山梨中央銀行　下飯田支店にて作品展示
	３月６日	池田地区文化協会及び地域住民	全学年	体験あそび図工・美術・家庭	池田地区「健康祭り」は大幅に形を変えての実施のため、作品展示は実施されなかった
寄宿	７月 １２月	池田地区シニアクラブ友愛会	舎生	余暇活動	地域の方に花をいただき舎生による花植えを行った。交流たよりを発行し、回覧板を通して伝えることができた

４　地域交流の様子

（１）点字ブロック点検・清掃活動

新型コロナウイルス感染症拡大による予防対策から、ここ数年は実施できなかった活動であるが､本校生徒会役員､地域の代表の方々という参加人数に制限を設ける中、新たに保護者有志も参加し、学校周辺の清掃や点字ブロックの点検を行った。

３コースに分かれ、路上の草取りや、空き缶･タバコの吸い殻等を拾い集め、地域の方々や保護者の皆様の丁寧な作業により、ゴミは２袋分回収でき、子供たちが歩く学校周辺の道路が綺麗になった。

また、地域の地図を参照しながら、点字ブロック点検を行い、点字ブロック破損場所や、剝がれ取れている箇所の確認をすることができた。欠けているものや、剥がれている物も多く見つかったため、記録を撮りながら地図に記載し、生徒による点字ブロック破損箇所地図を作成し、まとめることができた。

「地域清掃」

「破損箇所」

「地図作成」

（２）点字ブロック点検報告会

１２月に点字ブロック点検報告のため、本校生徒会役員、保護者、地域の方々と共に、山梨県中北建設事務所に出向き、破損の補修をお願いした。甲府市道路河川課の方々にもご参加いただくことができた。担当者の方々には生徒会で作成した点字ブロック破損による危険箇所の地図を渡し、視覚障害者だけでなく、皆が安全に歩行できるようにという気持ちを込めて、早めの修繕をお願いしたい旨を伝えることができた。

担当者の方々からは、現在、周辺道路の整備等、点字ブロック修繕が順番に行われていること、再度現場の確認を行い、予算化等の状況が整った後、改善につなげていきたい等のお話をいただくことができ、とても有意義な会となった。

（３）高等部理療関係学科

新型コロナウイルス感染症予防をしっかり行い、今年度は通年を通して臨床実習を実施することができた。生徒たちにとっては、日頃学習をしている内容を地域の方々に実践できる貴重な体験であり、実践内容からカンファレンス、まとめ、研究成果の発表へと繋げている。

通常の理療治療は、盲学校を身近に感じてもらえるよい機会であり、地域とのつながりを広げ、深めていくことができる大切な取り組みになっている。今後も理療を通した地域との交流活動を通し、地域に開かれた学校を目指していきたい。

（４）寄宿舎

今年度も感染症予防のため、池田地区シニアクラブの方々と舎生との直接的な交流を行わず、花を通じたやりとりや活動で間接的に交流を図った。７月は松葉ボタンの花、１２月はビオラの花を届けてくださり、舎生と指導員で花植えを行った。花植えの様子と舎生の感謝の気持ちを「寄宿舎だより」に載せ、自治会の各所へ配布した。

「７月花植え」

「水やり」

「１２月花植え」

５　成果と課題

（１）点字ブロック点検・清掃活動

第１回交流及び共同学習推進会議において、ボランティア推進会会長より、２ヶ月に１回、地域の方々により早朝の清掃活動が行われているという話題が出された。７月と９月の清掃活動日には本校からも校長や教頭、交流共学係主任が参加し、地域の方々と一緒に盲学校周辺を歩きながら、ゴミ拾いや点字ブロックの点検を行った。

ボランティア推進会会長より、池田地区の点字ブロック清掃活動は少なくとも４５年以上前からずっと行われているということを伺った。長きにわたる活動により、常に盲学校周辺の道路が綺麗に保たれていることや、盲学校周辺の点字ブロックへの深い心配りを受けていることを知り、改めて感謝の気持ちをもつことができた。

１２月に行われた点字ブロック点検報告で、剥がれていた点字ブロックが手元にあることをお伝えしたところ、１月に該当箇所担当の甲府市道路河川課の方々が来校してくださり、改めて地図で場所を確認し、剥がれた点字ブロック３枚を受け取ってくださった。

今後も、一つ一つの活動を積み重ねながら、地域の中で共に学び、共に育っていく学校でありたいと思う。

（２）高等部理療関係学科

理療関係学科では例年、検校祭、池田地区健康祭り、地域安全点検、日頃の臨床実習等を通して池田地区の方々との交流を図っており、コミュニケーション能力の向上や、地域と盲学校とのつながり等について再確認している。自分自身のことを表現することで障害の受容につながり、職業自立を目指す上で人間関係の構築の重要性について気付くことができる機会となっている。日々の様々な学習の中から、常に地域に目を向け、心を寄せる姿勢や地域で暮らしていく姿勢を学ぶことができたのではないかと思われる。

今後の課題として、生徒数の減少傾向により、治療奉仕に対するニーズに応えきれないことがあるが、これについては職員の参加等で補っていきたい。他の人との関わりをもつことが苦手な生徒に対しては、職員自身が生徒と地域の方との間に入り、少しでも関心をもてるようにはたらきかける役割を担っていくことが大事ではないかと

考える。
　今後も、地域社会に貢献しながら、地域の方との大切な交流の場として、治療奉仕の継続につとめたい。

（３）寄宿舎
　感染症予防対策のため一緒に活動することができなかったが、たよりを通し感謝の気持ちを伝えることで、間接的ではあるが舎生と地域の方々との交流を図ることができた。
　来年度も地域の方々との繋がりを感じられるような取り組みを考えていきたい。また、舎生にとって地域社会の一員であることの自覚を深め、地域の方々とかかわる上でのコミュニケーション力を高める機会としていきたい。

（４）地域の回覧板を活用したお便り配布
　地域の回覧板は、地域の方々にとって情報収集の重要な手段であると考えている。各自治会組回覧板に、学校からの回覧文書を合わせて配布いただき、地域の方々の全戸へ情報として伝えることができた。
　来年度以降も、学校での取組の様子について回覧板を通してお便りとして発行したい。また、校内掲示の工夫や、ホームページ上でのブログへの掲載等の発信により、広く知っていただける機会を大切にしたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目的
（１）居住する地域の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。
（２）交流及び共同学習を通して、地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。
（３）生涯を通じて、地域と結びついていく基盤を作る。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部２年	甲府市立伊勢小学校	２	楽器演奏、手遊び等

３　成果と課題

　保護者から実施への希望が出されてから、居住地校交流の校内規定に沿って検討し、実施へとつなげることができた。昨年度に引き続き、提携校からは快くお受けいただき、電話連絡により具体的な学習内容や学習方法等を確認させていただきながら計画し、実施した。学習時は、新型コロナウイルス感染症予防をしっかり行い、安全に学習を進めていくことができた。
　本校での学習は、同学年が本人含め２名であるため、集団活動の中での自分の動き方や大勢の友達からの意見などを聞く機会がとぼしい。また、音楽の学習では、大勢の友だちとの合奏や合唱において、音の重なり合い等を感じることが難しいという現状がある。
　交流学習については、本校児童は、はじめは緊張していた様子も見られたが、班活動では友達の質問に対して、自分の考えを伝えることができた。また授業の後半では、一緒に手遊びをしたり、響き合う声を聴いたりしながら笑顔で楽しい時間を過ごすことができた。今年度も互いの児童にとって、とても貴重な学習経験になったと考える。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立ろう学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立ろう学校
所 在 地	〒４０５－００１６　山梨県山梨市大野１００９
電話番号	０５５３－２２－１３７８
校 長 名	木村　則夫
交流及び共同学習主任名	髙波　由香

２　学校教育目標

◎幼児児童生徒のたくましく生きる力と豊かな言語力を育む

一人一人の特性に応じた適切な指導及び必要な支援の充実を図る

自身の力を発揮し、自分が自分らしく生きる力を育成する

物事に対し、周囲の人とともに取り組む力を育成する

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	山梨市大野区・区長	会長
2	山梨市社会福祉協議会・会長	副会長
3	峡東教育事務所・主幹	
4	山梨市教育委員会学校教育課・課長	
5	社会福祉法人加納岩福祉会加納岩保育園・園長	
6	山梨市立山梨小学校・校長	
7	笛吹市立春日居中学校・校長	
8	山梨県立山梨高等学校・校長	
9	山梨県立ろう学校・校長	

２　経過

開催時期	内　　容
5 月 17 日(火)	第 1 回交流及び共同学習推進会議（リモートでの開催）
1 月 27 日(金)	第 2 回交流及び共同学習推進会議

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）幼稚部

同年齢の集団との様々な活動を通して、幼児の生活に広がりをもたせ、豊かな心を育てる。

（２）小学部

大きな集団の中での活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。また、豊かな言語環境の中でコミュニケーション能力を高める。

（３）中学部

同世代の大きな集団との活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。

（４）高等部

同年代の生徒との活動をとおして、生活経験を豊かにし、好ましい人間関係を培う力を育てる。また、自己理解や障害認識を深め、社会参加に必要となる思考力や判断力、表現力を養う。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
幼稚部	社会福祉法人加納岩福祉会加納岩保育園
小学部	山梨市立山梨小学校
中学部	笛吹市立春日居中学校
高等部	山梨県立山梨高等学校

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
幼	5/25　中止	加納岩保育園	全クラス	人間関係 環境	自由遊び、設定遊び他
	6/8				自由遊び、設定遊び他
	9/13　中止				自由遊び、設定遊び他
	10/25				みんなで遊ぼう（運動遊び）
	11/15　中止				自由遊び、設定遊び他
	12/13　中止				自由遊び、設定遊び他
	1/25				自由遊び、設定遊び他
	2/7				自由遊び、設定遊び他
小	5 月～7 月	山梨小学校	全学年	特別活動	メッセージカードの交換
	5/19		2 年	道徳	「聴こえの学習会」（教員のみ）

小	6/2	山梨小学校	1年	生活	春の公園へ行こう
	6/9		2年	特別活動	ゲーム
	6/28		6年	社会	租税教室
	7/15		3年	図画工作	『ふき上がる風に乗って』
	9/22		2年	国語	Zoomにて遠隔合同授業
	10/13･17･18･25		4年	音楽	令和4年度東山梨小中学校音楽発表会に向けた練習
	10/19		1・2年	体育	交流持久走大会試走
	10/26		3・4・5・6年	体育	交流持久走大会試走
	10/27		4年	音楽	令和4年度東山小中学校梨音楽発表会のTV撮影
	11/2		全学年	体育	交流持久走大会
	11/24		2年	国語	Zoomにて遠隔合同授業
	11/29　中止		全学年	特別活動	交流ふれあい祭り
	12/1		5年	社会	トヨタ自動車九州宮田工場のオンライン見学
	1/26		1年	図画工作	『いっぱいつかってなにしよう』
	2/15		3年	自立活動	聞こえにくいこと・ゲーム
中	6月	春日居中学校	全学年	自立活動	自己紹介カードの交換
	6/17		全学年	特別活動	Zoomによる交流
	7月		全学年	特別活動	春日居中学校「おりづるぷろじぇくと2022」への参加
	9/16 中止		全学年	特別活動	春日居中学校学園祭 体育の部への参加
	10/8　中止		全学年	特別活動	ろう学校学園祭に招待
	1月		全学年	国語 美術	席書き大会の作品交換・鑑賞 美術作品交換・鑑賞
高	6/1	山梨高校	全学年	放課後	顔合わせ会
	6/14		全学年	特別活動	山梨高校学園祭に参加
	11/2		全学年	体育	山梨高校梨窓WALK（強歩大会）

4　学校間交流の様子

（1）幼稚部

・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の恐れや交流先の都合により、実施回数は少なかったが、実施の際は感染症対策を行って活動することができた。

・6月の交流では、加納岩保育園の園庭にて、保育園の縦割りグループで、自由遊びや設定遊び（しっぽとり）を行った。リズム体操は、本校の幼児も事前に何度か映像を見な

がら練習しておくことで、大勢の中で自信をもって踊る様子が見られた。今年度も昨年度に引き続き、感染症対策を考慮し手話歌の実施を見合わせた。

・１０月の交流では、ろう学校のグラウンドで、年長組３２名とリズム体操をしたり、運動遊びを行ったりした。運動遊びは、感染対策を考え、バトンやタッチを行わないリレー、玉を入れる時間を分けての玉入れ、新聞紙を使ったボールはこびリレーを行った。加納岩保育園の年長児が活動の見本となり、本校の年中児、年少児は誘われることで苦手な活動にも参加できた。

・各クラスの様子

＜もも組＞

初めての交流だったので、大勢の雰囲気に緊張した様子が見られたが、集団に入って一緒に活動することができた。事前にクラス等でゲームのルールややり方を確認しておくことで、落ち着いて活動を受け入れて参加することができた。

＜たんぽぽ組＞

昨年度よりも見通しをもって交流に参加することができた。同級生の輪に加わり、「私も４歳だよ」と話す様子も見られ、会話を楽しんでいた。

＜すみれ組＞

加納岩保育園に出かけることは楽しみにしているが、やはり本校での交流はより嬉しいようだった。たくさんの友達の前で話したり、色々な友達とかかわったりするよい機会となった。

加納岩保育園での「しっぽとり」

ろう学校での「ボールはこびリレー」

（２）小学部

・１年生は万力公園で一緒に芝滑りをして遊んだり、動物園を見たりしながら交流することができた。ろう学校の児童は緊張気味であったが、積極的に話しかけてくれたり、指文字や手話で自己紹介をしてくれたりする児童が多く、少しずつ輪の中に入ることができた。教員が仲介しながらではあったが共通の好きなものを見つけたり、新しい発見をしたりする様子が見られた。持久走大会では、周りの児童についていこうとする姿も見られた。

・２年生は今年度も「ろう学校訪問」が実施できなかったが、ろう学校の学校紹介動画を

作成し、難聴理解授業の際に山梨小学校の児童に見てもらった。また、一緒に猛獣狩りや伝言ゲームをし、最後にメッセージカードを交換し交流を深めた。Zoom にて国語のオンライン学習も実施し、友達の音読を聞いて感想を発表し合うこともできた。

・３年生は「ふき上がる風に乗って」の題材で、ビニール袋やビニールひもを扇風機で飛ばす活動を行った。山梨小学校の数名の児童が積極的に話しかけてくれ、手話に興味をもってくれたようだった。本校児童は恥ずかしがっている様子もあったが、場を共有したり、ペンの貸し借りをしたり、簡単なやりとりを教師を介してすることができた。

・４年生は令和４年度東山梨小中学校音楽発表会に向けた練習に参加し、発表会当日は TV 撮影も実施し、演奏やボディーパーカッションを一緒にすることができた。撮影後にはレクリエーションを行い、楽しくかかわる様子が見られた。

・５年生はトヨタ自動車工場のオンライン見学をした。コロナの影響もありオンラインという形での実施だったが、質問コーナーでは本校からも質問することができ、一斉授業の雰囲気を味わうことができた。

・６年生は講師を招いて「租税教室」を行った。クイズや映像を交えて、楽しく学習することができた。久しぶりに同級生に会い、１億円の紙幣のレプリカの重さを体験する等親しく交流することができた。またメッセージカードの交換もできた。

・持久走大会では同級生の走りに刺激を受け、意欲を高めることができた。実際に会うことでかかわり、やりとりする場面も見られた。

・交流ふれあい祭りへの参加は直前に中止となったが、メッセージの交換を行った。

６学年交流　「租税教室」

４学年交流「音楽発表会に向けた練習」

（３）中学部

・両校担当で打合せを行い、年間計画を立てる中で、新型コロナウイルスの感染状況をふまえて、行事への参加を中止したり、オンラインや作品鑑賞での交流の機会を設けたりすることを確認した。

・春日居中学校福祉交流委員会約３０名と Zoom を使って交流した。春日居中学校の各クラスとろう学校の各生徒が、トークテーマ（好きなスポーツ、食べ物、ユーチューバー、芸能人、趣味等）に合わせて、順番に発表した。

・７月には「おりづるぷろじぇくと」への誘いを受け、生徒や教員で４８羽の折り鶴を作った。完成品の写真やお礼状、取り組みが掲載された新聞記事等が届き、春日居中学校の生徒とのつながりを感じられた。

・学園祭における交流は中止となったが、教育祭席書き大会の作品の交流と合わせて美術作品の展示も計画し、同年代の生徒の作品を互いに見合い、よい刺激を受ける機会となっている。

オンライン交流

「おりづるぷろじぇくと」への参加

（４）高等部

・新型コロナウイルス感染症対策をしながら、山梨高校生徒会役員と本校生徒との顔合せ会を本校で行った。梨窓祭（山梨高校の学園祭）で紹介する本校紹介ビデオを撮影したり、自己紹介をしたり、簡単なゲームをしたりして親睦を深めた。

・梨窓祭にむけて、学校紹介のビデオの内容を考えたり、旗を作ったりしたことで、高等部としてのまとまりがでてきた。

・３年ぶりに山梨高校に伺って、梨窓祭に参加した。山梨高校が感染症対策や本校の参加の仕方に十分に配慮をしていただいたおかげであった。開会式では本校生徒会長のあいさつや本校生徒による旗の入場等があり、山梨高校の生徒とともに学園祭を行っていることを感じられた。また、実際に会場で参加することで、学園祭の熱気や発表の迫力等を体感でき、生徒たちの感動が大きかった。この体験を本校の学園祭に生かそうという気持ちになったようだった。その後、顔合わせをした生徒会役員が当日の案内をしてくれたため、さらに親近感が深まったようだった。

・梨窓 WALK（山梨高校の強歩大会）では、本校生徒の体力や実態に合わせた参加方法を山梨高校に快く受け入れていただいたため、それぞれの生徒が充実感と達成感をもつことができた。また、走行中に山梨高校の生徒や先生方から声をかけていただいたことも、生徒たちの心に残っている。

顔合わせ会

梨窓祭

梨窓 WALK

５　成果と課題

（１）幼稚部

①成果

・同年齢と接する機会がもてたこと、大きな集団活動を体験できたことは、よい刺激となった。

・大きな集団が苦手な幼児も、活動に加わって少しずつ参加することができた。保育園児に誘われて遊ぶことができたことは本校幼児にとって大きな成長であった。

・本校幼児が、保育園の先生方を誘って遊ぶ様子が見られた。また、本校の幼児と保育園児をつなげるような声かけをしていただき、楽しく活動ができてよかった。今後も継続したい。

②課題

・新型コロナウイルス感染の予防等で、実施方法や内容等の変更があった。実施回数も少なくなってしまった。今後どのような方法、内容がよいのか検討し、よりよい交流ができるようにしていきたい。

（２）小学部

①成果

・オンラインでの授業交流や見学を行い、新しい方法での交流を模索することができた。同年齢の友人の意見や考えを聞くことができる良い学習の機会となった。

・回数が限られていたが子供同士のかかわり合いも見られ、楽しく交流できた。お互いを知る良い機会となった。

②課題

・今後も連絡を密に取り合い、互いに無理のない活動を相談して設定する必要がある。

・コロナ禍においても、感染対策を施しながら交流方法を工夫し、子供同士がふれ合える機会を確保していきたい。

（３）中学部

①成果

・直接的な交流の機会はなかったが、オンラインや自己紹介カードでの交流が、同世代の仲間と互いに刺激し合ったり自己を見つめたりする時間となった。オンラインでの交流は、お互いに相手が理解しやすい方法を考えてやりとりすることができた。

・「おりづるぷろじぇくと」への参加は、春日居中学校の生徒会の取り組みを知る機会となった。

②課題

・交流の成果を高めるために、ねらいを明確にし、双方で共有したうえで、計画的に進めることが重要である。今年度も「コミュニケーション方法」について考えながら交流することをねらいとした。手話以外にも写真やイラスト、文字や文章等さまざまな手段を用いて正しく伝え合うことを意識して取り組んだ。伝わることの感動や楽しさを感じるとともに、同じ中学生であるという認め合いができる交流を今後も続けていきたい。

・新型コロナウイルスの感染状況をふまえながら、オンラインやビデオレター、手紙での交流を計画的に設定し、十分な事前学習や準備を行いながら進めていきたい。

（4）高等部

①成果

・新型コロナウイルス感染症の予防対策を行うことで、直接会っての交流が実施できた。特に、梨窓祭や梨窓 WALK では、山梨高校の様々な配慮のおかげで参加することができた。交流を実施するにあたっては、事前に担当者同士が打ち合わせを丁寧に行ったことで、スムーズな交流と生徒たちの心に残る交流ができた。

・直接会って活動を共にすることで、生徒たちの心に響く活動になった。

・梨窓祭や梨窓 WALK への参加は、交流の機会でしか実施できないことであり、同世代の生徒たちの活動や考えを知ったり共有したりする貴重な機会であるとともに社会参加を考える機会でもある。事前学習や事後学習を通して、期待感を高めたり感じたことや考えたことを文章に残したりすることで、交流の目的に迫ることができた。

②課題

・交流は交流相手校にとっても、聴覚障害を知ったり聴覚障害者とかかわったりする機会になる。交流を通して、聴覚障害について知ってもらったり、聴覚障害者とのかかわりについても知ってもらったりする機会にしたい。また、交流を通して本校の生徒の障害認識が深まると考える。

・知的代替教育課程の生徒が増加しているため、校内での事前学習や事後学習を丁寧に行い、ねらいを明確にした上で交流することが大切である。

・両校の担当教員の事前の打ち合わせを丁寧に行うことで、スムーズな運営ができた。来年度も同様に取り組んでいきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

1　目　的

（1）幼稚部

地域の人たちとの活動を通して、豊かな心を育てる。

（2）小学部

地域の人たちと交流活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。また、地域や社会に目を向ける意識や態度を育てる。

（3）中学部

地域の人たちとの交流活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる

（4）高等部

地域のさまざまな人たちとの活動を通して地域に目を向け、社会経験を豊かにし、社会で

共生していこうとする意欲を養う。

（５）寄宿舎

地域の人たちとの交流活動をとおして、地域に目を向け、社会経験を豊かにし、社会で共生していこうとする意欲を養う。

２　交流先

学　　部	地域交流先
幼稚部	山梨陶磁会
小学部	山梨市立養護老人ホーム「晴風園」
高等部	障害者支援施設山梨クリナース
寄宿舎	大野区ゲートボール愛好会(区長)、手話サークル「ふえふき」

３　実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
幼	5/24	山梨陶磁会	全クラス	人間関係・環境	親子陶芸教室（成形）
	9/1				親子陶芸教室（釉薬がけ）
小	６月	晴風園	全学年	自立活動	メッセージを送ろう
	９月		全学年	自立活動	敬老の日の壁画を送ろう
高	7/1	山梨クリナース	１年	総合的な探究の時間（準ずる教育課程）職業（知的代替教育課程）	勤労体験
寄宿	6/9	手話サークル「ふえふき」	宿泊舎生		自己紹介・レクリエーション（オンライン）
	9/12	大野区ゲートボール愛好会	宿泊舎生		自己紹介・寄宿舎紹介・ゲートボール体験
	1/12	手話サークル「ふえふき」	宿泊舎生		自己紹介・レクリエーション（オンライン）

４　地域交流の様子

（１）幼稚部

・陶芸教室が初めての保護者も作品作りを積極的に行えるように、過去の陶芸教室の様子や作品写真を見てから当日に臨めるようにした。

・事前に、親子で作るものやイメージ、釉薬の色等を話し合ってくるように保護者に伝えた（釉薬の色に関しては、釉薬の種類や色の表を事前に見てもらった）。当日は、講師にイメージを伝え、アドバイスを受けながら作る様子が見られた。

・講師に粘土を切って積み上げていく様子を実際にやって見せてもらったり、途中で子供達の作った作品をどのようにつけていくか等アドバイスを受けたりしながら活動した。
・子供達は粘土の感触を十分楽しみ、保護者も子供達の作った形を生かしながら成形に取り組んでいた。親子で熱中して取り組む様子が見られた。
・釉薬塗りでは、焼くとどのような色になるのか見本を見てから、塗りたい色を選び塗った。重ねて塗ってもよい、塗っていないところもあってもよいことを講師から聞き、親子で楽しんで塗る様子が見られた。
・当日都合により出席できない家庭があったため、別日にも講師に来ていただき、作品作りを行うことができ、ありがたかった。

最後に講評を頂きました

アドバイスを頂きながら色々なものを作りました

（２）小学部

・年度初めに小学部児童全員がメッセージを書き、６年生が学校の代表として届けた。コロナ禍でなかなか直接会っての交流ができないので、「早く会いたいです」「一緒にゲームをしたいです」の言葉が多く書かれていた。晴風園の方は２名の対応で、笑顔で迎てくれ、訪問を楽しみにしていてくれた。
・敬老の日の訪問は今年も実施せず、秋の壁画を全員で作り、代表の児童が届けた。児童は自分が頑張っていること等も伝え、入所者の方から、応援の言葉をもらう等、やり取りすることができた。

年度初めの訪問

（３）高等部

・１年生が山梨クリナースで勤労体験を行った。クリーニング作業では、大きな機械を使った浴衣とシーツの作業や、タオル等の小さなものをたたむ作業に分かれて体験を行った。利用者さんや支援員さんに仕事のやり方を教えてもらいながら、一緒に作業することで交流ができた。生徒の中には、クリーニング機械に興味をもち、自分から支援員さんに質問をする生徒もいた。暑い中での仕事の大変さを実感していた。
・事後学習で、お礼状を送付した。

クリナースでのクリーニング作業

（4）寄宿舎

・感染症対策に留意しながら、３年ぶりに、大野区にあるゲートボールチーム『オール大野』の方たちと交流会を行った。自己紹介と寄宿舎紹介をした後、オール大野の方々に教えていただきながらゲートボール体験を行った。

・手話サークル「ふえふき」との交流は年２回行った。感染症対策のため、２回ともオンラインで行った。

・第１回は交流会の内容を寄宿舎が企画し、自己紹介とレクリエーションを行った。手話しりとりや、互いに手話表現を揃える『以心伝心ゲーム』を行った。第２回は手話サークルの方が企画、運営をし、自己紹介とレクリエーションを行った。冬に関する手話単語を自分で選び、その単語を使って文章を考え発表し合った。

ゲートボールチーム「オール大野」の方たちと

手話サークル「ふえふき」とのオンライン交流の様子

5　成果と課題

（1）　幼稚部

①成果

・山梨陶磁会の指導による「親子陶芸教室」は２４年目となる。親子でかかわりながら、幼稚部段階の子供の豊かな発想を大切にして自由な作品作りが楽しめる場となっている。活動が難しい陶芸であるが本校にはその施設設備があるのでこれを活用し、さらに専門家から教えていただく貴重な機会でもあるので今後も継続していきたい。

・初めて作品作りを行う保護者には、事前に陶芸教室の様子や作品写真、釉薬の種類の表を見てもらうことで、イメージ作りに役立ったと思われる。また、毎年行うことによって子供達も保護者も見通しがもて、自分の作りたい物を考えて参加するようになっている。

・感染症対策のため、なるべく道具の共用を避けるようにした。また、密を避けるために、２グループに分けて各グループ５０分程度で実施した。感染症対策に気をつけながら、安心、安全に実施することができた。

・陶芸釜の使用マニュアルを見ながら、本校職員でスムーズに素焼き、焼成ができた。トラブル（割れ、脱落等）についても講師にアドバイスをいただき対応できた。

・山梨陶磁会の方からは、イメージ、想像力が豊かな作品が多く、この年齢でしか表現できない作品に、とても感動したと評価をいただいた。

・講師の先生より「陶芸作品は時間を形として残せるものである」という話があった。その時の子供達の様子を書き入れておくと、後でその作品を見た時、その年に戻ることができる。幼少期に作品を作り残しておく、ということを言い伝えていきたい。

②課題

・昨年度から少しずつ取り組んでいるが、釉薬の塗り方の工夫や作品をつくる際に割れないようにするための留意点等について講師から話を聞き、それを記録に残し、引き継いでいく。

・陶芸による交流が継続しスムーズに行われるようにするために、施設、設備等の維持管理、材料・道具等の補充をしていく。

・感染症対策により活動時間を制限しているため、今年度も作品発表を実施しなかった。来年度以降は、状況を見ながら終わりの会で、1 人ずつ自分の作品を発表する機会を設けることも取り入れていきたい。人前で表現するよい機会となっているので実施していけるとよい。

（2） 小学部

①成果

・コロナ禍のため全員で晴風園を訪問することはできなかったが、これまで交流してきた児童はメッセージを書いたり、届けたりすることを楽しみにしている様子があった。また、晴風園の皆さんも笑顔で迎えてくれ、児童とのつながりを感じた。

②課題

・メッセージカードや壁面を制作したが、低学年はまだ晴風園へ訪問したことがなく、イメージがあまりもてていない様子なので、直接かかわることができる交流が実施できるとよい。

（3） 高等部

①成果

・勤労体験を通して利用者さんや支援員さんと交流することで、色々な障害を知ったり、色々な方とのコミュニケーション方法を考えたりする機会になった。また、福祉事業所の仕事を知る機会にもなった。勤労体験をとおして、自分の適性等を考える機会にもなった。

・1 年生が働くことを知る機会としては、とても有効であった。事後学習として、活動内容や感想をまとめた。

②課題

・担当者が事前に、仕事の内容や作業時間等を丁寧に打ち合わせたことで、スムーズな交流ができた。引き続き同様に取り組んでいきたい。

（4） 寄宿舎

①成果

・大野区ゲートボール愛好会の方々との直接的な交流は３年ぶりであったため、ほとんどの舎生にとっては初めてのゲートボール体験であったが、みな夢中になってボールをゲートに通そうと試み、あっという間に時間が過ぎて終了時間となってしまった。寄宿舎紹介やゲートボール体験を通じて、お互いを知り合う機会となった。

・手話サークルとの交流会では、第１回目に行ったレクリエーションの『以心伝心ゲーム』において、相手がどんな表現をするのか想像したり、オンライン上ではあったが喜んだり残念がったりする様子が見られ、楽しみながら交流を深めることができた。第２回目に行ったレクリエーションでは、サークル員の方の発表に対し、笑ったりうなずいたりする様子があり、終了時にはオンラインミーティングを終了する直前まで手を振る様子が見られた。今年度はオンラインではあったが、交流会を重ねてきたことで、サークル員の方たちを身近に感じているようだった。

②課題

・今年度、大野区の方々と３年ぶりに直接的な交流会を行うことができ、実際に会って話をすることで、お互いのことをより知ることができると感じた。今回は自己紹介と寄宿舎紹介を行ったが、次回は自己紹介の仕方を工夫し、ろう学校にどのような生徒が在籍しているのかを知ってもらう機会としたい。また、交流の時間ももう少し長く設定できるとよいと感じた。今後も新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら大野区の方と連絡を取りあい、舎生の人数や実態に応じた内容を検討していきたい。

・長年、交流を積み重ねてきた手話サークル「ふえふき」との交流会は、今年度初めてオンラインで行った。文字情報の提示の仕方等、１回目の反省を受けて２回目を行うことができた。今後も感染症の状況によってはオンラインでの交流になる可能性もあるので、画面上であってもお互いに十分理解し合えるように工夫していく必要がある。

・サークルの広報誌に交流会の様子や感想が掲載された。今後も密に連絡を取り合い、感染症対策をしながらも、ねらいに沿った計画を立て、充実した交流内容となるよう提案をしていきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

居住地校との交流及び共同学習を通して、児童生徒の経験を深め、社会性を養い、居住地での好ましい人間関係を形成し、その能力と可能性を最大限に伸ばして社会生活への円滑な移行を図るための基礎を養う。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部５年	山梨市立山梨小学校	9	国語(書写)、算数、英語、朝の会に参加した。

小学部５年	甲府市立里垣小学校	6	国語、算数、社会、理科、朝の会に参加した。
小学部５年	忍野村立忍野小学校	9	国語、算数、社会、理科、体育等終日参加した。クラブ活動も行った。
小学部４年	南アルプス市立豊小学校	2	算数、体育、英語、図画工作、朝の会に参加した。

３　成果と課題

①成果

・朝の会や授業（算数、体育、英語、図画工作）に参加し、友達と楽しく交流ができた。

・一斉授業でたくさんの友達がいる雰囲気を感じられる良い機会となった。友達から声を掛けてもらい、やりとりする様子が見られた。

②課題

・回数を重ねることで、友達とも打ち解けられると思われる。

・日程等変更があっても、予定した実施回数ができるよう今後も連絡を密にしていく。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立甲府支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立甲府支援学校
所 在 地	〒４００－００６４　山梨県甲府市下飯田２－１０－３
電話番号	０５５－２２６－３３２２
校 長 名	佐田　弘和
交流及び共同学習主任名	清水　亜希子

２　学校教育目標

○健康で心豊かな人
○自ら感じ、考え、表現する人
○認め合い、伝え合い、助け合う人
○自立に向けてあゆむ人

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　属・職　名	備　考
1	甲府市池田地区自治会連合会・会長	副会長
2	甲府市新田地区自治会連合会・会長	会長
3	池田地区シニアクラブ連合会・会長	副会長
4	池田おやなぎ連・会長	
5	甲府市立池田小学校・校長	
6	甲府市立新田小学校・校長	
7	甲斐市立敷島中学校・校長	
8	山梨県立甲府城西高等学校・校長	
9	山梨県立甲府支援学校・PTA 会長	
10	山梨県立甲府支援学校・校長	

２　経過

開催時期	内　容
５月	今年度の計画について　（紙面開催による）
２月	今年度の活動報告について（紙面開催による）

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を実施することにより、
（１）児童生徒の経験を広め、積極的に活動する態度を養う。
（２）児童生徒の社会性を養い、豊かな心をはぐくむ。
（３）互いを理解し合い、共に学び高め合う機会を持つ。

【各学部の目的】

（１）小学部
①大きな集団やたくさんの友達と活動し、新しいことを体験したり学んだりする。
②自分からかかわろうとしたり、自分の気持ちを表したりする。

（２）中学部
①経験を広めると共に、新しいことを学んだり挑戦したりする。
②同世代の生徒たちの考えに触れ視野を広げると共に、自分の考えを表現する。

（３）高等部
①いろいろな活動をすることで経験を拡大し、社会性を育て主体的に行動する力を身につける。
②同世代の生徒たちの考えや行動に触れ自分の考えを表現したり、自分を見つめ直したりする。

２　基本方針

（１）共に学び合い、共に育ち合う場となるような交流及び共同学習を目指して、その方法や内容などを両校職員の共通理解のもとに探っていく。
（２）お互いが共に学習することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。
（３）校内だけでは体験できない活動を設定できる場として、交流及び共同学習の内容について両校職員で創意工夫していく。
（４）両校児童生徒の変容、成長等を把握し、児童生徒のねらいに対する評価を交換し合う。

３　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	甲府市立池田小学校、甲府市立新田小学校
中学部	甲斐市立敷島中学校
高等部	山梨県立甲府城西高等学校

４　実施内容

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	10/5	甲府市立 池田小学校	3 年生	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活、総合的な学習の時間	交流会 ・池田小学校の各学年と本校の学年ごとの交流会を実施（オンラインで行う）
	10/12		2 年生		
	10/13		1 年生		
	7 月～ 11 月		4～6 年	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活、総合的な学習の時間	・自己紹介カード、ビデオメッセージ等交流 ・学年毎活動交流（共同作品の交換、教科学習紹介動画の交換、オンライン交流）
	11/19		全学年	自立活動 図画工作、生活	甲養祭展示発表での作品交流
	5 月	甲府市立 新田小学校	全学年	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活	自己紹介カード、ビデオメッセージによる交流 共同作品の交換

	5/16				第１回新田小児童と本校教員との話し合い活動
	5/31		全学年	自立活動 生活、音楽、体育、国語、図画工作	第１回交流会 新田小の各班と本校の学級ごとオンラインでの交流
	10/3				第２回新田小児童と本校教員との話し合い活動
	10/18		全学年	自立活動 生活、音楽、体育、国語、図画工作	第２回交流会 新田小の各班と本校の学級ごとオンラインまたは直接交流
	11/19		全学年	自立活動 図画工作、生活	甲養祭展示発表での作品交流
中	7/7	甲斐市立 敷島中学校	全学年	自立活動 特別活動	第１回交流会 敷島中学校１年生と本校との直接またはオンラインでの交流
	11/19		全学年	自立活動 美術	甲養祭展示発表での作品交流
	12/8		全学年	自立活動 音楽、美術	第２回交流会でのオンライン交流
高	4/28	山梨県立 甲府城西 高等学校	全学年	自立活動 美術	甲府城西高へ贈呈する応援旗製作、贈呈
	11/19		全学年	自立活動 美術	甲養祭展示発表での作品交流
	11/28		全学年	自立活動、音楽	交流音楽集会

５　学校間交流の様子

（１）小学部

①池田小学校との交流及び共同学習

６月には学年代表の教員が集まり、今年度の交流についての話し合いを行った。１～３年生は１度も直接会っていないことから、直接交流の方法を探ったが、実施時期が感染症の流行期と重なってしまったため、Zoom での間接交流に切り替えた。

１年生はゲームや歌遊び、２年生は運動会のダンス紹介（池田小）や○×クイズ、３年生は学校紹介を兼ねた４択クイズ、４年生はダンスや歌、楽器の演奏を行った。５年生は、本校の児童から「ハッピージャムジャム」の表現や体験学習の様子を発表した動画を送った。池田小学校からは運動会の様子の動画をいただき、視聴した。６年生は互いに貼り絵を作成し、リモートで交換会を行った。

②新田小学校との交流及び共同学習

昨年度はビデオ交換の間接交流を２回実施したが、今年度はリモートでのオンライン交流を２回実施した。事前に本校の担当職員と新田小学校の５年生児童で交流内容について打ち

合わせを行った。当日は、本校の学習集団ごとに５つのグループ分けをして行った。１回目の交流では、自己紹介をしたり、クイズを出し合ったりした。２回目の交流では、画面を見ながら、かくれんぼをしたり、新田小学校の運動会のダンスを見て応援したりした。また、輪投げの道具をプレゼントしてもらい、交流の際に説明してくれた遊び方で後日、輪投げ遊びを楽しんだ。リモートで同じ時間を共有し、同世代の児童と互いに反応を見ながら会話をする貴重な体験ができた。

（２）中学部

第１回目は、GoogleMeet でオンライン交流を実施した。敷島中学校からは６月に実施した林間学校について作成した新聞の発表、本校からは中学部２年生が実施した校外学習についての報告を発表した。また、「サイコロトーク」というサイコロを投げて質問をし合うゲームも実施した。サイコロに書かれた質問に答えることで、互いを知ることができた。

第２回目も同様に GoogleMeet を利用してオンライン交流を実施した。敷島中学校からは、敷島中学校の学園祭である『年輪祭』で発表した合唱、本校からは体育で取り組んできた「ソーラン節」の演舞を、それぞれ発表した。第１回目で盛り上がり、生徒間のリクエストもあった「サイコロトーク」を実施し、有意義な時間を過ごすことができた。

オンラインでの交流では直接声を掛け合い、時間を共有することができた。

（３）高等部

今年度も高校総体に向けて、甲府城西高校の壮行会に使用していただく応援旗を制作した。美術・造形の授業で３枚の応援旗を制作し、教師が届けた。

本校の学園祭『甲養祭』に城西高校の生徒の作品を展示した。甲養祭期間中に高等部生徒が作品を鑑賞し、感想やお礼のメッセージを作成して城西高校に届けた。

例年行っている本校と盲学校、甲府城西高校の３校合同音楽集会は本年度も感染症対策のため、ビデオでの鑑賞とした。ビデオには甲府城西高校の学園祭の様子（合唱部、吹奏楽部の発表の様子）が収録されており、音楽の学習グループごとに鑑賞した。鑑賞後には本校の音楽の授業の様子を撮影し、ビデオにまとめて届けた。

インターアクト部との交流では、今年度は自己紹介カードを交換した。その後好きなものや得意なことなどの情報交換をし、それをもとにカードを作り交換した。自己紹介カードの交換により、互いを知るきっかけを作ることができた。

６　成果と課題

（１）小学部

①池田小学校との交流及び共同学習

一昨年は感染症のため、交流活動が全く実施できなかった。昨年度は動画の交換という間接交流を実施したが、直接のやり取りができず、難しさを感じることもあった。今年度はリモート交流を取り入れて行った。実際に会うことでしか感じられないことも多く、リモート自体の難しさもあるが、その場でやり取りを行うことができ、直接やりとりをする臨場感も感じられた。また、直接交流と間接交流の両方を予め計画しておくことで、感染症の状況に応じてすぐに切り替えて対応することができた。来年度は全学年で、直接交流を基本にしながら、感染症の状況で間接交流に切り替えて行っていきたい。リモート交流では音声の聞き取りにくさも反省にあげられたので、回線やマイクの使用などよりよい準備が必要である。

本校の小学部では実態別のグループで通常は活動を行っている。池田小学校との交流は学年ごとに実施しているため、普段は行っていないグループでの活動になるため難しさはある。しかし、学習活動全体を通して、学年が上がるにつれて年齢を意識した活動も増えていくため、児童が学年を意識できる数少ない活動の場となっていると考えられる。

②新田小学校との交流及び共同学習

リモートでの打ち合わせでは、当日の活動内容について細かく話し合えず、スムーズに話し合いが進行しない場面もあったが、本番と同じように各児童の映し方や教材の映し方を検討することができた。１回目の交流ではリモートがつながらない不具合があり、調整して後日短時間の交流となった。小学校と支援学校でオンライン時に使用するソフトが違うため、繋がりにくさがある。２回目の交流では１回目の反省を生かしてポケット Wi-Fi を使用することで、円滑に接続することができた。

感染症の状況に応じて、直接交流も検討していきたいが、オンラインを有効に活用し、有意義な交流の方法を模索していきたい。

（２）中学部

今年度は２回のオンラインでの交流を行った。ビデオ交換などの間接交流に比べて、直接声を掛け合ったり、同じ時間を共有したりと対面交流に近い形で交流することができた。前日に機器の設定などリハーサルを行うなどし、当日はスムーズに行うことができた。しかし、会の途中でトラブルが起こることもあり、事前にトラブルを想定して対処方法を調べておくことや機器の調整を十分に行っておくことが今後の課題である。

感染症の状況に応じて、オンラインを有効に活用し、有意義な交流の方法を模索していきたい。

（３）高等部

同世代の生徒の作品や学園祭での様子を見ることで、いろいろな活動に取り組んでいることが分かり、本校の生徒にとって良い刺激になった。今年度の交流はビデオや自己紹介カードの交換などの間接的な交流であり、直接生徒同士の交流ができなかったため、相手を意識できるような活動内容を検討すると良かった。感染症の状況により、直接交流が難しいと想定され、来年度も同様に間接交流を予定している。本年度の課題を検討し、間接交流であっても、互いの顔が見えるような交流、相手を意識できる交流を計画・実施していきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）交流を通して、児童生徒の経験を広げ、自己表現できる豊かな人間性を育てる。

（２）地域社会の方々に、学校や児童生徒の様子を理解してもらい、共に生きていくことの大切さを学び合う場とする。

２　基本方針

（１）交流及び共同学習を計画的、継続的に実施するために、学校や地域の関係団体（関係機関）等の関係者によって構成する連絡組織を設ける。

（２）お互いが共に活動することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。

（３）児童生徒の実態を踏まえ、一人一人が充分に力を発揮でき、成長できる活動が行えるよう創意工夫する。

（４）児童生徒の変容、成長等を把握し、地域の方々にわかりやすく伝えながら、その意義を認め合いかかわりが深まるようにする。

３　交流先

学　　部	地域交流先
中学部	池田地区シニアクラブ連合会女性部
寄宿舎	池田地区シニアクラブ連合会
全学部	池田おやなぎ連　　池田地区文化協会　　新田地区文化協会

４　実施内容

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
寄宿舎	7/8	池田地区シニアクラブ連合会	全舎生	舎生会活動	夏まつり
	1 /16	池田地区シニアクラブ連合会	月曜日舎生	舎生会活動	新年お楽しみ会
全学部	11/19	池田おやなぎ連	全学年	自立活動音楽	甲養祭でお囃子演奏(予定)（演奏、体験、鑑賞など）
	10 月	池田地区文化協会	該当学部	自立活動図画工作美術	池田地区文化祭作品展示
	11 月	新田地区文化協会	該当学部	自立活動図画工作美術	新田地区文化祭作品展示

５　地域交流の様子

（１）　寄宿舎

７月８日の夏まつりに池田地区シニアクラブから５名の方に参加いただき、新型コロナ感染症のため中断していた直接交流を３年振りに実施することができた。「玉入れゲーム」や「魚釣りゲーム」、「よっちゃばれ」を踊って交流を深めることができた。

１月１６日には、２回目の地域交流会として新年お楽しみ会へ７名の方に参加をしていただき実施した。正月遊びをアレンジして「風船羽子板」「福ねらいボッチャ」をグループに分かれ活動し、楽しい時間を共有でき交流を深めることができた。

（２） その他

甲養祭では、例年「おやなぎ連」による太鼓の演奏や作品の展示による交流を行っている。しかし、今年度も感染症対策により、「おやなぎ連」による太鼓の演奏は実施できなかった。作品交流では、学校間交流を行っている全ての相手校と地域の文化協会の方々から作品を借用し、展示発表を行った。昨年度と同様に協会員の方の見学はできなかったため、展示終了後に展示の様子の写真を送付した。

池田地区文化協会による池田地区文化祭は開催されたが、会員のみの作品展示だったため、本校からの作品展示はしなかった。新田地区文化協会による新田地区文化祭が開催され、本校の生徒の作品を出展した。甲養祭の展示会場を開放することはできなかったが、地域の方に本校の生徒の作品を見ていただく機会ができた。

６　成果と課題

感染症の影響により、令和２年度から３年度は直接交流の中止が続き、池田地区シニアクラブとの関係が希薄になっていたが、直接交流ができてよかった。直接交流を実施するうえで、感染症防止対策を保健部と確認し、距離を保つような活動内容を考えたり、道具を共有しないように数を用意したりと準備は大変だったが、必要な対策を講じることができた。来年度も十分な感染症対策を講じて、直接交流を行っていきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住地の児童生徒と相互に理解を深めることを目的とする。

（２）その後の地域における直接的、間接的交流に発展することを目指す。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部２年	甲府市立国母小学校	3	自己紹介カードの交換 生活科の授業に参加 振り返りのメッセージ 「甲養祭」のポスター配付
小学部４年	甲州市立塩山南小学校	1	体育の授業に参加 「甲養祭」のポスター配付
小学部４年	山梨市立加納岩小学校	1	学年集会に参加 「甲養祭」のポスター配付
小学部５年	甲府市立甲運小学校	1	「甲養祭」のポスター配付 手紙の交換
小学部５年	甲府市立羽黒小学校	1	音楽の授業に参加 「甲養祭」のポスター配付
中学部２年	甲斐市立竜王中学校	1	「甲養祭」のポスター配付

３　成果と課題

今年度は６名の児童生徒が居住地校交流を行った。そのうち４名が交流校と直接交流を行い、２名は間接交流を行った。

直接交流を行った児童は、交流校の教師や友達に温かく迎え入れてもらい、友達に声をかけられると嬉しそうに笑顔を見せる様子もみられた。直接会うことで、居住地の友達とかかわる機会ができ、貴重な経験ができた。一方で、活動内容の理解が難しかったという課題もあるた

め、活動内容や参加の仕方など事前の打ち合わせを十分に行う必要がある。学年集団への参加が難しい場合は、支援学級との交流を計画してはどうかという意見も出ている。

間接交流を行った児童は、自己紹介カードや甲養祭のポスター、手紙を渡した。交流校では、これらを掲示してくれたり、返事の手紙を郵送してくれたりし、交流を深めることができた。児童も「会いたい」という思いがあり、今後は直接交流も検討していきたいと考えている。

上記のように、今年度は、感染症対策を講じながら直接交流を行うことができたケースもあった。居住地校交流は、児童生徒の居住地でのつながりを作っていくために大切なことである。今後の感染症の状況を踏まえながら、交流方法を模索し、居住地校交流を継続していきたい。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立あけぼの支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立あけぼの支援学校
所 在 地	〒４０７－００４６　韮崎市旭町上條南割３２５１－１
電話番号	０５５１－２２－６１３１
校 長 名	小田切　一博
交流及び共同学習主任名	谷川　良寿

２　学校教育目標

「いきいきと」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大限に引き出す教育を行う。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所属　・　職名	備　　考
1	山梨県立あけぼの支援学校　教育振興会会長	顧問
2	山梨県立あけぼの支援学校　校長	会長
3	韮崎市旭町上條南割地区　代表区長	副会長
4	韮崎市立甘利小学校　校長	副会長
5	韮崎市旭町上條南割地区　次年度代表区長（久保区長）	委員
6	韮崎市旭町上條南割地区　老人会会長	委員
7	韮崎市福祉課　課長	委員
8	富士川町立増穂南小学校　校長	委員
9	韮崎市立韮崎西中学校　校長	委員
10	甲府市立甲府商業高等学校　校長	委員
11	学校法人日本航空高等学校　校長	委員
12	山梨県立韮崎工業高等学校　校長	委員
13	山梨県立あけぼの支援学校　ＰＴＡ会長	委員
14	あけぼの支援学校　教頭　教務主任　交流及び共同学習係	事務局

２　経過

開催時期	内　　容
６月上旬	一堂には会さず、前年度の地域交流・学校間交流紹介、今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流・交流及び共同学習推進会議開催についてなどの資料を送付し、アンケートにて質問・意見をうかがう。
２月中旬	一堂には会さず、今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流の活動報告、来年度の交流及び共同学習推進会議についてなど資料を送付し、アンケートにて質問・意見をうかがう。

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）本校の目標

①小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して児童生徒の経験を広め、社会性を育み、豊かな人間性を養う。

②児童生徒のふれあいを通してお互いの存在を理解し、大切にしていこうという気持ちを育てる。

（２）小学部

①同年代の児童との活動を通して、雰囲気を感じて自分の意思や感情を表現することができる。

②日頃の活動を生かした交流及び共同学習を行いながら、お互いの理解やかかわり合いを深める。

（３）中学部

①同年代の生徒との活動を通して経験を広め、また他校の生徒達の考え方等に触れて視野を広げる。

②日常の学習活動や生活とは異なる集団活動の中で、かかわりや刺激を受け止め、生徒自身の意思や感情を表現できるようにする。

（４）高等部

①他校の生徒と活動する機会を通して経験を広め、社会性を育てる。

②同世代の生徒達との活動を通してお互いを理解し合い、他校の生徒達の考え方等に触れることで、自分の生活を振り返る。

③交流及び共同学習会の雰囲気を感じ、他校の生徒からのかかわりに、自分なりの表現で応じることができるようにする。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	韮崎市立甘利小学校（５年生）、富士川町立増穂南小学校
中学部	韮崎市立韮崎西中学校（福祉ボランティア委員）
高等部	甲府市立甲府商業高等学校（インターアクトクラブ）、 学校法人日本航空高等学校（国際クラブ）
学校全体	山梨県立韮崎工業高等学校（木材加工班）

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6/22	富士川町立 増穂南小学校	小全員	自立活動 道徳科 特別活動	作品の交換 オンラインによる交流（自己紹介、作品の説明等）
	11/4	韮崎市立甘利小学校 （５年生）	小全員	自立活動 道徳科 特別活動	作品の交換 オンラインによる交流（自己紹介、作品の説明等）
中	7/1	韮崎市立韮崎西中学校 （福祉ボランティア委員）	中全員	自立活動 道徳科 総合的な学習の時間	オンラインによる交流（自己紹介、歌、ゲーム等）

高	6/14	甲府市立 甲府商業高等学校 （インターアクトクラブ） 学校法人 日本航空高等学校 （国際クラブ）	高全員	自立活動 道徳科 総合的な 探究の時間	プロフィール票の交換、ビデオレターの交換による間接交流
	12/8	甲府市立 甲府商業高等学校 （インターアクトクラブ） 学校法人 日本航空高等学校 （国際クラブ）	高全員	自立活動 道徳科 総合的な 探究の時間	オンラインによる交流（クイズ、歌等）
全校	6/15	山梨県立 韮崎工業高等学校 （木材加工班）	対象学部 学年	自立活動 道徳科 特別活動 総合的な 学習の時間	オンラインによるグループ交流（自己紹介、質問タイム等）
	1/16	山梨県立 韮崎工業高等学校 （木材加工班）	対象学部 学年		教材受け入れ式 オンライン交流

４　学校間交流の様子

（１）小学部

本年度の交流も感染症蔓延防止のため、オンラインによる交流会の実施となった。

６月２２日（水）に増穂南小学校全校児童と Teams によるオンライン交流を行った。増穂南小学校の児童からは、全校で取り組んでいる合唱や本校児童へのメッセージ、本の読み聞かせ、劇など、コロナ禍で会えない友達を思う優しさが感じられた。本校児童は、名前を呼ばれると映像をよく見て笑顔になったり、歌に合わせて教師と一緒に体を動かしたり、自分からたくさん質問をしたりして活動をする様子が見られた。１年生から交流を継続することで、友達の顔や声を覚え、お互いに親しみを持って活動をすることができた。今年度は Teams 内で会議室を複数立ちあげることで、児童同士の交流の時間を昨年度よりも長く確保することができた。

１１月４日（金）に甘利小学校５年生と Teams によるオンライン交流を行った。事前に本校教員が行った福祉講話をもとに、甘利小学校の児童が自分達でおもちゃを考えて作成してくれた。太鼓やマラカスなどの楽器、本校児童の好きなゲームのおもちゃやアクセサリーなど、思いのこもったプレゼントを頂いた。当日のビデオ通話では、甘利小学校児童からのおもちゃの紹介、本校児童からは自己紹介とお礼、おもちゃを使っている様子、あけぼの支援学校や授業の紹介等を行った。甘利小学校の児童からは、自分たちと同じ点や違う点などに興味を示し、たくさんの質問が挙げられ、お互いのことをよく知ることができた。交流が終わった後も、「〇〇さん達が作ってくれたんだ。」「いつか、〇〇さん達と一緒に、このおもちゃで遊びたいな。」と言いながら、笑顔いっぱいでおもちゃを使って遊んでいる様子が見られ、おもちゃを通じて交流相手の友だちを意識することができた。甘利小学校の教員からは、「実際に会うことはできなかったが、計画、作成とあけぼのの友達のことをゆっくり考えることができてよかった。」「実際に会いたくなったという児童がたくさんいる。」という言葉を頂いた。直接ふれあう交流はできなかったが、お互いのことを思いやり、両校児童にとって充実した交流ができた。

（２）中学部

韮崎西中学校福祉ボランティア委員会の生徒２６名との交流会は、７月１日（金）に行った。６月中旬までに自己紹介の動画撮影や自己紹介カードの交換を行う等の準備を行った。本校の生徒は、カードから自分のグループの友達はどんな人か意識して好きな事や好きな音楽を調べたり、活動内容を考えて選んだりする等の様子が見られた。３年ぶりの直接交流を予定していたが、直前に両校でコロナウイルス感染者が確認されたため、Zoom によるオンラインでの交流会の実施となった。両校それぞれ５グループに分かれ、「ジェスチャーゲーム」から始まり「今話題のこと」「ジャンケン質問ゲーム」「流行りの楽曲」「楽器の合奏」など各グループの生徒達の実態に合った、一緒にできる活動を行った。ゲームではお互いが真剣になり、話は尽きることなく、音楽を楽しむ様子が見られた。両校生徒共にリアルタイムで声を掛け合いながら笑顔溢れる交流になった。

（３）高等部

６月の甲府商業高等学校、日本航空高等学校との３校間で行う第１回目の交流会は、感染症蔓延防止のため間接交流で行った。第１回の間接交流では、毎年交換しているプロフィール表を交換し、本校高等部棟の廊下に掲示をした。また、9 月のメッセージビデオでは相手校の学校紹介ビデオを見たり、本校の学習活動の様子を送ったりした。あけぼの祭には各校から活動紹介のポスターをお借りして高等部棟の廊下に掲示した。第２回の交流会は、３校で Teams を使い、オンラインでの交流を行った。本校①②グループはクイズなどを行い、互いにやり取りを楽しむことができた。本校③④⑤⑥⑦グループはその場で画面を通したやりとりが難しいため、学習の様子を記録し、動画で発表した。甲府商業高等学校からは、ダンス部の発表があり、画面にダンスの様子が映し出されると視線を向ける様子が見られた。日本航空高等学校からは、国際クラブの野外活動の様子を紹介する動画の発表があった。他の２校の生徒からの質問に答えるなど、言葉でのやり取りを行ったり、互いの様子を見合ったりすることが出来た。本校の生徒達は、普段関わることがない他校の生徒達の様子を見ることができ、互いの活動に感想を伝え合うなど、とても良い刺激になった様子だった。

（４）韮崎工業高校との交流

韮崎工業高等学校とは、毎年本校の児童生徒が使う教材の製作を通した交流を行ってきた。今年度は、小学部がキャスター付きキーボード台、中学部が移動式の棚、キャスター付きキーボード台、テレビ台、パソコン台を依頼した。６月１５日（水）に予定していた授業交流は感染症蔓延防止のため直接交流を中止し、オンラインで両校つないで実施した。両校を３つのグループに分け、自己紹介や質問タイムで盛り上がった。韮崎工業高校の生徒から教材作成の様子を説明してもらったり自己紹介やクイズをしてもらったりすると、映し出されている画面の方に視線を向ける様子が見られた。本校からはこれまでに頂いた教材の紹介や児童生徒の自己紹介や質問タイムを通じて、教材作製をしてもらう子供達の様子を知ってもらう機会とすることができた。

１月１６日（月）には、両校をオンラインでつないで教材教具受け入れ式を実施した。事前に本校の職員が韮崎工業高校に赴いて教材を受け取り、当日は作成依頼のあった各学習グループの教室に教材を渡した上で韮崎工業のみなさんと Teams でつながり、教材作成上の工夫点などを聞いたり、感謝の気持ちを伝えたりした。実際に対面してやり取りすることはできなかったが、画面を通して話を聞いたり、教材を活用している場面を見せたりすることができ、児童生徒達も喜んでいる様子であった。

５　成果と課題

（１）小学部

増穂南小学校とのオンライン交流では、事前学習として４年生に向けてオンラインで福祉講話を行った。本校児童の様子や授業内容について話をする中で昨年度の交流をよく覚えており、毎年継続して交流することの意義を実感した。今年度は、「合理的配慮」について取り上げた。ICF の内容に触れ、具体例を多く挙げながら、環境調整によって活動制限がなくなったり緩和されたりすることがあるということを伝えた。人数が２人であったため分からないことや疑問に思ったことについてすぐに対応することができ、比較的難しい内容でもしっかりと理解することができたと、増穂南小学校の先生から意見を頂いた。交流会当日は、ブレイクアウトルームを活用することでグループの活動時間を昨年度よりも多く確保することができた。今後直接交流が可能になった場合には、オンライン交流を事前学習として活用しアイスブレイクの場として活用することも検討していきたい。

甘利小学校５年生とのオンライン交流でも、ブレイクアウトルームを活用したことで、各グループの活動時間を十分に確保することができた。事前の福祉講話をもとに甘利小学校の児童が教材を作成することで、交流相手のことを考える時間が十分に取れたという話を甘利小学校の教員から伺った。また、自分のために作ってくれたおもちゃであったため、どの児童もとても喜んでいた。直接ふれあうことはできないが、互いに声を掛け合ったりおもちゃを通して相手のことを感じたりすることができた。今年度は、質問内容を事前に考えるのではなく、児童がその場で考えて質問し合うという方式を１つのグループで取り入れた。甘利小学校の児童からは、車いすや普段の生活で大変なことなど、気になることや疑問に思うことが聞かれた。あけぼのの児童も質問に対して、自分の言葉で答え、主体的で対話的な交流が見られた。児童の実態や目標に合わせて、グループ毎に工夫をすることで、同じ活動でもそれぞれの児童に合った学習活動を行うことができた。課題としては、本校児童がおもちゃを受け取って終わりという交流にならないように、事前事後学習に力を入れていきたい。具体的には、事前学習でオンライン交流を活用し、期待感を持てるようにしていきたいと考える。

（２）中学部

韮崎西中学校とのオンラインでの交流では、昨年度に続き２回目のビデオ通話でのやり取りを通して、リアルタイムでの他校の同年代の生徒の様子や考えに触れることができた。また、昨年度交流時間が短かった反省を踏まえ、事前に交流相手の情報を確認することで自己紹介の時間を少なくし、活動する時間を増やすよう心掛けた。また相手校から最大２台の PC でのやり取りが可能という状況を受けて５グループを２チームに分けて時間差で行い、交流時間を長く確保することもできた。しかし、直接交流で行っていた全体交流はできなかったので、今後は相手校とも相談する中で、オンラインになった場合には PC の台数を増やすことや、本校のグループを２グループにして活動することなど、限られた時間を有効に使える方法を模索していく必要がある。

交流会の様子から、本校生徒は自身の意思や感情を豊かな表情や言葉、身体の動きで表現することができた。相手校の教員からは、自校の生徒があけぼの支援学校の生徒とのオンラインによるビデオ通話でのやり取りをとても楽しんでいた等の話を伺った。相手校の生徒も本校生徒のことを理解してもらう機会となったのではないかと考えている。

今後、交流をさらに深める視点で考えると、今年度も実施した自己紹介カードの交換や自己紹介動画を引き続き実施しながら、相手を理解した上で、感染状況によってさまざまな形での交流を考えていくことが大切である。間接交流になった場合には、本校に来校できないため本校の施設の紹介を本校の生徒が動画で事前に紹介する等、理解を深めるための手立てを模索・実施していく。またオンラインによる交流会では、ビデオ通話を利用したメッセージのやり取りをしたり、両校で考えた共に活動できる内容を行ったりしながら、生徒たちが達成感を感じられるよう内容を工夫していくことが重要である。今後も時間を共有する中で、リアルタイムな生徒の反応や感動を共に実感でき、相手への理解を深めることができるような交流にしていきたい。

（３）高等部

今年度の交流会も前年に引き続き、１回目は間接交流、２回目はオンラインでの交流の形式で実施した。生徒によっては画面上での展開を追うことができるのかと心配していたが、他校のビデオレターを観賞した際には集中して画面の方に視線を向けたり体の動きを止めたりして聞いている様子が見られた。直接的な関わりがない中でも同年代の生徒からのメッセージは興味関心を広げてくれるものであったようだ。特に２回目のオンラインでの交流では、他校の生徒が見ている中、はじめの会の挨拶等をそれぞれの生徒なりにしっかりと表現できており、良い緊張感が感じられた。また、本校からの発表でクイズが出題された際は、相手校とやり取りをする中での予想外の相手の反応に驚いたり、思わず笑みがこぼれたりと和やかな雰囲気で同じ時を共有することができた。今回３校でのオンライン交流会を行うことで、普段ふれあうことが難しい多様な生徒の実態を見て、理解してもらうことができた。直接交流がなかなか叶わない中、昨年に引き続き今年度もオンラインでの交流を行ったが、「互いを知る」という点では、達成できたと思われる。今後は更に一歩進めて、「互いのことを考え合う」ことができるような交流を行えると良いと考える。

事前準備として、３校担当者が集まってのオンライン接続テストを２回行ったが、当日動画再生がスムーズに行かない場面があったので、再生方法を見直すことや、事前に動画を相手校に送っておく等の対策をとることが課題として挙げられる。

これからも互いに安全に、安心して交流が実施できる内容や方法を相手校とも協力しながら検討していきたい。

（４）全校（韮崎工業との交流）

６月の交流が今年もオンラインでの交流となったが、相互の様子をリアルタイムに見合う中で本校の生徒の様子を知ってもらったり相手校の様子を知ったりすることができた。ビデオレターとは違いその場で質問したり、答えたりすることができ、和やかな雰囲気を画面上からでも伝えることができた。昨年度に引き続きオンラインでの交流であったが、互いに相手を理解しようとする気持ちや感謝の気持ち、交流の楽しさを味わうことができたと考える。１月の教材受け入れ式も今年はオンラインで実施することができた。事前に教材を受け取っておいたため、当日は児童生徒が活用している様子を見ていただくことができた。また、韮崎工業高等学校の生徒からは、作成上の工夫点や大変だったことなどを聞くことができ、教材作成への思いを共有することで、より大切に扱おうという気持ちを高められたと感じている。

以前のように直接会えることが相互理解のためにはとても大切なことであるが、オンラインという方法でもお互いの気持ちを伝えあうことができ、有意義な交流となっていると感じる。今後も、感染症対策を講じながら、どのような形で交流を実施することが望ましいのか、両校で話し合いながら計画していきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）本校の目標

①地域の方々と共に活動する中で、生活経験や対人関係を豊かにし、社会に積極的にかかわろうとする力を育てる。

②地域の方々からのかかわりを受け入れたり、自分からも何らかの表現を返したりして、一緒に活動を楽しむことができるような気持ちを育てる。

③地域の方々の趣味や特技をいかすことで交流及び共同学習や授業をより充実させると共に相互理解を促進する。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々
中学部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々
高等部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々

３　実施状況

新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、直接的に触れ合う交流はできなかった。交流会の実施に替えて、旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々に向けたメッセージを児童生徒会長の言葉とともに全校児童生徒の写真（個人情報保護の観点から掲載可能な者のみ）で作成し、送付した。地域の方々に回覧等を通して見ていただいたことで、本校児童生徒への理解を深めていただく機会となればと願っている。

４　課題

例年、旭町上條南割地区の方々や同老人会の方々のご協力のもと、お楽しみ会やほうとう作り等の交流活動を実施してきた。異年齢の方々と活動を共にすることで、生活経験や対人関係を広げる機会となり、児童生徒にとって貴重な経験が得られる場であった地域交流が今年度実施できなかったことは、非常に残念であった。

来年度も感染症蔓延防止のために直接ふれあう交流会は実施することが難しい状況があった場合には、どのような方法であれば交流会を実施できるのか、どのように地域の方々と繋がり合っていくことができるのかを模索していく必要がある。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。
（２）居住地域における交流及び共同学習を通して、日常的な地域での社会参加へ発展させていく。
（３）将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部２年	北杜市立長坂小学校	2	朝の会、国語（ともだちのことをつたえよう）、音楽（合奏）
小学部２年	甲府市池田小学校	3	朝の会、国語（ともだちのことをつたえよう）、音楽（合奏）
小学部４年	北杜市立白州小学校	2	学級活動（レクレーション）
小学部４年	北杜市立須玉小学校	2	朝の会、理科、体育（ボッチャ、ソフトバレーボール）
小学部６年	北杜市立長坂小学校	2	朝の会、特別活動、体育（ボッチャ、運動会の様子）
小学部６年	南アルプス市立白根百田小学校	3	ビデオレターやメッセージカードによる間接交流
中学部１年	韮崎市立韮崎西中学校	6	国語、数学、社会、理科、音楽、美術

３　成果と課題

小学部２年生の児童１名は、国語、音楽、図工の授業に参加した。国語では、「あったらいいなこんなもの」「こんなものみつけたよ」の単元でお互いに発表をすることができた。家事ロボットを考え発表した。クラスの全員が聞いてくれたことや友だちから質問が出て答えることができた。音楽では鍵盤ハーモニカで合奏に参加した。緊張もしたが、普段味わうことのできない大人数での合奏の楽しさを感じることができた。図工では、「ふしぎなたまご」の作品を持参して発表をした。「色がきれい」など、鑑賞した感想を発表することができた。

小学部２年生の児童１名は、６月と１０月に、池田小の２年２組の皆さんと交流を行った。２回とも音楽の授業に参加し、みんなの歌を聴いたり、楽器を一緒に鳴らしたりして楽しむことができた。大きな集団の賑やかさが嬉しい様子で、たくさん声をかけてもらい、終始笑顔で参加することができた。

小学部４年生の児童１名は、夏休み直前の学級活動「おたのしみ会」に参加した。白州小学校の児童が、本児も一緒に楽しめそうな内容を計画してくれた。じゃんけんをして勝った人の後ろに負けた人が連なっていく「じゃんけん列車」では、車椅子に乗った本児も連なりやすいようにフラフープを掴んで列になる工夫をしてくれた。１年間、直接交流ができない期間があったが、その期間を物ともせず、すぐに打ち解け、有意義な時間を過ごすことができた。

小学部４年生の児童１名は、新規で居住地校交流を開始した。集団活動に参加することに不安感のある児童のため、１回目にオンライン交流を実施することで、不安感を取り除くことができた。直接交流では、ボッチャや音楽の授業に参加した。普段と異なる大人数での活動に緊張していたが、徐々に打ち解け、笑顔で交流をすることができた。お互いの学校のことについて質問し合うなど、児童同士で自然と相互理解が行われ、双方にとって有意義な居住地校交流となった。

小学部６年生の児童１名は、体育と音楽の授業を通して交流を行った。体育では、運動会の組み立て体操の様子を見学したり、ボッチャを一緒にしたりして活動をした。大人数で協力して一つのことに取り組む姿を見て、実生活においても友だちやクラスの集団を意識した言動が増えた。音楽では、リコーダーの授業に参加した。居住地校交流に向けて事前に練習をして参加した。緊張しながらも、合奏を楽しんでいる様子が見られた。昨年に引き続き直接交流を実施することができ、お互いの成長や近況を話すなど打ち解けた様子であった。同年代の地域の小学生との活動を通して、お互いのことをよく知る有意義な交流ができた。

小学部６年生の児童１名は、コロナウイルス感染症の蔓延状況から直接交流を行うことはできなかったが、Web 会議システムによるリモートにて、１学期と２学期に１回ずつオンラインでの交流を行った。クイズゲームや好きな曲の紹介、画面をつなぎながらの貼り絵活動等、画面の先の沢山の友達の活動の様子を意識して、言葉でやりとりしたり活動を楽しんだりする様子がみられた。３学期は互いに中学校・中学部進学を意識して激励の手紙をやりとりする予定である。

中学部１年生の生徒１名は、７月から月１回のペースで美術や音楽、国語、理科、社会などの学習に参加した。美術で他の生徒の作品を鑑賞したり、国語で友達と一緒に考えながら黒板に向かったりすることで、様々な刺激を受けながら学習に向かうことができた。今後も継続して交流及び共同学習を実施していく予定である

今年度は、新規に居住地校交流を実施する児童生徒が２名いた。昨年度に居住地校交流を実施した５名は、引き続き継続して実施することができた。来年度も、感染症蔓延防止に努めながら、さらに居住地校交流実施希望者を増やしていけるように、保護者に向けて情報提供を行っていきたい。また、互いに有意義な交流ができるように児童生徒や保護者の願いを大切にしながら居住地校と丁寧な打ち合わせを行っていき、同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、さらに相互理解を深められるようにしたい。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立わかば支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立わかば支援学校
所 在 地	〒４００－０２２６　山梨県南アルプス市有野３３４６－３
電話番号	０５５－２８５－１７５０
校 長 名	荒川　昌浩
交流及び共同学習主任名	宮良　かおる

２　学校教育目標

たくましい力　ゆたかな心

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　考
1	南アルプス市教育委員会・教育長	
2	南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課・課長	
3	南アルプス市源地区自治会連合会（交流及び共同学習推進会議担当）・有野南自治会長	会長
4	南アルプス市立白根源小学校・PTA 会長	
5	南アルプス市立白根源小学校・校長	副会長
6	南アルプス市立櫛形中学校・校長	
7	南アルプス市立白根御勅使中学校・校長	
8	早川町立早川中学校・校長	
9	山梨県立農林高等学校・校長	
10	山梨英和中学校・高等学校・校長	
11	山梨県立白根高等学校・校長	
12	山梨県立わかば支援学校・校長	

２　経　過

開催月日	内　　容
5 月 23 日（月）	今年度の交流計画について（書面開催により協議）
2 月 2 日（木）	今年度の実施報告及びまとめや次年度の方向性について（書面開催により協議）

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）全体

小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して、

①様々な活動を通じて、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。

②交流提携校の児童生徒に障害のある児童生徒への理解や認識を深めるようにする。

③互いに仲間としての意識をもち、共に学ぶ楽しさを味わうとともに、好ましい人間関係を育てる。

（２）小学部

①互いの存在を知り合うことができる。

②同学年児童とともに活動する中で、楽しく過ごすことができる。

③友だちを意識し、自分からかかわろうとしたり、かかわりを受け入れようとしたりする気持ちを育む。

（３）中学部

①同世代の生徒との交流及び共同学習を行う中でより豊かな人間性を養う。

②同世代の生徒とのかかわりを広げ、共に学ぶ楽しさを味わう。

③交流提携校の生徒や教師に本校の生徒への理解や認識が深まるようにする。

（４）高等部

①互いの存在を知り合い、同世代の生徒の考え方等にふれることで、同じ高校生としての意識を高める。

②同世代の生徒との活動や作品交流を通して、互いの理解を深める。

③活動を通して、互いの個性を尊重しながら、人とかかわろうとする気持ちを育てる。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	南アルプス市立白根源小学校
中学部	南アルプス市立櫛形中学校、南アルプス市立白根御勅使中学校、 早川町立早川中学校
高等部	山梨県立農林高等学校、山梨英和中学校・高等学校、山梨県立白根高等学校

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内　容
小	１２月	南アルプス市立白根源小学校	1	遊びの指導	ビデオ交流
	１１月		2	図画工作	作品交流

	11 月 16 日（水）	南アルプス市立 白根源小学校	3	生活単元学習	オンラインでの交流
	11 月 25 日（金）		4	生活単元学習	オンラインでの交流
	12 月 7 日（水）		5	生活単元学習	オンラインでの交流
	11 月 15 日（火）		6	生活単元学習	オンラインでの交流
中	7 月 4 日（月）	南アルプス市立 櫛形中学校	1	生活単元学習	オンラインでの交流
	10 月 31 日（月）			生活単元学習	オンラインでの交流
	7 月 5 日（火）	南アルプス市立 白根御勅使中学校	2	生活単元学習	オンラインでの交流
	12 月 13 日（火）			生活単元学習	オンラインでの交流
	10 月 18 日（火）	早川町立 早川中学校	3	生活単元学習	オンラインでの交流
高	6 月 8 日（水） 12 月 9 日（金）	山梨県立 農林高等学校	1	生活単元学習	オンラインでの交流
	10 月 18 日（火）	山梨英和中学校・ 高等学校	2	生活単元学習	オンラインでの交流
	２月 10 日（金）		2	生活単元学習	オンラインでの交流
	6 月 30 日（木） ～7 月 2 日（土）		１～３	美術・ 作業学習	作品交流
	12 月 15 日（水） ～16 日（木） 12 月 19 日（月） ～23 日（金）	山梨県立 白根高等学校	１～３	美術	作品交流

4　学校間交流の様子

（１）小学部

①１年生

・クラスごとの自己紹介と、学習発表会での取り組みの様子を映像にまとめて、白根源小学校の子ども達に見てもらった。

・白根源小学校からは、クラスの紹介や『ソーラン節』の踊りの映像が届けられた。事前に届けられていた自己紹介カードと合わせて、何回か繰り返してみることができ、交流する友達という意識をもつことができた児童もいた。

②２年生

・１学期は生活単元学習で自己紹介カードを作成し、交換しあった。

・２学期は図画工作で制作した一人一人の『スタンプ遊び』の作品（僕の/私の洋服を作ろう）を模造紙に貼り、共同作品にしたものを白根源小学校に掲示していただいた。

・白根源小学校からは、パソコンを使って制作した作品（『ひっかき絵（スクラッチ）』）

が届き、教室前に掲示した。花火や恐竜、お花など親しみやすい絵がカラフルに描かれており、教師と一緒に見る様子が見られた。

③３年生

・事前学習で交流の日時と内容について学習し、「はじめのことば」や「おわりのことば」の係を決めた。

・交流会では、緊張しながらも「はじめのことば」や「おわりのことば」を教師と一緒に言うことができた。また、感想発表も積極的に手をあげて伝えることができた。

・オンラインでの交流となったが、白根源小学校の発表の「ソーラン節」を見て踊りだすなど興味をもって見ることができた児童もいた。

・本校の発表では、学習発表会で取り組んだダンスを披露した。白根源小学校の友達に見てもらい、感想で「すごいね」「上手だったね」と言ってもらって嬉しそうな様子も見られた。

④４年生

・事前学習で交流の日時や内容について学習し、自己紹介カードを作成し、交換した。白根源小学校の児童から届いたイラスト入りの自己紹介カードを興味をもって見たり、イラストを話題にして話をしたりする児童もいた。

・白根源小学校の発表では、初めて聴くリコーダーの音色に静かに耳を傾けたり、『もみじ』を歌う様子に注目したりする様子が見られた。

・本校からは、クラス毎に学習発表会で取り組んだダンスや歌を発表した。どのクラスも自信をもって堂々と発表し、終了後白根源小学校の児童から大きな拍手が聞こえてくると嬉しそうな表情が見られた。

⑤５年生

・事前学習では、今までの交流の様子を、写真を見ながら振り返った。また、自分の役割を決め、期待感を高めた。

・オンライン交流当日は、はじめにお互いに自己紹介を行い、次に２学期に取り組んだ学習の発表を行った。画面を通してのやりとりだったが、白根源小学校の友達が拍手してくれたり声をかけてくれたりすることに嬉しそうな様子が見られた。本校の発表は、体育で取り組んだ「ソーラン節」を踊り、５年生の元気な様子を伝えることができた。

⑥６年生

・事前学習で、これまでの交流の様子を写真で振り返り、白根源小学校との位置関係を地図で確認したり、今年度の交流の活動内容や役割について取り組んだりした。事前に掲示しておいた白根源小学校の６年生の集合写真を興味深く見ている児童もおり、交流があることを意識しているようだった。

・交流当日は、スクリーンに映る白根源小学校の友達や録画されたダンスの発表に注目していた。ダンスの曲に興味をもち、休み時間に調べようとしたり、交流後クラスで踊ったりした。

・本校の修学旅行についての発表は、写真を提示する、言葉や文章で伝える等、実態に応じて行うことができた。交流が終わるまで写真を相手に向けて持ち続けていた児童もおり、相手を意識している様子もうかがえた。

・両校一緒に行った『エビカニクス』（ダンス）では、両校の児童共に恥ずかしがることなく、楽しく踊る様子が見られた。

（２）中学部

①１年生：櫛形中学校との交流

６月に事前学習として、櫛形中学校の場所や特色などについて、本校と比べながら学習した。交流内容を確認し、その準備として各クラスに分かれ、ゲームに必要なものを作ったり、クイズの問題を考えたりした。また、櫛形中学校からの自己紹介カードを廊下に掲示して、交流への期待感をもつことができた。

７月４日と１０月３１日の２回、オンラインでの交流を行った。１回目は櫛形中学校から本校の生徒に向けての呼名に全員が答えた後、「じゃんけんゲーム」と「〇×クイズ」を行った。「じゃんけんゲーム」では櫛形中学校の掛け声に合わせ「グー」「チョキ」「パー」の札を出し合い、全５回対決を行った。「〇×クイズ」では各校に関する質問を出し合い、〇エリアと×エリアに分けた教室内を移動した。正解の表示が出されると、その場で喜ぶ姿が見られた。交流後には櫛形中学校からじゃんけんゲームの表彰状をいただいた。

２回目は本校生徒が司会進行を行い、全員が役割をもって進めることができた。「体験学習の発表と体験学習に関するクイズ」、櫛形中学校の合唱発表と「学園祭クイズ」を行い、その後「質問タイム」で各校が質問を出したり答えたりした。２回とも交流の終わりにお互いに感想発表を行い、交流を楽しむことができたことや感謝の気持ちを伝えることができた。

②２年生：白根御勅使中学校との交流

７月５日と１２月１３日の２回、白根御勅使中学校の体育館と本校視聴覚室、中学部多目的室をつないで、オンライン交流を行った。１回目は本校からは林間学校で踊ったダンスを、白根御勅使中からは「体つくり体操」を発表し合った。お互いの発表の後、本校で発表したダンスを白根御勅使中の生徒と一緒に踊った。その後の質問タイムでは、事前に考えてきた問題を出し合い、「好きなスポーツは何ですか？」というこちらからの質問では、テニス部が素振りを、バスケ部がシュートをリモート越しに披露してくれ、歓声が起きるなど生徒たちは盛り上がり、親睦を深めることができた。２回目は本校からは学習発表会の内容を発表し、白根御勅使中学校の合唱祭の映像を鑑賞した。また、御勅使中学校伝統の応援を送ってくれ、その迫力に生徒たちが圧倒されているようだった。５０分という短い時間だったが、とても充実した時間を過ごすことができた。

③３年生：早川中学校

１０月１８日に、早川中学校１、２年生１８人と本校中学部３年生１８人でオンライン交流を行った。会の運営は早川中学校の生徒を中心に行い、はじめの会ではマスクをしていても、本校の生徒たちの緊張の表情がうかがえた。しかし、早川中学校の給食にバイキングがあることや部活動の様子を画像で見て知り、早川中学校の学校紹介を見終わる頃には、生徒たちの緊張も少しほぐれた様子だった。発表会では、各校の生徒たちがそれぞれのグループに分かれ、ダンスや『カップス』の演奏を披露した。本校の生徒たちは、自分たちの発表に緊張している様子が見られたが、早川中学校の生徒の発表を見ると、自分たちの発表に向けて気持ちを高める姿があった。おわりの会の感想発表では、生徒たちは「早川中学校のことが知れた！」「クイズが楽しかった。」「コロナが収束したら、今度は会いたい。」「ダンスがかっこよかった！」などと気持ちを言葉にして伝えることができた。短い時間の交流だったが、有意義な時間を過ごすことができた。

（３）高等部

①１年生：農林高等学校との交流

６月８日と１２月９日にオンラインによる交流を実施した。１回目では、農林高校農業クラブから、学科や学校の施設の紹介、本校からは、クラスごとの自己紹介、学年目標紹介、学習活動の報告、ダンスなどを披露した。生徒たちは、映像を興味深く見ており、施設や学

習の内容に刺激を受けた生徒もいた。同年代の生徒の様子を知ることができ、充実した時間だった。２回目の交流では、生徒たちが活動内容を考え、農業クラブからは、ジェスチャーゲーム、本校からは、ボウリングを提案し、１２月９日にオンラインでゲーム大会を行った。互いの学校で事前に準備をし、本校ではクラスで協力しながらボウリングのピンを作ったり、役割を決めたりして準備の段階から楽しく取り組むことができた。当日は、オンラインではあったが、同じチームの一員として相手校の生徒や本校の友達の応援をしたり、同じチームごと記念写真を撮ったりして大いに盛り上がった。前回に比べ、生徒たちが打ち解けていた印象だった。また、本校からはメッセージを農業クラブの生徒に届けた。

②２年生：山梨英和中学校・高等学校との交流

６月に行われた作品交流では、高等部の美術や作業学習で制作した作品を山梨英和中学校・高等学校の学園祭に展示した。大勢の生徒の皆さんや来場した方々に観ていただき、感想も送っていただいた。１０月の代表交流会では、本校高等部２年の学年委員が山梨英和中学校・高等学校の生徒会とオンラインによる交流を行い、それぞれの学校の様子を伝え合った。お互いの学校に関するクイズを出し合い、楽しみながら活動に取り組むことができた。３０分間という短い時間ではあったが、他校の生徒とかかわりをもてる貴重な時間となった。

１２月に全体での交流会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったため、２月に延期となった。

③白根高等学校との交流（作品交流）

・白根高等学校での作品展示

１２月１９日～１２月２３日に白根高校で作品展示を行った。本校高等部の美術作品や作業班で作った製品を展示し、活動の様子を知っていただく機会となった。

・白根高等学校の作品展

１２月１４日～１５日本校美術室において、白根高校の美術部、写真部、書道部の作品展示を行った。「素晴らしい作品があり、とても満足した」「細かい線で描かれていて、すごいと思った」などの感想があった。展示会場が密にならないよう見学時間を割り振り、短時間であったが、同世代の生徒の作品を鑑賞して良い影響を受けている様子が見られた。

５　成果と課題

（１）小学部：白根源小学校との交流

①　１年生

・直接交流やオンラインでの交流は、児童の実態から難しいと判断し、ビデオ交流とした。直接やりとりはできない動画視聴ではあったが、何度か繰り返して視聴することができ、友達への意識をもつことができた児童や、「こうりゅう」「みなもとしょうがっこう」という言葉を覚えた児童もいた。

・感染症の感染状況によるが、友だちとして意識がもてるように直接交流できると良い。

・オンラインの交流になる場合は、それまでにオンラインでの学習の経験を重ねる必要がある。

②　２年生

・今年は作品交流だけでなく、自己紹介カードも交換することができて良かった。お互いの作品を廊下に掲示することで、関心をもって目を向ける児童もいた。

・今年も児童の実態に合わせ、作品交流という方法で良かった。来年度以降、オンライン交流をしていくのであれば、普段からオンラインに慣れておく必要がある。

・体育館などの広い場所で互いの活動を見合う、短時間で行うなどの工夫をしながらコロナ禍でも直接顔を合わせて交流できると良い。

③　３年生

・オンライン交流の内容としては、互いに学習してきたことを発表する内容でよかった。

・互いの発表を見て、感想を伝え合うことができてよかった。

・発表を興味をもって見ることができる児童もいた。

・前日にオンラインの動作の確認をしたことでスムーズに行うことができた。

・オンライン交流だと集中できない児童がいたり、状況が理解できない児童がいたりするため、来年度は可能なら直接交流できるとよい。

④　４年生

・事前の自己紹介カードの交換やリモートでの発表を通してお互いの存在に気付くことができた。

・前日綿密な動作確認をしたが、こちらからの音声が聞こえないトラブルが発生し、発表が中断した。リモートを行う場合、その場でのトラブルへの対応力も必要であると感じた。

・画面を通しての活動は、やりとりや場を共有していることが分かりづらい児童もいるため、感染対策を取りながら直接交流できると良い。オンラインで行う場合は、同じ活動に取り組み、同時に発表する等お互いを意識できるような活動内容の工夫ができると良い。

⑤　５年生

・お互いに行事等の関係で事前に自己紹介カードなどのやりとりはできなかったが、今までの交流会の写真で振り返りをすることで、白根源小学校の友達のことを思い出して取り組むことができた。来年度は、可能な範囲で事前に自己紹介カードのやりとりなどを行

い、お互いの理解を深めてから交流会を行えるとよりよい。
・画面の不具合などもあったが、画面を通して声を掛け合ったり、拍手をしたりして、やりとりをを楽しむ様子が見られたのでよかった。
・お互いの理解を深めたり、集団を感じ様々な友達と関わる経験を積んだりするためにも、感染症対策を取りながら、直接交流ができるとよい。

⑥　６年生
・事前に白根源小学校と本校の３クラスを Teams でつなぎ、交流の流れや画面共有の仕方等について確認しておいたため、当日はスムーズに進行することができた。
・オンラインは相手の反応や表情が見づらいこともあり、実態によっては難しい面もあったが、慣れた学習環境で交流したことで落ち着いて自分たちの発表をすることができた。
・距離をとる等感染症対策をとって行える活動内容を検討し、直接顔を合わせて交流できるとよい。オンラインであれば、相手をより意識しやすい発表や活動の内容を工夫して行えるとよい。

⑦　小学部全体として
低学年はビデオ交流や作品交流、中学年以降はオンライン交流を行った。本校の低学年の児童の実態や感染症状況をふまえるとビデオや作品での交流が適切であったが、白根源小学校の児童が交流という意識をもつためには、双方向での発信ができるオンライン交流の方がわかりやすいという意見もあり、交流の仕方について白根源小学校と相談しながら検討する必要がある。中学年以降は、画面越しではあるが実際に白根源小学校の友達の顔を見ながら交流することができて良かった。慣れた学習環境で落ち着いて活動することができ、学校で取り組んでいることなどをお互い知ることができた。しかし、オンラインではお互いの表情や反応が伝わりづらい、実態によっては相手を意識しづらい面があるため、来年度は感染症対策をとりながら直接顔を合わせて行える交流の実施方法を模索していきたい。

（２）中学部
①１年生：櫛形中学校との交流
・２回ともオンライン交流であったが、事前に自己紹介カードの交換を行い、１回目の交流では櫛形中からの呼名に応える場面を設け、交流への期待感をもつことができた。
・ゲームやクイズ、体験学習の発表など、全員がカメラの前に立つ場面があり、交流に参加したことを実感することができた。
・今後も直接交流が難しい場合は、その時の状況を加味しながらよりよい方法を考え、生徒たちにとって交流が有意義なものになるようにしていきたい。

②２年生：白根御勅使中学校との交流
・事前学習を通し、ねらいを理解し見通しをもって活動に参加することができた。
・小学部で白根源小学校と交流した生徒たちが覚えてくれていたため、画面越しに再会し交流を深めることができた。
・オンラインでは、音が消えたり映像が止まったりするなど、スムーズにいかないこと

があった。事前に通信状況を入念に確認する必要がある。
・１回目の交流が楽しめたことで、2 回目を楽しみにする生徒がおり、とても積極的に交流できた。

③３年生：早川中学校
・オンラインでの交流だったが、事前に自己紹介カードを交換していたことで期待感を持って取り組むことができた。また、自己紹介カードを踏まえて質問を考えることができ、相手校の生徒とやりとりすることができた。
・学校紹介、クイズ、ダンス等の発表を真剣に見る様子があった。また、相手校のダンスに影響されて気持ちを高めて発表することができた。
・直接交流できるのが一番良いが、状況を踏まえ、オンライン交流でも有意義であると感じた。

（３）高等部
①１年生：農林高等学校との交流
・新型コロナウイルス感染症の影響で直接交流ではなく、オンラインでの交流だったが、互いに学校紹介をし、多くの生徒は集中して映像をよく見ており、提携校の様子などを知ることができた。
・２回目では、生徒が活動内容を考え、交流会を計画したため、生徒主体で活動を進めることができた。前回に比べ生徒たちが打ち解けていた印象があった。
・生徒一人一人に役割があり、体を動かすゲームだったため親しみやすい活動となった。
・Teams によるオンラインによる交流を行ったが、ほとんど画像や音声の乱れもなくスムーズに行うことができた。
・以前のような直接交流ができると良いが、今回のようなゲーム等の内容でも、両校の生徒が計画から参加することで十分目的が達成できると思う。

②２年生：山梨英和中学校・高等学校との交流
・代表交流会では、事前に交流担当の教師と内容や質問について打ち合わせをしておいたため、スムーズに話し合いができた。また、両校で学校に関するクイズを用意し、楽しみながらお互いを知ることができた。

③白根高等学校との交流（作品交流）
・本校での白根高等学校生徒の作品展示は、美術室を会場とし、密を避けるため、見学時間を割り振って行った。分散したことにより落ち着いて鑑賞することができた。間接的な交流ではあるが、同世代の生徒の作品を見学し、活動を知る貴重な機会となった。
・お互いの様子がわかるよう、制作している写真などを一緒に展示できるとよい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）全体

本校児童生徒と地域の人々とのふれあいを通し、互いを理解し、共に学ぶ。

（２）小学部

間接的な交流を通して、児童への理解や認識を深める。

（３）中学部

地域の人々とのふれあいを通して互いを理解し、伝統や文化などにふれる。

（４）高等部

①活動を通して、地域への関心を高める。

②地域の方々の考え方にふれ、互いの理解を深める。

（５）寄宿舎

地域社会の人々と共に活動することにより、相互理解を深める。

２　交流先

学　部	地域交流先
小学部	南アルプス市立白根源小学校 PTA
中学部	南アルプス市福祉協議会
高等部	南アルプス市福祉協議会の関係団体
寄宿舎	山梨県立白根高等学校奉仕部 有野区、菊乃扇の会

３　実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内　容
小	12 月 8 日（木） ～12 日（月）	白根源小学校 PTA	全学年	特別活動	作品展示
中	11 月 21 日（月） ～12 月 2 日(金)	南アルプス市福祉協議会	全学年	美術	作品展示
高	7 月 14 日（木）	南アルプス市防災リーダー連絡協議会	３年	生活単元学習	震災についての生徒の発表と講話
寄宿	6 月 1 日（水）	白根高校奉仕部	全学年	余暇活動	オンラインによる交流
	10 月 12 日（水）			余暇活動	オンラインによる交流
	3 月（予定）	有野区、菊乃扇の会		余暇活動	お便りを出す

４　地域交流の様子

（１）　小学部：白根源小学校 PTA との交流

１２月８日～１２日の白根源小学校の個別懇談期間中、保護者に本校の児童の作品を観ていただいた。今年は子どもたちが制作している様子も見ていただきたいという思いから写真も一緒に展示した。作品を見ていただいた保護者の方々から「写真を通して子どもたちが頑張って作っている様子が伝わってきました。」「これからもいっぱい創造して素敵な作品を作ってください。」などたくさんの感想をいただいた。コロナ禍で直接交流が難しい状況ではあるが、今年もこのような形で交流することができ、ありがたかった。

（２）　中学部：南アルプス市社会福祉協議会

美術の授業で制作した作品を１１月２１日から１２月２日まで南アルプス市社会福祉協議会館内ロビーに展示させていただいた。展示するスペースに限りがあるため、中学部全員の作品を展示することはできなかったが、１、３年生の代表作品、２年生の共同制作を展示し、多くの人たちに作品を観てもらい、「パワーをもらいました。」「ロビーの雰囲気が一気に明るくなりました。」「色の使い方が上手です」「絵の前に通るたびに海の中の気分が味わえる」など作品に対する感想をたくさんいただいた。コロナ禍で直接交流ができない状況ではあるが、今年も作品を通して交流の場を設けていただくことができた。

（３）高等部：南アルプス市社会福祉協議会・防災リーダー連絡協議会

７月１４日に、南アルプス市社会福祉協議会、同市防災リーダー連絡協議会の方に来校していただき、地域交流を行った。防災リーダー連絡会の方は、実際に被災地で活動する服装で来校され、震災直後の現地での活動の様子などをお話していただいた。生徒たちは、臨場感あるお話にメモを取りながら真剣に聞き入り、命の尊さ、防災の大切さを学ぶことができた。3 年生は東日本大震災をテーマに修学旅行で福島県を訪れ、学習してきた震災や防災の内容についてグループごとに発表した。

（4）寄宿舎

①白根高校奉仕部

６月１日と１０月１２日の２回、オンラインによる交流で、学校紹介やレクリエーションを行った。１回目の交流では、事前交流としてお互いに自己紹介カードの交換を行い、交流に向けての意識を高めた。当日は、お互いの学校（寄宿舎）紹介の動画を観た後、各校一人ずつ自己紹介を行った。最後には質問タイムとして、生徒同士で質疑応答をする時間を設けた。１回目ということでお互いに緊張した面持ちの生徒もいたが、次回に繋がる充実した時間を過ごすことができた。

２回目の交流もオンラインによる交流で、レクリエーションを通して交流を深めた。白根高校が考えてくれた内容で、まずは緊張をほぐすためにリズム遊びを行い、緊張がほぐれてきたところでクイズを行った。出題は白根高校が行い、それにみんなで答える形で行った。事前学習としてオンラインでの注意点を説明し、実際に Teams を使って練習もしていたため、大きな声で答えたりジェスチャーを使ったりと相手に伝わりやすいように意識して交流することができていた。舎生からは、「オンラインだけど交流ができて良かった」「来年は直接会いたい」という感想が多く聞かれた。

②有野区・菊乃扇の会

今年度は寄宿舎の活動の様子が分かるお便りと寄宿舎で育てた花をドライフラワーにしてリースを作りプレゼントする予定である。

5　成果と課題

（1）　小学部：白根源小学校にて作品展示

今年度も白根源小学校の懇談期間に本校の児童の作品を展示させていただいた。今年はより分かりやすく伝えるため、児童の写真もあわせて掲示するようにした。作品だけだと伝わりにくい児童らの様子を知っていただくことができ、良かった。直接交流が難しい状況が続いているため、両校の児童・保護者ともにこの交流の目的なども含め、相互理解や関心が年々薄くなっているような印象があることが課題である。作品やオンラインを通して相互理解を深めていくことも意義のあることだが、来年度以降はコロナ禍であっても、場所や方法などを工夫していく中で直接交流できる場を少しでも設けられると良い。

（2）中学部：社会福祉協議会館内にて作品展示

今年度も新型コロナウイルス感染症のため、昨年と同様に南アルプス市社会福祉協議会に協力していただき，本校の作品を展示させていただいた。このような状況の中でも実施することができ、地域の方々に本校の作品をみていただくことができて良かった。来年度は、感染症の

状況にもよるが、以前のように少人数の方に来校していただき、直接交流する機会がもてると良い。

（３）高等部：南アルプス市社会福祉協議会・防災リーダー連絡協議会

３年生が修学旅行で福島県の東日本大震災関連施設を訪れた直後だったため、実際に被災地でボランティア活動に参加された方のお話を聞き、震災の様子について事後学習を深められた。また、講話で感じたこと等が震災と復興をテーマにした学習発表会にも生かされていた。今後も南アルプス市社会福祉協議会に所属している関係団体を紹介していただき、日ごろの学習や修学旅行に関連した共同学習をしていきたい。

（４）寄宿舎

①白根高校奉仕部

・昨年度に引き続き今年度もオンラインでの間接交流となった。画面越し、さらにはマスク着用ということもあり、お互いの表情や反応が伝わりづらい中ではあったが、画面を通して声を掛け合ったり手を振ったりするなど自然なやりとりもあり、同年代の仲間と楽しい時間を過ごすことができた。

・事前学習でオンラインによる注意点を説明し、実際に Teams を使って練習をしたことで、表現の仕方や受け答えの仕方などを知ることができ、オンライン交流に活かすことができた。

・事前にオンライン交流のリハーサルを担当者間で行うことで、当日はスムーズに進行することができた。

・お互いの生徒から直接交流をしたいとの感想が多く、感染症対策をとりながら、直接交流が計画できると良い。

②有野区・菊乃扇の会

感染症対策を踏まえながらどのような内容で行っていくのか検討する。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住する地域の同年代の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。

（２）交流及び共同学習を通して、地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。

（３）将来居住する地域の一員として豊かに生活していくための基礎をつくる。

２　実施児童・生徒

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部１年	甲斐市立敷島小学校	2	２学期に１回実施。特別支援学級の児童５名と一緒に自立活動（制作）を行った。初めての場所でも動揺することなく活動に取り組むことができた。上級生に声を掛けてもらいながら、順番を守ったり、マーブリングの作業を楽しんだりすることができた。 ３学期に１回、１年生の通常の学級での交流を実施予定。（３月）
小学部１年	南アルプス市立 白根東小学校	1	１２月に実施予定だったが延期。 １月下旬から２月上旬ごろ１回実施予定。
小学部２年	昭和町立押原小学校	1	２学期に実施予定だったが中止。 ３学期に１回実施予定。（１月下旬～２月）
小学部２年	南アルプス市立 小笠原小学校	2	２学期に１回実施。今年はみんなの前に立って自己紹介をすることができた。図画工作の授業では、友達と材料の貸し借りをしながら楽器の制作をすることができた。休み時間には友達と一緒に電車ごっこをして遊び、楽しむ姿が見られた。 ３学期に１回実施予定。（２月頃）
小学部３年	甲斐市立双葉西小学校	2	２学期に１回実施。以前から知っていた地元の友達に囲まれ、緊張することなく和やかな雰囲気の中で体育、図画工作、音楽の授業に参加することができた。 ３学期に１回実施予定。（２月中旬頃）
小学部４年	甲斐市立双葉東小学校	1	２月中に実施予定。
小学部６年	昭和町立西条小学校	1	１１月に実施。西条小の児童が笑顔で温かく迎えてくれて嬉しそうだった。昨年よりも落ち着いて授業に入ることができていた。ボッチャは経験があったため、活動に見通しをもつことができ、グループの中に自然に入って一緒に楽しむことできた。休み時間も友達とトランプを楽しんでいる様子が見られた。
中学部１年	北杜市立長坂中学校	1	３学期に実施予定。

中学部２年	北杜市立明野中学校	2	１１月に実施 １回目は、特別支援学級の生徒と理科の授業を行った。本人の興味関心のある内容だったこともあり、友達と協力して実験結果を表にまとめたり、気づいたことを発表し合ったりすることができた。その後の音楽では、交流学級の生徒の合唱発表を嬉しそうに鑑賞した。 ３学期（２月上旬）に１回実施予定。
中学部２年	甲斐市立敷島中学校	1	３学期に実施予定。
中学部３年	韮崎市立韮崎東中学校	2	１月に実施。音楽の授業を行った。本人の興味関心のある内容だったこともあり、落ち着いて取り組むことができた。プリントへ記入する際は、周りの生徒に教えてもらいながら進めたり、一緒に手をあげたりする様子が見られた。
中学部３年	北杜市立泉中学校	1	３月に実施予定。

３　成果と課題

今年度も感染症拡大のため時期が延期となり、予定通りの交流が難しくなってしまった学校が多数あったが、直接交流を実施することができた学校もあり、とてもありがたかった。継続の児童生徒は相手校の授業や行事などにスムーズに参加することができ、昨年度とはまた違った成長が見られた。コロナ禍ではあるが、直接交流していくことは相手校の児童生徒にとっても本校の児童生徒と保護者にとっても、今後地域とつながっていくために、とても有意義なことである。来年度も感染症対策の徹底、交流場所や交流方法の工夫をしていくことで、直接交流できる機会を大切にしていきたい。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校
所 在 地	〒４００－０６０１　山梨県南巨摩郡富士川町鰍沢５６７３－１２
電話番号	０５５６－２７－００６７
校 長 名	荒川　昌浩
交流及び共同学習主任名	伊藤　明美

２　学校教育目標

たくましい力　ゆたかな心

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　属・職　名	備　考
1	富士川町教育委員会　教育長	
2	富士川町社会福祉協議会　事務局長	
3	富士川町中部区　区長	
4	鰍沢奉仕活動の会　会長	
5	下部地区民生委員児童福祉部　会長	会　長
6	社会福祉法人くにみ会　ゆあーずあんどゆうず　施設長	副会長
7	中部区活性化プロジェクト　代表	
8	富士川町立鰍沢小学校　校長	
9	富士川町立鰍沢中学校　校長	
10	わかば支援学校　校長	
11	わかば支援学校ふじかわ分校　副校長	

２　経過

開催月日	推　進　会　議　の　内　容
５月１１日(木)	運営要綱、役員選出、事業計画、意見交換
２月２２日(水)	本年度の交流及び共同学習について報告、来年度に向けて

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

小学校、中学校との交流をとおして

（１）　様々な活動をとおして、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。

（２）　互いに仲間としての意識を持ち、ともに学ぶ楽しさを味わうとともに対等な人間としてお互いを尊重しあう態度を養う。

２　提携校

学　部	交流及び共同学習提携校
小学部	富士川町立鰍沢小学校
中学部	富士川町立鰍沢中学校

３　実施状況

学部	月　日	提携校	実施学年	教科等区分	実施内容
小	６月１６日(木)	富士川町立鰍沢小学校	全学年	遊びの指導	ダンス、風船運びリレー、紙吹雪で遊ぼう
	１１月２９日(火)			特別活動	お店屋さんごっこ(ボウリング、魚釣り、もぐらたたき)
	１１月　５日(土)			特別活動	分校まつりでの間接交流中止
中	６月２１日（火）	富士川町立鰍沢中学校	全学年	体育・自立活動	ボッチャ
	１１月１６日(水)				モルック
	１１月　５日(土)			特別活動	分校まつりでの間接交流中止

４　学校間交流の様子

（１）小学部

直接交流に先立ち、自己紹介カードを交換して廊下に掲示した。赤、青、白の３グループに分け、２回の交流を固定したグループで行った。

１回目は、分校に鰍沢小学校の５年生児童１７名が来校し、分校の児童になじみの深い題材で交流を行った。両校の児童ともはじめは緊張の色が見えたものの、一緒にダンスをしたり二人で協力して風船を運ぶゲームを行ったりするうちに、自然に互いに声を掛け合う様子が見られるようになった。最後に行った紙吹雪は、支援学校ならではの「遊びの指導」の授業で取り組んできた題材で、渦高く舞い上がる紙吹雪を見て鰍沢小学校の児童も大喜びだった。支援学校の授業の様子を感じ取ってもらえたのではないかと考える。

２回目は、新型コロナウイルス感染症が心配されたものの分校の児童１２名が鰍沢小学校に出向き、直接交流をすることができた。昨年度実施したこともあり、分校の児童も緊張することなく、スムーズに活動に入ることができた。初めの会では鰍沢小学校の児童が『翼を

ください』の合唱を披露してくれた。日頃合唱を聞く機会の少ない児童たちは、真剣に聴き入っていた。その後鰍沢小学校の児童がボウリング、魚釣り、もぐらたたきの３つのお店屋さんを準備してくれ、各グループごとにお店屋さんを回って楽しんだ。どのお店も分校の児童が無理なく楽しめる内容のものであった。ボウリングでは投げる場所を２か所設けてピンをねらいやすいようにしてくれたり、もぐらたたきでは分校の児童の実態に合わせて的を出す速さを加減してくれたりするなど、細かい心配りが随所に見られ大変うれしく感じられた。また、折り紙で作ったたくさんの景品が用意され分校の児童は大変喜んでいた。折り紙で作ったカメラやコマの遊び方を教えてもらいながら一緒に遊ぶなど、自然なかかわりが多く見られた。

（２）中学部

鰍沢中学校の１年生との交流は、今年度は２回とも対面での交流を実施することができた。直接交流に先立ち、自己紹介カードの交換と分校からは１回目に行う予定の準備体操（ダンス）の動画を送った。交換した自己紹介カードは廊下に掲示することで、同じ趣味や好きなアイドルが一緒の友達がいることを知り、興味をもって見ている様子があった。

１回目は、鰍沢中学校の生徒１８名がふじかわ分校に来校しボッチャを行った。コロナ禍で２年ほど直接交流が出来なかったこともあり、どちらの生徒も最初はどう接したらよいのかわからず少し緊張している様子が見られたが、準備体操の曲が流れ分校の生徒が前に立ち見本を踊るうちに、お互い緊張もほどけリラックスすることができた。鰍沢中学校の生徒はボッチャの経験がないということで、分校の生徒がボッチャの説明とやり方の見本を見せ４つのチームで試合を行った。投げるコースを相談したり、違うチームでも上手に投げることができた生徒に歓声があがったりして、対面で一緒に活動できる楽しさを味わっていた。

２回目は鰍沢中学校に出向きモルックという競技を行った。分校はモルックという競技が教師も生徒も未経験だったため、鰍沢中学校から道具をお借りし、事前に学習をしてから当日に臨んだ。２回目になると、鰍沢中学校の生徒たちもリラックスした雰囲気で出迎えてくれた。分校の生徒たちも緊張することもなくチームに分かれてゲームを行った。活動が終わりバスに乗った後も、とても名残惜しい様子で手を振っている姿が印象的であった。

５　成果と課題

（１）小学部

今年度は２回直接交流を行うことができ、お互いに期待感をもって会に臨むことができた。２回とも同じグループで活動したことで、互いの名前や顔を覚え、なじみの深いかかわりをすることができた。分校の児童にとっては、普段なかなか聞くことのできない合唱を目の前で聴いたり、児童が中心になって会の進行をする様子を見たりすることができ、様々な刺激を受ける機会となった。鰍沢小の児童が分校に来た際には、「支援学校ならではの『遊びの指導』という授業があることを知って驚いた」とか、「校舎が平屋建てなのが新鮮に映って見えた」という発言が聞かれ、分校に興味を示す児童が多くいた。互いの様子を知りあえたことは意義深いものであった。

学校間の事前打ち合わせは２回とも事前に実施計画等をメールでやりとりし、直前には対面で打ち合わせを行うこともできた。互いの児童の様子を伝えあい適切な内容をお互いに設定でき、当日の円滑な会の進行につながったと思う。担当者同士の話し合いがしっかり行えたことは大変ありがたかった。来年度も事前の打ち合わせを行ったうえで交流に臨めるよう、申し送りをしたい。

（２）中学部

今年度は２回とも直接交流を行うことができた。久しぶりに対面で交流できることは生徒たちにとって期待感や充実感が大きかったと感じる。学部全体で５名の分校の生徒にとって、１８名の鰍沢中学校の生徒と一緒に活動することは貴重な経験であった。また、分校で比較的障害の重い生徒がいるチームでは、その生徒にどうサポートしたらよいかわからずに最初は消極的だった鰍沢中学校の生徒たちも、教師のアドバイスで積極的にかかわろうと試行錯誤する姿が見られ、分校の生徒たちへの理解にもつながったのではないかと思う。事前打ち合わせはコロナ禍ということもあり、実施計画等はメールでのやり取りで行った。生徒の実態などもメールで共有し両日とも円滑に進行できたが、やはり対面で実施計画の確認や生徒の実態についての説明等が出来たら細かなところまで打ち合わせができ、より充実した交流につながると思うので、コロナの感染状況によるが来年度は対面での事前打ち合わせも行いたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）　地域の方々に障害のある児童生徒の様子や本校の教育活動に理解を深めてもらう。

（２）　地域の方々との交流活動を通じ、児童生徒が積極的に社会と関わろうとする力を育む。

（３）　児童生徒の生活経験を広め地域の方々との豊かな関係を築く。

２　交流先

学　部	地　域　交　流　先
小学部	中部区活性化プロジェクト、下部地区民生委員児童福祉部
中学部	鰍沢奉仕活動の会、下部地区民生委員児童福祉部

３　実施状況

学部	月　日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
小	５月１７日（火）	中部区活性化プロジェクト	全学年	生活単元学習	サツマイモの苗植え
	１０月１８日（火）				芋掘り
小	２学期	下部地区民生委員児童福祉部	全学年	遊びの指導	直接交流は中止、昔の玩具を借り学部ごとに体験
中	３学期		全学年	体育・自立活動	
中	１１月９日(水)	鰍沢奉仕活動の会	全学年	体育・自立活動	ボッチャ

４　地域交流の様子

（１）中部区活性化プロジェクトとの交流

１回目はサツマイモの苗植えを行った。事前に畑の畝づくりや苗の購入場所についてアドバイスをいただくことができたので、大変心強かった。当日は３名の方が来校され、苗の植え方を実際に植えながらわかりやすく教えていただいた。畝が３本だったので、地域の方に畝ごとに担当していただき、一人ずつ順番に植えることで丁寧にかかわっていただくことができた。

２回目も３名の方が来校し芋掘りを行った。芋の生長がどうか心配していたが、見事に育った大きな芋を収穫することができ、地域の方も児童も共に歓喜の声を上げていた。代表の方からは、「なかなか見られないくらいの豊作だ」とお褒めの言葉をいただいた。大きな芋がとれたことでみんなの気持ちも大いに盛り上がり、あっという間の楽しい時間を過ごすことができた。昨年度も同じ方々と交流したので、地域の方のお名前を憶えている児童もいた。交流後、校外でお会いする機会があると、声を掛け合う関係となり、地域との関係が深まったと感じた。

（２）下部地区民生委員児童福祉部との交流

本年度も間接交流の実施となった。小学部では、２学期の「あそびの指導」の時間に、昔の遊びという単元で借用したおもちゃで遊んだ。繰り返し遊ぶ機会を設けたことで、根気よく練習して紙でっぽうが鳴らせるようになったり、竹とんぼを遠くへ飛ばせるようになったりする児童がいた。また、紙飛行機を教師に手伝ってもらいながら自分で作って飛ばす児童もおり、昔の遊びが児童に定着した。教師も懐かしい遊びに触れたことで「こんな遊びもあったよね」とゴム跳びを思い出して児童に伝える様子も見られ、遊びの幅が広がっていった。

中学部では、体育・自立活動の授業で体験した。生徒たちは最初遊び方がよくわからずぶ

んぶんゴマや紙でっぽうはうまく回転しなかったり、いい音が出なかったりと苦戦していた。教師が見本を見せ一緒に試していくうちに、徐々に上手に扱えるようになっていった。上手になってくると気持ちも高まり集中して遊び、紙飛行機は色々な大きさのものや形の違うものを次々に飛ばして、遠くに飛ばせた時にはガッツポーズをする生徒もいた。生徒も教師も一緒に夢中になってチャレンジすることができた。

（３）鰍沢奉仕活動の会

今年度は多目的ホールでパラスポーツのボッチャを通して直接交流ができた。６名の方が来校されたが何年かぶりに来られたという方もおり、コロナ禍以前の交流のお話もしていただいた。最初に一緒にラジオ体操を行い、その後４チームに分かれて試合を行った。鰍沢奉仕活動の会の方はボッチャの経験がないということで、分校の生徒の見本を見ていただいてから行った。試合が始まると、分校の生徒が狙った所にボールを投げた時には一緒に手をたたいて喜んでくれたり、鰍沢奉仕活動の会の方が投げる時には生徒たちも応援したりするなど盛り上がることができた。

短い時間ではあったが楽しい時間を過ごすことができた。また、分校まつりでは代表の方に学習発表の参観や、授業で作った作品や修学旅行の掲示なども見ていただくことができた。日頃の分校の生徒たちの様子も知っていただく良い機会となった。手縫いの雑巾もたくさんいただき、早速、大掃除や新学期の掃除で活用させていただいた。

５　成果と課題

（１）中部区活性化プロジェクトとの交流

地域の方々が大変好意的で、畑づくりや苗の購入に関するアドバイスがいただけたことは大変ありがたかった。そのおかげでたくさんの芋を収穫することができた。当日も児童にわかりやすく説明をしてくださり、優しくかかわっていただいたので、児童が緊張することなく、楽しくまた積極的に活動する様子が見られた。土いじりが大好きな児童が多く、一緒に活動する題材としてサツマイモは適当であった。収穫した芋で、後に全校で焼き芋集会が開けたことも大きな成果である。

苗植えから芋掘りの間、なかなか授業の中でサツマイモの生長の様子を見たり、手入れをしたりする時間をとることができなかったことは今後の課題である。ふじかわ分校ではここ

数年鳥獣被害があり、畑で作物を作る活動が難しくなっている現状もある。地域の方々とどのような形で交流していけるのか模索する必要性が感じられた。

（２）下部地区民生委員児童福祉部との交流

今年度も直接的な交流の実施ができなかったが、手作りのおもちゃをたくさん下部地区民生委員児童福祉部の方からお借りし、そのおもちゃで遊ぶことで間接交流を実施した。この交流のおかげで児童生徒も昔のおもちゃの遊び方を覚え、上達してきたように感じる。シンプルではあるが予想以上に児童生徒たちが集中して遊ぶ様子が見られた。また直接交流は叶わなかったが、分校まつりで児童がおもちゃで遊んでいる様子の掲示や日頃の学習成果を大変興味深く見ていただくことができた。来年度はぜひ直接の交流で、児童生徒そして教員も一緒に昔の遊びの手ほどきをいただけたらと思う。

（３）鰍沢奉仕活動の会との交流

コロナ禍で心配されたが直接交流が実施できた。今回は６名の方の参加があり、分校の生徒のことを知っていただく良い機会となった。大掃除のお手伝いの声掛けや雑巾もいただき、分校のことを気にしていただいてとてもありがたかった。今後も大勢のかたとの交流が出来るよう、交流内容を検討していきたい。

（４）全体を通して

今年度は新型コロナウイルス感染症の心配はあったが、ほぼ全部の交流先との直接交流が実施できた。地域交流は高齢の方も多いので学校が感染源とならないよう活動の内容や場所を検討し、感染症対策をしっかりとした上で、今後も充実した交流ができるようにしていきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）　居住している地域の小学校・中学校の児童生徒とともに学び、理解を深める。
（２）　居住している地域の方々への理解や交流及び共同学習を促すきっかけとしていく。
（３）　学校卒業後の地域での生活を円滑にすすめられるように地域の人間関係を継続し、深める。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部１年	市川三郷町立市川小学校	2	１１月１１日（金）音楽、体育、図工 ２月　９日（木）
小学部３年	南部町立睦合小学校	2	１２月　８日（木）図工 ２月１６日（木）社会
小学部４年	身延町立身延小学校		不実施

小学部５年	身延町立身延清稜小学校	０	１１月２２日（火）　中止 ２月２２日（水）居住地校の都合で中止
小学部５年	富士川町立鰍沢小学校	２	１２月　９日（金）　体育 ２月１０日（金）　図工

３　成果と課題

（１）小学部

①１年生

市川小学校と交流を行った。はじめは緊張していたが、兄の教室を訪れるなど場に慣れてくると途中から音楽の授業に入ることができ、カスタネットでリズムに合わせて打つことができた。休み時間の教室移動では、友だちが声をかけてくれて手をつないで体育館に行くことができた。体育ではマット運動をし、友だちの様子を見て同じように前転などをすることができた。休み時間には友だちと遊具やボールで遊ぶなど、リラックスしてかかわっている様子が見られた。図工では、箱を並べて家を作ったり、おままごとをしたりして楽しそうに活動していた。

初めての居住地校交流で半日を一緒に過ごしたが、長い時間共に過ごすことで、早く溶け込むことができ有意義な時間となった。

②３年生

今年度も睦合小との交流を行った。家庭では交流の日をカレンダーで指差しながら楽しみにしており、交流が本児にとって楽しみなものとなっているようだ。迎えに来てくれた友だちと一緒にスムーズに教室に入ることができ、まわりの様子や友だちの顔を眺めてうれしそうな表情をしていた。自分から友だちにかかわる姿も見られた。今回は初めて２時間続きの図工に参加したが、題材が本児の取り組みやすい内容のものだったり、友だちが自然に働きかけてくれたりすることで、落ち着いて作品作りをすることができた。いろいろな方法で布をつなげたり、切ったものを画用紙に貼りつけたりする活動に楽しく取り組むことができた。相手校の児童も本児が来ることを楽しみにしている様子が見られた。

③４年生

年度当初は身延小と年に２回交流を予定していたが、都合により実施を見送った。

④５年生

一人は身延清稜小学校と２回交流予定だったが、感染症の流行により１回目の交流が見送りとなっている。

もう一人は鰍沢小との交流を行っている。今年度は学校間交流でも同学年と交流を行っており、なじみの深い関係となっている。体育の授業に参加しT-ボールに取り組んだ。準備運動やグラウンド走など、友だちの様子を見ながら活動することができた。教師の説明も集中して聞くことができた。キャッチボールは楽しかったようで夢中になって取り組んでいた。バッティングでは、打ってから走塁するなどのルールが分かりづらいところは友だちが伴走して導いてくれ、自然に援助を得ることができ共に楽しく活動することができた。

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立やまびこ支援学校
所 在 地	〒４０９－０６１８　山梨県大月市猿橋町桂台三丁目３１番地１
電話番号	０５５４－２３－１９４３
校 長 名	小林　勝
交流及び共同学習主任名	山口　清美

２　学校教育目標

自立と社会参加を目指すために個に応じた指導の充実を図り、家庭や地域と連携して主体性をもって生きる心豊かな人間を育てる。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	大月市立猿橋小学校・校長	
2	大月市立猿橋中学校・校長	委員長
3	山梨県立上野原高等学校・校長	
4	山梨県立都留高等学校・校長	
5	上野原市立図書館ボランティアたんぽぽ・代表	
6	大月市デイケアサービスセンター「やまゆり」・施設長	
7	大月商店街協同組合・理事長	
8	大月市保健活動推進員会・会長	
9	美容室「Happiness」・代表	

２　経過

開催時期	内　　容
5 月 30 日(月)	推進委員の任命・委嘱、委員長の選出、令和４年度の実施計画について
1 月 27 日(金)	令和４年度交流及び共同学習の実施報告、次年度の見通しについて

Ⅲ　学校間交流における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

交流校と本校の児童生徒が共に活動することを通して相互に理解を深め、共に学び合い、人間関係の形成や社会参加等の力を身に付ける。

（1）小学部

直接あるいは間接的な交流を通して、相手のことに気づいたり意識して関わったりする経験をする。

（2）中学部

直接あるいは間接的な学びあう活動を通して、自己表現をしたり、相手を受け入れたりして、人間関係の幅を広げる。

（3）高等部

直接あるいは間接的な学びあう活動の中で、相手との関わり方を考えたり、相手を認めたりして、望ましい社会性を身に付ける。

2　基本方針

・各学部で年度当初に学校間交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
・児童生徒の実態や発達段階に合わせて、活動形態、活動内容等を工夫する。
・相手先と連絡を密に取り合い、双方のねらい等について共有する。
・単発的な活動となるのではなく、事前学習や事後学習も含めて一体的、継続的な活動となるよう計画する。
・共同学習という側面を大切に考え、各教科等の指導計画に基づいて実施を検討し、特別活動のみの計画とならないようにする。
・交流終了後は、児童生徒の様子について、個別のねらいに即した適切な評価を行う。

3　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	大月市立猿橋小学校
中学部	大月市立猿橋中学校
高等部	山梨県立上野原高等学校、山梨県立都留高等学校

4　実施計画

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	５月	猿橋小学校	全学年	国数	プロフィール交換
	6/15	猿橋小学校	全学年	音楽	学習発表やレクレーション（オンラインによる交流）
	10/12	猿橋小学校	全学年	体育	グループに分かれての活動（オンラインによる交流）
中	6/14	猿橋中学校	全学年	音楽	オンラインにて音楽の授業
	11/25	猿橋中学校	全学年	美術	オンラインにて小グループ活動
高	7/8	上野原高等学校	全学年	職業	一緒に作業学習を行う
	12/2	上野原高等学校	全学年	職業	一緒に作業学習を行う

５　学校間交流の様子

（１）小学部【猿橋小学校（３年生）との交流及び共同学習】

今年度は、プロフィール交換、２回のオンラインを活用した活動、お礼の手紙交換と間接的な交流を行ってきた。１回目の交流会では、お互いの授業の様子を発表し、その後本校の児童が考えた「にじ」の身体表現を、画面越しで一緒に行う活動に取り組んだ。画面に近づき、「おーい！」と手を振り合ったり、「水族館は好き？」と質問すると、身体で丸印を表現した返事を受けたりするなどのやり取りを楽しむ様子がうかがえた。２回目では、ボッチャと、交流先の「ソーラン節」の踊りを見て一緒に踊る活動に取り組んだ。ボッチャでは、本校と交流先の混合チーム２つで対戦を行い、同じチームの児童の名前を画面越しに呼び合うことにした。大きな声で名前を呼ばれるとそれに気づき「はい！」と返事をしたり、画面に顔を向けて注目したりと自然と交流先を意識する様子が見られた。手紙交換では、小学校から「一緒に活動できて楽しかった。」「友達になれて良かった。」などの感想が多く寄せられた。

（２）中学部【猿橋中学校奉仕部との交流及び共同学習】

本校の音楽授業に合わせ猿橋中もハンドベルで同じ曲を事前に練習し、本校教師による授業にオンラインで参加した。互いの演奏を聴き合ったり、小グループに別れ、歌の表現を一緒に考えたりするなどの活動を行った。1回目の交流で関わる楽しさを感じた猿橋中学校生徒が、本校生徒に楽しんでもらいたい、お互いの良さを感じ合いたいという気持ちをもって交流内容を考えた。学校紹介や集団でのゲーム活動の後、小グループに別れて同じテーマで話したり作品を作り見せ合ったりする活動を企画しオンラインで実施した。事前活動としてフリートークで話す内容や作品作りの準備を行い、事後、感想と作った作品を交換し合った。

（３）高等部【上野原高等学校との交流及び共同学習】

３年ぶりに上野原高等学校から福祉の授業を選択している生徒が来校し、対面での交流を計２回実施した。２回とも職業Ⅱの授業に参加し、４つの作業班（Ａ組、工芸、サービス、農園）に分かれ共に活動を行った。はじめの会とおわりの会は、それぞれの作業班をオンラインで繋ぎ、リモートで行った。作業班での活動に分かれると、はじめは緊張していた様子の生徒も活動を通して徐々に打ち解け、お互いに意見を出し合ったり協力して作業を進めたりする様子が見られた。本校の授業の様子を知ってもらったり、同世代の高校生からのアドバイスをもらって作業に反映させたりできる機会となった。事前学習では、お互いにプロフィール表を作成して交換した。また、各作業班で作った製品と高校生が授業の中で制作したプレゼントを贈り合ったり、事後にはお礼の手紙を交換したりした。

高等部【都留高等学校との交流及び共同学習】

都留高等学校との作品交流を実施した。都留高等学校文化局発表会において本校高等部生徒が美術の授業で制作した作品を展示した。また、本校においては都留高等学校美術部生徒の作品を展示し、作品を鑑賞した感想を相互に送り合った。お互いの作品を見合い、お互いの理解を深めることができ、「一つ一つ色合いが引き込まれるようだった」「また次も交流したい」等の感想が寄せられ、作品を通して相手の思いや考えについて思いを馳せ、表現手法に興味をもって鑑賞する様子が見られた。

６　成果と課題

（１）小学部

今年度は昨年度同様オンラインでの交流会となったが、２回実施することによってよりよい活動内容を検討、実施することができた。

１回目の活動では、一方通行のかかわりが多く、画面に注目することや、相手を意識することが難しかった。そのため、２回目では、相手を意識したやりとりのある交流を目指し、昨年度のボッチャの活動に、「お互いの名前を呼び合う活動」を追加して取り組んだ。名前を呼ばれて返事をすることは、低学年も学校生活の中で取り組んでいることであり、実際に名前を呼ばれると返事をしたり画面に注目したりすることができた。また、名前を呼ばれることに期待感をもち、活動に意欲的に参加することができた。このように、名前を呼ぶことに対して、顔を向ける、返事をするなどのレスポンスが画面越しに見えることで、相手も「自分の言葉が伝わった」と実感することができたのは大きな成果である。

今後も、交流先と連携をとりながら、実施学年や小学部の児童の実態を踏まえた上で、簡単なやり取りのできる活動内容を検討していきたい。

（２）中学部

１回目、２回目とも感染症対策としてオンラインで交流を行った。発表し合う、共に創造するといった活動を取り入れたり、個別の時間を設けたりすることで有意義な交流を行うことができた。

１回目、音楽を通しての交流では、同じ曲の演奏を披露しあうことを通し、互いの学校の良さを感じることができた。また、小グループで意見を出し合いながら歌詞の表現を考えることで、共に創造する楽しさを味わうことができた。２回目の交流では、猿橋中の生徒は、どうしたら本校の生徒が楽しめるだろうかと相手を思って企画を考えた。その結果、本校生徒の喜ぶ姿を見ることができ、大きな達成感を得ることができた。また同テーマでの作品作りからは互いの発想や技術のすばらしさに触れることもでき、双方ともに心を動かされる交流となった。

音楽や美術的な要素を取り入れることで、本校の生徒の魅力を伝えることができたように思う。また、大きいグループでの活動から小さいグループに移るという流れも、関わりへの積極性に繋がっていたと思う。

（３）高等部

コロナ禍での交流ということで、両日とも半日の交流会となった。短時間であったが、２回とも同じメンバーでの活動ということもあり、活動を通して自然と会話が生まれ、比較的障害の重い生徒が自分から相手の手を取ってかかわろうとする様子も見られた。本校生徒にとっては普段から行っている作業班での活動であるため、自信をもって取り組むことができ、積極的にかかわろうとする気持ちを後押しすることとなった。また、活動時間内だけでなく休憩時間や見送りの時間に、同年代らしい会話や笑顔が見られるなど自然なかかわり合いが見られた。事前にプロフィール交換を行ったことで期待感が生まれ、当日のスムースな交流に繋げることができた。

昨年度のオンラインでの交流があったからこそ、今年度の対面での交流に自信をもっ

て参加できた生徒もいた。また、全体会をリモートで行ったことで比較的少人数の中で活動や感想発表を行ったため、堂々と取り組むことができた生徒もいた。オンラインの活用や事前事後の取組等も含め、生徒の実態に即した形で実施できると良い。

Ⅳ地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

地域の方々と関わることを通して、経験を広げ、地域社会の中で主体的に生きていく力を身に付ける。

（１）小学部

地域の方々と場を共有し、活動を楽しみながら様々な人とふれあう経験をする。

（２）中学部

地域の方々と共に活動し、関りを深めていくことを通して、対人関係の幅を広げる。

（３）高等部

地域の方々と共に活動し、地域社会への理解を深めることを通して、地域社会の一員という気持ちをもつ。

２　基本方針

・各学部で年度当初に地域交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
・地域の方と連携を大切にし、連絡を密に取り合いながら協力を得ていくようにする。
・交流相手先については、学校、地域、児童生徒の実態に応じて総務部、各学部で相談の上、決定する。
・学校周辺の地域社会とのつながりを意識し、積極的に情報発信を行う。
・単発の活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように各教科等の指導計画に基づいて実施を検討する。
・交流相手先に応じて、活動内容、集団の大きさやねらい等を検討する。

３　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	上野原図書館ボランティア（たんぽぽ会）
中学部	美容室「Ｈａｐｐｉｎｅｓｓ」
高等部	大月商店街、大月市デイサービスセンター「やまゆり」、 大月市保健活動推進員会（オオツキッチン）

４　実施計画

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	2/1	上野原市立図書館ボランティア	全学年	国語算数	絵本の読み聞かせなど
中	1/30	美容室「Happiness」	３年	総合的な学習の時間	髪の手入れを始め身だしなみについてアドバイスを受ける
高	6/14	大月商店街	１年	総合的な探究の時間	買い物学習、商店街でインタビュー活動など
	6/14	大月市デイサービスセンター「やまゆり」	２年	総合的な探究の時間	利用者の人々を知る。レクレーション、プレゼントの企画・実施
	12/8	オオツキッチン	３年	家庭科	食育講話、卒業後の生活習慣について考える活動など
寄宿舎	10/24	山梨県立都留高等学校	寄宿舎生	余暇活動	プロフィールや校舎・生活の様子の交換、作品交流など

５　地域交流の様子

（１）小学部（２月１日㈬に実施予定であったが中止）

上野原図書館ボランティア「たんぽぽ会」の方々に来校いただき季節の絵本の読み聞かせを行う。絵本読みという楽しい活動を、地域の方と共有することで、人とのかかわりを受け入れる、かかわる経験を積むことを目指して取り組んでいく。Ａグループ（１．３．４年生）とＢグループ（５．６年生）に分かれて活動を実施し、その後にはお礼の手紙を作成しプレゼントする予定だった。

（２）中学部（１月３０日（月））

高等部進学を前に、自分自身に目を向け、身だしなみへの関心を高めることを目的に桂台地区の美容室の方との交流をはかった。事前に身だしなみについての学習を行い、そこで日ごろの頭髪に関する悩みややってみたい髪型について考えた。当日はそれらの質問に答えてもらったり、似合う髪形をアドバイスしてもらったりする活動を通し、地域の方とコミュニケーションをとった。自分に似合う髪形をしてファッションショーを行い、いきいきとした姿を美容師に見ていただけた。

（３）高等部

①大月商店街

事前学習では、自分たちの学校がある大月市についての学習を進め、大月商店街について知ったりインタビュー内容を考えたりした。当日は、公共交通機関を利用して現地に出向き、実際に商店街を歩いてどんなお店があるかを確認したり買い物学習を行ったりした。インタビュー活動や買い物学習を通して、商店街の方々と交流することができた。どのお店も温かく迎えてくださり、本校の生徒のことを知っていただいたり地域の商店街について知ったりする良い機会となった。

②デイサービスセンターやまゆり

事前学習で高齢者について学習し、望ましい関わり方や、相手の方々に喜んでもらえるレクリエーションやプレゼントについて考えた。プランターに色を塗って花の苗を植え、オリジナルの寄せ植えを作りプレゼントした。当日は、はじめの会や終わりの会の運営をし、事前に考えた「グーチョキパー」の手遊びや新聞紙の玉入れゲームを一緒に楽しんだ。コロナ禍で普段は外部からの訪問に制限がある中での交流会で、当日は利用者の皆さんもとても楽しみにしていてくださり笑顔が見られた。

③オオツキッチン

「働くための健康管理や食事について考え、卒業後の生活に活かす。」ことをねらい、飲食物に入っている糖分や塩分について推進員の方の話を聞いた。普段飲んでいるジュースに入っている砂糖の量をスティックシュガーで確認すると、生徒たちは驚きを隠せない様子だった。推進員の方と一緒に、栄養バランスが良い献立作成に取り組み、自分の好きなメニューを取り入れながらも、健康に良い食事を意識している様子だった。また、推進員の方々からは、生徒たちのために作成した「簡単に作れる料理のレシピ集」を配付していただいた。「これ作ってみたい！」「これなら作れるかも？！」と嬉しそうに推進員の方と話をする様子も見られた。

（３）寄宿舎

今年度も昨年度同様、新型コロナウィルスの影響により、オンライン交流となった。交流先である都留高等学校のボランティア同好会のメンバーと、自己紹介を兼ねてプロフィール交換をし、お互いの好きなことや苦手なことを伝え合う機会を作った。届いたプロフィールの掲示に興味津々で、「なんでかな、質問してみたいな」等、話をするのが待ち遠しい様子が見られた。また、「読書の秋」をイメージして栞を作成し、舎生のメッセージと共に都留高校生に届けた。それに対して都留高校生から、ボランティア同好会のメンバーだけでなく、新たに生徒会役員のプロフィールも届き、交流会に加わる等、交流の幅が広がった。当日は、プロフィールを見て疑問に思ったことをお互いに聞いたり教えたり、画面

を通してのジェスチャーゲームを行ったりする等、和気あいあいと楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

６　成果と課題

（１）小学部

冬場の天候不良により、開催ができなかった。交流相手が少し離れた地域の方のため、天候に左右される点で開催時期等を考える必要を感じた。今後は、桂台地区など近くの地域で交流先をみつけていきたい。

（２）中学部

交流相手が学校のすぐ近くの美容室の方ということで関心を高くもつことができた。髪の毛の寝癖の直し方など生徒が自分たちの困っていること、やってみたい髪型などを尋ねると、具体的に解決策を示してくださり、一人一人が実践できたことで生徒達はコミュケーションをとってアドバイスをもらうことの意味を知ることができた。美容室という場所に不安を感じていた生徒も、今回の美容師さんのところなら挑戦してみたいという気持ちを持つことができた。一人一人が素敵な髪型に変身し笑顔が輝いていた。その後、習ったことを日常で実践する姿が多くの生徒に見られた。

会話が難しい生徒、自分の意思が言葉で伝えられない生徒に対しては、生徒が安心して地域の方と関われる活動を、始めに用意する必要があったと感じた。

（３）高等部

地域の方や施設等についての理解を深めたり、本校生徒の様子を地域の方々に発信したりする良い機会になった。それぞれの交流先や内容に違いはあるが、地域の方との学びということで、学校で普段受けている授業とは違い、新鮮な気持ちで学習することができた。

課題としては、当日の移動に時間がかかり活動時間が短いことがあげられた。対面交流だけでなく、事前に学校の様子や生徒の様子を知っていただく機会を設けたり手紙のやり取り等も実施したりしながら、時間を有効に使って交流を深められると良い。

今後も担当者間でねらいをしっかりと共有し、年間指導計画や個別の指導計画に位置付けて有意義な活動に繋げていきたい。

（４）寄宿舎

今年度も直接会って交流することはできなかったが、オンライン交流までにプロフィール交換や栞などの作品交流を経ることで、相手校の生徒への興味関心を高め相互理解を深めることができた。オンライン交流は昨年に引き続き２年目となったことで、舎生も見通しを持ち、ゲーム等を楽しむことができた。

交流後の感想文には、「私は緊張して積極的に話せませんでした。今度は思いっきり楽しみたいです。」と書いた舎生もいた。これからも交流を重ねて、自信につながればよい。

今後、新型コロナウィルス感染症の状況が終息して制限が緩和されるようになれば、交通機関を利用して相手校へ出向く等、社会経験の積み重ねになる活動にもしていきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

居住する地域の同年代の児童・生徒共に学び、相互理解を深める。

居住する地域の一員として、将来豊かに生活していくための望ましい人間関係の基礎を築く。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部１年	大月市立七保小学校	2	特別活動　図工 自己紹介がしっかりとできレクレーションにも張り切って参加できた。２回目は、作品を作りながら友達との会話を楽しんだ。自分を出して活動できるようになった。
小学部３年	都留市立東桂小学校	2	特別活動　体育　図工 ゲームのルールを理解して友達と遊んだり、班の友達と表現活動を行ったりした。もう一度やりたいことを自分から伝えるなど意欲的だった。２回目はクラスの友達が手紙を用意して待つほどの歓待を受けた。図工では黙々と作品を作り完成後みんなの作品とつなげ、班代表として発表した。
小学部６年	大月市立鳥沢小学校	1	特別活動 体調不良のため、ようやく３学期に実現する予定となった。卒業カウントダウンカレンダーを作り、双方の学校で飾る予定。
中学部１年「準ずる教育課程」	大月市立猿橋中学校	9	定期試験　総合 回を重ねるごとに、試験の場に生徒がいることが当たり前のような雰囲気になり、伴って生徒も場になじんでいる様子が見られた。
中学部３年	上野原市立上野原中学校	2	特別活動 今年度が初めての交流となる。音楽鑑賞会と、書き初め大会に参加した。小学校までの友達と成長を確かめ合ったり、中学校の学校生活を肌で感じたり

			することができた。休み時間には、友達がかわるがわる声をかけに来てくれ、再会を喜ぶ姿が見られた。

３　成果と課題

今年度は、コロナ禍であったが、直接交流ができるような状況になり希望者が増えた。居住地の学校を直接訪れ、実りある体験をすることができた。

小学部の１年生、３年生の児童は、自己紹介や発表などの場面で自分から意思や気持ちを伝えようと一生懸命に交流先の児童の前で話すことができた。休み時間やレクリエーションの時間には、ゲームのルールを理解し相手校児童と楽しく活動できた。２回目には、関わる友達も広がり一層のびのびと活動することができた。保護者や担任も児童の新しい一面を見ることができ驚いていた。交流が、児童の社会性を広げるきっかけとなったのを感じることができた。交流を重ねてきた６年生においては、相手校の児童が率先して活動内容を考え、提案してくれた。中学部３年生は、３年ぶりに地域の友達と再会し、音楽鑑賞や書き初めを一緒に行う中で学校の雰囲気を味わったり、休み時間に友達が次々訪れ会話を楽しんだりすることができた。地域の友達との結びつきを再確認するきっかけとなった。

交流先校からも児童・生徒が相手を主体的に理解しようとする気持ちが芽生えてきた等の手応えで、継続のお話をいただくことができた。いずれの交流先も、事前に本校児童・生徒の様子を細かに聞き取ってくださり、丁寧な受け入れをしてくださった。相手校の事前の細やかな準備・指導があっての充実した交流であったと感じる。

児童・生徒の情報、保護者の願いを丁寧に伝えることで、的確な交流の場づくりにつながると感じた。今後も、関わる双方の担任、保護者で、実りある交流となるよう意向を丁寧に共有していけるように努力したい。

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立富士見支援学校
所 在 地	〒４００－００２７　甲府市富士見一丁目１－１
電話番号	０５５－２５２－３１３３
校 長 名	小倉　正一
交流及び共同学習主任名	亀岡　茜

２　学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

本校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

Ⅲ　地域における交流活動（地域交流）

本校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

Ⅳ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

本校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

本校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復帰後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取組になっている。

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立富士見支援学校旭分校
所 在 地	〒４０７－００４６　韮崎市旭町上條南割３３１４－１３
電話番号	０５５１－２２－７１４４
校 長 名	小倉　正一
交流及び共同学習主任名	石原　浩子

２　学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

※当校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

Ⅲ　地域における交流活動（地域交流）

※当校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

Ⅳ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

当校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

当校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復籍後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取り組みになっている。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立ふじざくら支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立ふじざくら支援学校
所 在 地	〒４０１－０３０１　山梨県南都留郡富士河口湖町船津６６６３－１
電話番号	０５５５－７２－５１６１
校 長 名	手塚　雅仁
交流及び共同学習主任名	和光　司

２　学校教育目標

○自立を目指し、社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる。
○児童生徒一人一人の能力や個性を最大限引き出し生かす。
○確かな学力、豊かな情操、健やかな体を育む。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	鳴沢村立鳴沢小学校・校長	
2	富士河口湖町立河口湖北中学校・校長	
3	山梨県立富士北稜高等学校・校長	
4	鳴沢村立鳴沢小学校・交流及び共同学習担当	
5	富士河口湖町立河口湖北中学校・交流及び共同学習担当	
6	山梨県立富士北稜高等学校・交流及び共同学習担当	
7	山梨県立富士北稜高等学校・交流及び共同学習担当	
8	山梨県立富士ふれあいセンター・所長	会長
9	障害者支援施設はまなし寮・施設長	
10	富士吉田図書館おはなし会このはなさくや・代表	
11	喜楽広場・代表	
12	富士山みはらし・代表	
13	山梨県立ふじざくら支援学校・校長	副会長
14	山梨県立ふじざくら支援学校・ＰＴＡ会長	副会長

２　経　過

開催月日	内　　容
５月	第１回推進会議（紙面開催）「委員の委嘱及び交流計画について」
２月	第２回推進会議（紙面開催）「今年度の実施報告について」

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）全体

・交流を通じて児童生徒の経験を広げ、豊かな人間性を育む。
・地域や同年代の人と関わるための社会性や意欲を養い、自立や社会参加を促進する。
・共生社会の実現に向けて、様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

（２）小学部

・交流会を通して同学年の児童を知る。
・同学年の児童と作品を交換し、相手校の学習の様子や友達の良さを知る。

（３）中学部

・同年代の生徒と進んで関わりながら共に学ぶ楽しさを味わい、より豊かな人間性を養う。
・交流及び共同学習を通して、互いに理解し合おうとする。

（４）高等部

・地域の同世代の生徒と協力して活動する中で、人と関わる力を身に付けることができる。
・共に学び合う中で、お互いに理解し合うことができる。
・共に助け合い、支え合って生きていく仲間として意識することができる。

２　提携校

学部	交流及び共同学習提携校
小学部	鳴沢村立鳴沢小学校
中学部	富士河口湖町立河口湖北中学校
高等部	山梨県立富士北稜高等学校、山梨県立吉田高等学校

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	１学期	鳴沢小学校	全学年	自立活動 図画工作 特別活動	対面及びリモート交流（発表会、ゲーム等） 作品交流（ポプラっ子祭り）
	２学期		全学年	自立活動 図画工作 特別活動	リモート交流（発表会、ゲーム等） 作品交流（ふじざくら祭）
中	１学期	河口湖北中学校	全学年	自立活動 美術 特別活動	対面交流（ペアづくり、自己紹介ゲーム等）
	２学期		全学年	自立活動 美術 特別活動	対面交流（発表会等） 作品交流（北中学園祭） 作品交流（ふじざくら祭）
高	１学期	富士北稜高等学校	２年生	総合的な探究の時間	リモート交流（ボッチャ）
	２学期		全学年	総合的な探究の時間 美術 自立活動	対面交流（ミニコンサート、学校探検・１年生） 作品交流（ふじざくら祭）
	１学期	吉田高等学校	全学年	美術 自立活動	作品交流（吉田高校学園祭）

４　学校間交流の様子

（１）小学部

小学部は、同学年同士での交流会を鳴沢小学校と年間２回行っている。新型コロナウイルス感染防止対策から１学期に６年生、２学期に３年生が対面による交流を計画し、少人数で実施できるようにした。また、通信環境が整ったことから、対面でなくともリモートにより、相手と直接

交流できるようになった。

１学期は、鳴沢小学校の６年生が来校し、本校の６年生と対面による交流を実施した。『富士河口湖』にちなんだパズルやボッチャゲームを通して、真剣な表情で取り組みながらも友達と楽しく触れ合い、和気あいあいと盛り上がる様子が見られた。６年生以外は、学年ごとに『好きなものどっち？』『食べ物ビンゴ』などのゲームや『山の音楽家』『リコーダー演奏』などの発表を行った。画面越しでも意欲的にやり取りができる内容を工夫し、お互いが楽しめる活動を行うことができた。短い時間だったが、どの学年からも笑い声や笑顔がたくさん見られた。簡単なルールや分かりやすい活動により、児童同士が自然に関わり、友達を意識することができる充実した交流会となった。

２学期は、３年生が鳴沢小学校に赴く予定だったが、新型コロナウイルス感染防止対策により全学年がリモート交流となった。今年度２回目の交流会は、「友達に会いたいね」と話す児童もおり、多くの期待感をもって実施された。６年生は、鳴沢小学校が運動会で踊ったソーラン節、本校は修学旅行の様子を互いに視聴した。また。ジェスチャーゲームでは、画面越しに言葉を掛け合い、互いに認め合う様子が見られた。５年生は『リボンの踊り』という曲を、鳴沢小学校がリコーダー、本校がカスタネットとタンバリンを使って合奏したり、『あいうえおんがく』のダンスを一緒に踊ったりした。互いの動きや演奏を合わせる様子に、共同学習の意義を感じることができた。直接触れ合うことはできなかったが、鳴沢小学校の先生方と丁寧な打ち合わせを行ったことで、両校の児童それぞれの目的に応じた有意義な交流会となった。

（２）中学部

中学部は、例年、河口湖北中学校の２年生と交流会を行っている。今年度は、３年ぶりに年間２回の交流会を対面で実施することができた。

１学期の交流会は、本校の体育館にて実施した。自己紹介カードや名前を頼りにペア・グループの友達を探すところから交流会が始まり、キャッチボールをしながら遠慮がちにとっていたコミュニケーションも、『ゴロゴロドカン』ゲームの自己紹介を通して、次第に打ち解けていく様子が見られた。また、カメラを向けられるとお互いにポーズをとるなど、自然と交流が深まっていった。『ボール運びリレー』ではボールを落とさないように速度や持ち方を工夫したり、車いすを使用する生徒にあわせて高さを調整したりと助け合い協力する姿が見られた。また、相手の困り感を意識して関わる河口湖北中学校の生徒の様子が伺えた。生徒は一緒に過ごした時間を大切にするように、皆充実した表情をしていた。

２学期の交流会は、河口湖北中学校に赴いて実施した。生徒は久しぶりに友達に会うことを楽しみに交流会に参加していた。交流活動は、ミュージカルやダンスの交換発表、フラフープリレーを行い、活動を通して友達とより深い関係を築くことができるように計画した。河口湖北中学校の発表は、ミュージカルの『アニー』だったが、劇が始まると本校生徒も立ち上がってリズムに合わせて踊りだしたり、『Ｔｏｍｏｒｒｏｗ』を口ずさんだりして楽しむ様子が見られた。本校

は、ＧＲｅｅｅｅＮの『ソラシド』にあわせてのダンスを発表した。発表後はペアの友達と一緒になって踊り、さらに交流を深めることができた。フラフープリレーでは、友達とフラフープでつながり、協力してゴールに向かう姿に、お互いを意識し合って力を合わせる共同学習の一端が見て取れた。今年度は２回の交流会を対面で実施し、会うことを通してお互いのことをより深く知り合い、一緒に活動する楽しさを学ぶことができた。

（３）高等部

高等部は、年間２回、富士北稜高等学校との交流会を行っている。今年度は、対面による直接交流ができるように学年で実施する方法に変更したが、１回目の交流は急遽リモートによる交流となった。

１学期の交流会では、本校２年生が富士北稜高等学校の生徒とリモートで交流を行った。活動内容は、『ボッチャ』の対戦だったが、画面越しでも互いに名前を呼び合い、歓声を上げて楽しむ姿が見られた。休み時間には、フリータイムを設け、自由に関わり合える時間を作った。対面では緊張してしまう生徒も、画面越しでは自分を思いきり表現することができた。また、会話や一緒にダンス、ポージングなどを楽しむ様子も見られた。事後学習では、ビデオやスライドで友達や自分達の姿や関わり合いを振り返り、感想を手紙に書いて交換し、形に残るつながりで互いを認め合えるようにした。「先輩と話せて楽しかった。」「今度は会って交流したい。」等の前向きな感想が多かった。

２学期の交流会は、本校１年生が富士北稜高等学校に赴いて実施した。今回の活動は、ミニコンサートと学校探検を設定し、生徒間の交流を深める計画を立てた。吹奏楽部のミニコンサートでは、ディズニーやクリスマスの曲を聴いたり、手拍子や手作り楽器で合いの手を入れたりして、演奏を楽しむ様子が見られた。クイズもあり、問題に積極的に答える本校の生徒と富士北稜高等学校の生徒の対応に、お互いを理解しようとする姿を見ることができた。本校の生徒は、学園祭で吹奏楽部の劇に取り組んでいたこともあり、楽器に興味をもってミニコンサートに参加することができた。また、お礼に手作り楽器を使ったダンスを披露したが、富士北稜高等学校の生徒も一緒に手拍子をして盛り上がり、音楽を通して交流を深めることができた。学校探検では、福祉系列２年生とペアになり、学校内を歩いて回り、チェックポイントでスタンプを押すスタンプラリーを行った。広い校舎を共に歩き、各教室で様々な授業を見学し、本校にはない階段や道具に新しい発見をするなど、環境やお互いについての理解を深めることができた。最後の記念撮影まで、笑顔が途切れることのない交流会となった。

５　成果と課題

（１）小学部

新型コロナウイルス感染症防止対策により、実施直前にリモートによる交流に変更することがあったが、両校の担当者同士が対面とリモートの２案の実施計画を立てていたこともあり、スムーズに切り替え実施することができた。また、３年ぶりに対面交流が実施できたことは、生徒にとって交流相手を意識し、お互いの理解を深めるよい機会となった。イメージをすることが難しい小学部の児童にとっては､直接会って触れ合ったり､画面越しにやりとりをしたりすることが、友達としての理解をより深めることになるのだと感じた。今年度は、通信環境が整い、リモートでの交流が実施できたこと、対面での交流が実施できたことが大きな成果と言える。課題としては、移動時間や教科授業時間の確保等の負担が挙げられている。対面やまとまった時間の確保にこだわらす、学期ごとに朝の会を一緒にする等のリモートによる交流を検討していくことも必要だと考える。来年度も感染症の防止対策を講じ、両校の担当者が綿密な計画を練ることで、双方の学校に負担とならないような有意義な交流会を実施していきたい。

（２）中学部

年間２回の交流会を実施することができた。中学部段階では、画面越しのやりとりを楽しむことができる生徒が多いため、リモートによる交流でも生徒同士がお互いのことを理解することはできるが、直接触れ合うことでしか伝わらない困り感等も体験することができ、お互いに充実した交流会となった。また、今年度は、交流会の実施前に本校の教員が、河口湖北中学校に赴き、総合的な学習の時間に福祉講話の授業を実施した。交流会の事前学習を踏まえて、本校の紹介や疑似体験による学習を行い､生徒達は体験を通して､障害について考える機会となったと感じる。当日は河口湖北中学校生の思いやりの気持ちが、やさしい言葉遣いや相手に合わせた行動等に表れていた。本校の生徒も伸び伸び相手と関わる姿が見られ、相互理解の大切さを改めて感じた交流会となった。来年度も感染症の状況や生徒の実態等について、丁寧に情報交換をすることで、生徒同士が理解を深められる交流会を計画、実施していきたい。

（３）高等部

新型コロナウイルス感染防止対策により、実施直前にオンラインによる交流に変更することがあったが、両校の担当者同士が対面とオンラインの２案の実施計画を立てていたこともあり、スムーズに切り替え実施することができた。また、１２月には対面による交流も実施できた。高等部段階では、相手に会う恥ずかしさもあり、リモートによる交流の方が、かえって自分を出すことができる生徒もいる。対面による関わりによって得ることができる経験は大きいが、生徒の実態や感情に配慮することも必要だと考える。対面交流では、富士北稜高等学校に赴き、吹奏楽部によるミニコンサートや福祉系列の生徒との学校探検を行ったが､どの活動も一方通行ではなく、お互いに関わり合えるような時間も設定し、生徒同士が理解を深められるように計画を立てていただいた。交流後には、「また話をしたい。」「楽しかった。」「忘れられない。」等、相手とのつながりを意識した感想が多かった。富士北稜高等学校とは、両校の生徒にとってよりよい交流となるように配慮や協力をしていただいている。来年度も両校のねらいを確認し合い、生徒の実態等を共有しながら相談を重ね、相互理解に向けた連携を図っていきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）全体
・交流を通じて児童生徒の経験を広げ、豊かな人間性を育む。
・地域社会の人々と関わる中で、共に助け合い、支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

（２）小学部
・活動を通して地域の人と触れ合い、関わりをもつ。
・関わりを受け入れ、共に活動することを楽しむ。

（３）中学部
・地域の方々と触れ合い、社会で活動しようとする意欲を高める。
・活動を通して、関わりを深めていくとともに、人間関係の幅を広げる。

（４）高等部
・展示作品の感想を通して、地域の人々と関わっていることを知る。
・作品展示を通して、学校周辺の環境や身近な施設等で生活する人々に知ってもらう。
・作品を出展することで、社会に参加する気持ちを育てる。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	富士吉田市立図書館このはなさくや、富士ふれあいセンター
中学部	喜楽広場、銘楽堂、富士ふれあいセンター
高等部	はまなし寮、富士ふれあいセンター、富士山みはらし
全学部	富士吉田市、西桂町、富士河口湖町、鳴沢村、忍野村、山中湖村の文化祭や作品展での作品交流

３　実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	内容
小	11 月	このはなさくや	全学年	国語 特別活動	絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター
中	11 月	銘楽堂	全学年	音楽 特別活動	音楽鑑賞、ダンスセッション
全学部	11 月	富士ふれあいセンター	全学年	体育 自立活動	『目に映るものだけが本当ではないよ』手話ダンス動画の撮影
	７月 11 月 11 月 11 月 ２月 ２月 中止 中止	吉田空襲展 山中湖村文化祭 西桂町文化祭 富士河口湖町文化祭 鳴沢村文化祭 富士吉田市小中学校図工美術作品展 忍野村文化祭 忍野村福祉健康祭り	全学年	図画工作 美術 自立活動	各市町村に居住している児童生徒の作品を展示

４　地域交流の様子

（１）小学部

小学部のグループごとに、富士吉田市立図書館おはなし会「このはなさくや」の方々を迎えて交流会を行った。今年度も感染症対策の為、高学年は体育館を広く使い、低学年及びＡクラスは

各教室でリモートによるライブ配信にて実施した。プロジェクターや大型絵本を使ったり、手遊びを交えたりしながら、児童の好奇心をくすぐる工夫を凝らした読み聞かせをしていただいた。『ネコのピート』の絵本では、「かなり　さいこう！」と歌と掛け合いを一緒に楽しみながら、自分たちが話者のように絵本を読み進める様子が見られた。ブタのパペットを使った『おしまいのはなし』では、ブタの鼻がゾウのように、首がキリンのように伸びるパペットの動きに「わー」と歓声を上げて盛り上る児童が多くいた。今年度も児童が楽しめる内容を準備していただき、絵本が大好きになる有意義な時間を、また、活動を楽しみながら地域の方と充実した時間を過ごすことができた。

（２）中学部

昨年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった地域交流を３年ぶりに実施することができた。今年度は、富士北麓地域で活動している『銘楽堂』の方々に来校していただき、ピアノ、ヴァイオリン、チェロによるコンサートを実施した。生徒にとって馴染みのある曲を多く演奏していただき、曲が始まるたびに生徒は声を上げたりして、喜んで演奏を聴くことができた。『パプリカ』『ジェンカ』等、ふじざくら祭で学習発表をした時にダンスで使用した曲が演奏されると、生徒は演奏と共に立ち上がり、踊りながら楽しむ様子も見られた。また、休憩時間には、楽器や演奏について質問をしたり、一緒に記念撮影をしたり、生徒の積極的な関わりも見られた。演奏に合わせて全員が列になって曲を楽しむ場面も設定していただき､聴くだけではなく楽しみながら参加できる内容を準備していただいた。音楽を通しての交流だったが、迫力ある演奏に耳を澄まし、目を輝かせて聴いている生徒達の姿が印象的だった。

（３）高等部

富士山五合目にある「富士山みはらし」との作業班の製品販売を通した交流を予定していたが、調整段階で実施には至らなかった。

（４）全学部

富士ふれあいセンターとの間接交流では、本校の卒業生が作った「目に映るものだけが本当ではないよ」の曲に合わせた手話ダンスを撮影した。映像はメディアで使用されるので、多くの人に観てもらいたい。

本校に在籍する児童生徒が居住する各市町村とも、作品展を通して間接交流を行っている。本

校の児童生徒の居住地は、富士吉田市、西桂町、富士河口湖町、山中湖村、忍野村、鳴沢村と６市町村に渡る。本校の児童生徒を居住地域の方々に知ってもらうことを目的として、毎年、各市町村の作品展に図工、美術、自立活動（造形）などの時間に制作した作品を出展している。今年度は多くの市町村で実施された。各市町村で展示案内を出していただいたり、表彰していただいたりすることで、地域とのつながりを意識できている。また、地域の方から感想をいただき、その感想や展示の写真を掲示することで、児童生徒に作品展の様子や感想を知らせていくようにした。

５　成果と課題

（１）小学部

低学年、高学年とＡクラスの各グループで「このはなさくや」と地域交流を実施した。直前に新型コロナウイルス感染防止対策により中止となったグループもあったが、直接交流ができたグループの交流の様子をリモートでライブ配信し､小学部全体で児童が楽しめる内容が実施できた。来年度も小学部の各グループで「このはなさくや」の方々と引き続き地域交流を実施したいと考えている。

（２）中学部

感染症の影響により､「喜楽広場」の方々との地域交流は中止となったが、今年度は新たに「銘楽堂」の方々と交流することができた。来年度も実施時期や内容を相談しながら、引き続き「銘楽堂」との地域交流を実施したいと考えている。

（３）高等部

販売条件の設定の難しさにより､「富士山みはらし」との地域交流は進まなかった。来年度も関係団体と内容を相談し、実施に向けて取り組んでいきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）居住地校の児童生徒と共に学び、関係を築いたり、継続したりして相互に理解を深める。
（２）本校の児童生徒が、将来、地域で生活するための基盤を作り、社会参加を促進する。

２　実施状況

昨年度まで居住地校交流の希望が出されていた児童、生徒９名に加え、新たに小学部１年生の１名から実施の希望が出された。今年度は感染状況を考慮しながら、多くの児童生徒が対面による交流が実施できた。交流が実施できなかった児童生徒も、対面での計画作成までは進み、児童生徒、保護者ともに期待感が膨んでいた。年間で複数回の交流ができた児童生徒や終日参加した児童もおり、居住地校と保護者の理解、協力によって実りの多い交流が実施できた。

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部１年	富士河口湖町立河口小学校		実施せず

小学部２年	富士河口湖町立勝山小学校	3	対面交流（お楽しみ会）
小学部３年	富士河口湖町立大石小学校	2	対面交流（お楽しみ会）
小学部３年	西桂町立西桂小学校	2	対面交流（お楽しみ会）
小学部６年	富士吉田市立吉田小学校		実施せず
小学部６年	富士河口湖町立船津小学校	1	対面交流（給食含む１日授業）
中学部２年	道志村立道志中学校	1	対面交流（音楽）
中学部２年	忍野村立忍野中学校	1	対面交流（保健体育）
中学部３年	忍野村立忍野中学校	1	対面交流（音楽）
中学部３年	富士吉田市立明見中学校	1	対面交流（ワークショップ）

３　成果と課題

多くの児童生徒が、直接居住地校に赴いて対面による交流を実施することができた。小学部の児童は、保育園等で一緒に過ごした友達と久しぶりに会い、一生懸命言葉で伝えたり、黒板に「がんばれ」と書いたり、友達の背中にタッチしたり等、自分なりの手段で積極的にコミュニケーションをとる姿が見られた。保護者からは「友達と机を並べ、一緒に学習する姿が見られて嬉しかった。」「名前を覚えてくれていて、話し掛けてくれて嬉しかった。」「たくさん声を掛けて助けてくれて、親子で楽しく幸せな時間を過ごすことができた。」等の感想をいただいた。別々の学校で学習することになっても、友達とのつながりを意識できる機会として、また、共生社会の地盤の構築として、児童生徒や保護者がお互いに満たされた感情をもつことは大切であると考える。相手校となる居住地校の御理解と保護者の御協力によるところが大きいが、来年度もより多くの児童生徒が居住地校交流を実施することができるように努力したい。

Ⅵ　本年度の交流及び共同学習のまとめ

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りに実施できない交流っもあったが、交流校や地域交流関係団体と連携を取り合い、綿密な打ち合わせを行い、児童生徒にとって実りのある内容及び実施方法を検討して、交流及び共同学習を実施してきた。

学校間交流では、ＩＣＴ機器を活用してリモートによる交流会も実施した。対面による直接交流は、児童生徒同士が触れ合い、お互いを意識して関わり合うことで、より深い相互理解が得られると考えるが、画面越しであっても声を聞いたり、話をしたり、リアクションを見たりするこ

とで、交流校の児童生徒と関わることの楽しさを感じている様子が見られた。また、中学部では教員が相手校に赴いて福祉講話を行ったことで、相手校の生徒の障害理解に対する深まりを見ることができた。同年代の児童生徒は、お互いに刺激し合える関係にあり、共に助け合える身近な存在であると思う。触れ合いや関わりを通して、友達として理解し合える環境を整えていきたい。

地域交流では、小学部は絵本の読み聞かせ、中学部は音楽を通した交流を実施した。地域の人々と活動を共にする中で、児童生徒が活動に興味をもったり、地域の人との関わりを楽しんだりするなど、充実した時間を過ごすことができた。また、地域の人々と関わることで、本校の児童生徒を理解していただく機会にもなった。今後も継続的な交流や新聞への掲載等により、地域に広く知っていただく活動を続けていきたい。

居住地校交流では、希望者の多くが居住地校と保護者の御理解と御協力により、対面による直接交流を実施することができた。特に保護者からの感謝の言葉が多く、幼少期を共に過ごした友達との関わりを見ることができるのは、意義のあることだと感じる。多くの友達との関係を継続できるように、また、新たな友達との関係が構築できるように、居住地校交流の理解を関係者に広めていきたい。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、全ての交流計画が計画通りの実施とはいかなかったが、参加人数を少なくすることで対面による直接交流の実施を模索したり、複数のパターンを計画したりすることで、児童生徒にとっては相手を意識できる交流会を実施できたと感じる。相手があって成り立つ世界で生活するうえでは、友達や地域との関係を構築していくことがよりよく生きることにつながると考える。児童生徒が交流会を通して、刺激し合い、歌ったり、踊ったり、会話をしたり、ゲームや発表をしたりしながら、笑顔を絶やさず、自然に相手を理解していく姿が印象的であった。共生社会を目指す上で、交流及び共同学習が果たすべき役割は大きいと感じる。来年度も引き続き各学校及び関係団体と連携を図り、目的やねらいを共有し、実施方法や内容を工夫しながら、意義のある交流及び共同学習を実施していきたい。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立かえで支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立かえで支援学校
所 在 地	〒４００－０８０７　山梨県甲府市東光寺２－２５－１
電話番号	０５５－２２３－６３５５
校 長 名	柳　澤　　縁
交流及び共同学習主任名	麻　川　貴　子

２　学校教育目標

－ 子どもたちが、幸せな人生を送るために －

・心身ともに健康な児童生徒を育成する。
・個々の能力・特性を生かして、基礎的・基本的な確かな学力を育成する。
・働く意欲や喜びをもち、社会の一員として共に生きる力を育成する。
・多くの人たちとの交流を深め、豊かな人間性・社会性・道徳性を育成する。
・子どもの人権を尊び、自己実現に向け、自己選択・自己決定する力を育成する。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	甲府市立里垣小学校・校長	会長
2	甲府市立里垣小学校・交流及び共同学習担当	
3	甲府市立東中学校・校長	
4	甲府市立東中学校・交流及び共同学習担当	
5	山梨県立甲府東高等学校・校長	
6	山梨県立甲府東高等学校・交流及び共同学習担当	
7	里垣地区社会福祉協議会・会長	副会長
8	里垣地区食生活改善推進員会・代表	
9	里垣地区大正琴サークル「つみき会」・代表	
10	里垣地区民生児童委員会・民生児童委員	
11	山梨県立かえで支援学校ＰＴＡ・会長	
12	山梨県立かえで支援学校・校長	

２　年間計画

開催時期	内　　容
５月２４日	推進会議の概要説明、本年度の計画について
１月３０日	今年度の活動状況、来年度の課題について

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

同世代の児童生徒との交流活動を通して、生活経験を拡大させるとともに相互理解を促し、共に学び共に育ち合う気持ちを育てる。

（１）小学部

①同世代の児童との交流活動を通じ、生活経験を拡大させ共に学び合う気持ちを育む。

②友達とのかかわり方を身に付け、楽しくやりとりを行うことができるようにする。

（２）中学部

①同世代の生徒との交流活動を行い、生活経験を拡大させ、共に学び合い、共に育ち合う気持ちを育てる。

②同世代の生徒とのかかわりを広げ、多くの経験をする中で、基本的な生活習慣や社会生活上のきまりを身に付ける。

（３）高等部

①同世代の生徒との交流や学び合いを通して、相互に望ましい社会性を育む。

②互いの個性や立場を尊重し、思いやりや感謝の心をもって人と接する態度を育成する。

③他校の生徒との作品交流を通して、互いの理解を深めるとともに自らの表現意欲を高める。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	甲府市立里垣小学校、甲斐清和高等学校
中学部	甲府市立東中学校
高等部	山梨県立甲府東高等学校

３　実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	11 月 23 日	甲府市立里垣小学校	全学年	特別活動	かえで祭にて作品交流
	7 月～ R5. 2 月	甲府市立里垣小学校	各学年	特別活動	学習発表ポスター交流 リモート交流
中	9 月 16 日	甲府市立東中学校	2　年　生	特別活動	東輝祭にて作品交流
	7 月 7 日 12 月 13 日	甲府市立東中学校	1　年　生	特別活動	ビデオメッセージ交換 メッセージボード交換
	11 月 23 日	甲府市立東中学校	1　年　生	特別活動	かえで祭にて作品交流
	通年	甲府市立東中学校	全学年	特別活動	メッセージ交流
高	6 月 17 日 11 月 23 日	山梨県立 甲府東高等学校	全学年	特別活動	蒼龍祭・かえで祭にて 作品交流

４　学校間交流の様子

（１）小学部

里垣小学校との交流においては、例年、年２回の直接交流を行っていたがコロナ禍のため間接交流及びリモート交流を行った。昨年度リモート交流を行ったのは一学年のみだったが、今年度は学年を

増やして実施した。それぞれの学年で、掲示物や写真動画を交えて、自己紹介やお互いの学校紹介、行事や授業の様子の発表を行った。

間接交流では、互いに自分たちの学習の様子を動画や文章で伝えあった。里垣小からの掲示物を興味深げに見ていた。

リモート交流では、ダンスや楽器演奏等双方の学習活動に関連した内容をその場で披露し合あったり、事前に交換した動画について意見や感想を伝えあったりした。リアルタイムで交流をしているという実感をもって参加できる児童が多く、やりとりできる楽しさを感じながら行うことができた。

以前の直接交流のことを思い出し、「また、会いたいね」と自然と児童から言葉が出てきたり、直接交流をしたことがない学年の児童からも「来年は実際に会いたい」という感想が出てきたりと双方の児童が楽しそうに交流している様子が印象的であった。

甲斐清和高等学校との交流については、コロナ禍のために昨年度に引き続き実施ができなかった。交流のねらい及び交流の在り方について双方で確認を行い、実施方法について検討していく必要がある。

（２）中学部

①中学部１年

今年度は、新型コロナウイルス感染症の増加のため、直接触れ合うゲームなどをすることはできなかったが、同学年の仲間がそれぞれの学校で頑張っていることを伝えたいと考え、距離をとって対面でメッセージの交換交流を行った。まずお互いの学校生活の様子をまとめたビデオメッセージを、各教室で視聴した。本校の生徒は、生活の様子を映像にナレーションをつけて紹介した後、東中の生徒へ向けて「よろしくお願いします」という内容のメッセージを送った。

東中の生徒は、学習や応援練習の様子などの紹介メッセージを送ってくれた。その後、本校の生徒はグラウンドに出て、東中の生徒はクラスごとに４階廊下に出て、対面交流を行った。本校の生徒は手作りのプラカードを持ち、マイクを使ってメッセージを伝えた。東中の生徒は拍手や手を振るなどの行動で応えてくれた。頑張っている仲間が近くにいることを意識することができる機会となった。

②中学部２年

何か一緒の活動をしたいということで、東中のグラウンドで一緒にダンスを踊ったり、学園祭の発表をまとめたＤＶＤを交換したりする交流を計画した。東中の生徒はこの日のために、本校の生徒が毎朝踊っているダンスを練習してくれた。当日はあいにくの雨で、東中に行くことができなかったが、事前に交換したＤＶＤをお互いの学校で視聴した。東中の生徒の真剣な発表の様子を見て、「すごいね」「頑張っているね」などの感想が出された。その感想を大きな掲示物にして東中に渡すことで、思いを伝えることができた。東中の生徒もかえで祭の発表を見て、感想を伝えてくれた。また、東中の体育館のスクリーンに本校生徒のダンスの様子を流し、それに合わせて踊ってくれた。ダンスの様子もＤＶＤで伝えてくれた。

直接交流はできなかったが同じ活動をすることで、頑張っている仲間がいることを実感できる機会となった。

お互いの学園祭では作品交流を行った。本校からは、中学部２年生が生活単元学習で作成

した作品を東輝祭で展示していただいた。東中の作品は、かえで祭で他の交流校の作品と共に展示した。お互いの作品を見ることで相互理解を深めることができた。

③メッセージ交流

校舎の向かい合う窓にメッセージを貼り、気持ちを伝え合った。本校では、各学年で学級活動や特別活動の時間を使ってメッセージを作った。『笑顔で楽しい毎日！』（３年生）『みんなで前に進もう！』（２年生）『みんなで☆わぁ～お！！』（１年生）のメッセージを送り合った。メッセージの交換は、本校開校の際に、東中からメッセージを貼っていただき、それ以来、毎年続けられている。生徒たちも毎日メッセージを見ることができるので、直接会えなくても「次いつ会えるかな。」「元気かな。」など友達を思い浮かべる良い機会となっている。交流を深めるために良い取り組みだと思うのでこれからも続けていきたい。

東中学校
『ダイナマイト☆ブラボー！』

かえで
『笑顔で楽しい毎日！』

（３）高等部

①作品交流（蒼龍祭）

本校高等部の生徒が美術の授業で制作した作品を、甲府東高校の蒼龍祭で展示していただいた。また、本年度は、作業の授業で制作した製品（木工班：ボックスと鍋敷き、食品加工班：パンリース、クラフト班：メモ帳や葉書等、陶芸班：お皿、農園班：じゃがいも、手工芸班：あずま袋やポーチ等）や作業風景が分かる動画も放映していただいた。甲府東高校の生徒やその保護者に本校の学習や取り組みについて知っていただける場となった。また、展示場には『メッセージでつながろう』と題し、メッセージボードを掲示していただいた。「どの作品も心が込められて、素晴らしかったです」「メモ帳がかわいくて、欲しくなりました」等、作品を見た感想をたくさん聞くことができた。また、感想だけでなく「コロナが落ち着いたら会いたいですね」「お互い頑張りましょう」等、本校生徒に向けた励ましの言葉もいただいた。

②作品交流（かえで祭）

甲府東高校の生徒が制作した切り絵2点とクラス新聞2点、似顔絵2点をかえで祭で展示した。切り絵は児生玄関に掲示し、クラス新聞と似顔絵は高等部棟に掲示した。どの作品も色鮮やかで精巧につくられていて、生徒も保護者も興味深く鑑賞していた。作品を見て「これはどうやって作っているのか」など制作工程に興味をもつ生徒もいた。展示場所には、『メッセージでつながろう』と題したボードを用意し、それぞれの作品に対する感想を書くことができた。

甲府東高校の生徒から頂いたメッセージに対するお礼や「コロナがおさまったら皆さんに会えることを楽しみにしています」等、直接交流に対する期待も綴られていた。作品やメッセージを介して、互いの想いを伝え合い、心と心の交流を深めることができた。

５　成果と課題

（１）小学部

・間接交流で掲示物やＤＶＤを交換することで、相手校の学習の様子を知ることができた。

・掲示物を作る時には、前回の活動を思い出しながら、相手校の児童を思い浮かべて作成することができる児童もいた。

・学校間交流をしたことがない１年生や交流の経験が浅い低学年児童、交流校児童を思い浮かべることが難しい児童にとってもわかりやすい間接交流の実施方法を検討する必要がある。

・今年度取り組んだリモート交流を参考にしながら、来年度は全学年リモート交流を行っていくことを検討したい。

（２）中学部

・１年生は、新型コロナウイルス感染症対策（１回目）、雨天（２回目）のため直接交流はできなかったが、校庭（本校）と校舎（東中）からお互いの姿を見ながら交流することで、頑張っている仲間が近くにいることを意識することができる機会となった。

・２年生は、新型コロナウイルス感染症対策のため東輝祭に見学に行くことができず、作品を通しての間接交流となった。本校の学習の様子を知ってもらう良い機会となった。今後は、双方の状況を十分考慮し、無理のない範囲で対面での交流を再開できると良い。

・３年生は、メッセージ交流のみであるが、お互いの存在を思い出すよい機会と考えている。今後も取り組みを続けていきたい。

・今後も状況によって、間接交流になる可能性も考えられる。掲示物や作品等を用いた交流も良いが、より相手を意識した交流のために、リモートによる交流や場所や方法を工夫した対面での交流を検討していきたい。

（３）高等部

・部活動交流は、新型コロナウイルス感染症対策のため難しかった。今後の状況も踏まえ交流の仕方を模索していく必要がある。

・作品交流では、互いの学園祭でそれぞれの作品を展示した。新たな取り組みとして、作品の感想や交流校に向けたメッセージを書けるようにメッセージボードを設置した。間接的ではあったが、互いに相手を思い言葉を送り合い、思いを伝い合う良い機会になった。今後も続けていけるとよい。

・作業班の製品展示は、甲府東高校の生徒さんやその保護者に、本校の学習について知っていただける貴重な場となった。また、作業風景が分かる動画を用意し、放映していただいたことで、本校の取り組みについてより関心をもっていただくことができた。

・甲府東高校の作品は、どの作品も力作で素晴らしかった。生徒はよい作品を間近でじっくりとみることができ良かった。

・今回の取り組みを通して、甲府東高校の生徒会より心温まる感想をいただき、本校の生徒も励みにすることができた。作品を通して気持ちの繋がりを作ることができた。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

地域の人々とふれあったり、学校を取り巻く環境を体感したりすることにより、地域社会の中で共に豊かに生きていく力を身に付ける。

（１）小学部

①地域の方々とのあいさつや交流会で自然にふれあうことにより、生活経験を広げ、様々な人と楽しく過ごすことができるようにする。

②地域の方々とのかかわり方を身に付け、楽しくやりとりを行うことができるようにする。

（２）中学部

①地域の方々と活動を共にし、ふれあいを楽しみ、お互いに理解を深め合う。

②生活経験や対人関係を広げ、地域社会の中で生きていく力の基礎をつくる。

（３）高等部

①地域の方々と共に活動する中で、自分たちが人のためになっているという意識をもち、奉仕の心を育てる。

②地域の方々とのふれあいを通し、お互いを理解する。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	里垣地区民生児童委員協議会、里垣地区社会福祉協議会
中学部	中澤葡萄園、松永葡萄園
高等部	里垣地区各自治会
全　校	ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ

３　実施計画

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	12 月	社会福祉協議会 民生児童委員協議会	１・２年	生単	焼き芋会
中	7 月 10 月 12 月	松永葡萄園 中澤葡萄園	２年	生単	かさかけ、収穫、枝拾い
高	11 月	学校周辺地域	１年	特別活動	地域清掃
全校	1、2 学期	ヴァンフォーレ山梨 スポーツクラブ	全校	特別活動	児童生徒のメッセージ送付
	10 月	社会福祉協議会	全校	特別活動	葡萄の贈呈式
	通年	希望者	全校	音楽	校歌 CD の紹介と配布

４　地域交流の様子

（１）小学部

①焼き芋会（低ブロック）

地域の方が５名来校してくださり、授業で収穫したサツマイモを使って焼き芋会を行った。薪の準備を慣れた様子でテキパキと進めてくださり、大変有難かった。ここ数年はコロナ禍ということでふれあい遊びを行っていなかったが、今年度はやり方を工夫し、距離を取りながら『やきいもグーチーパー』の手遊びを一緒に楽しむことができた。

また、会の終わりには子供たちから地域の方々へ、イラストや感謝のメッセージを添えた焼き芋のプレゼントを行った。「ありがとう。」「また来てね。」など感謝の気持ちや楽しかった気持ちを伝えることができ、温かい交流となった。

（２）中学部

①葡萄園との交流

中澤葡萄園に２年Ａ組とＣ組、松永葡萄園に２年Ｂ組がそれぞれ３回に渡り訪問させていただき、ぶどうの栽培体験を通じて交流を行った。傘かけ、収穫、収穫後の枝拾いと体験を重ね、ぶどうがどのように栽培されているのか、おいしいぶどうを育てるために葡萄園の方々がどのような思いで栽培をしているのかを学習することができた。複数回の体験により、ぶどうの栽培過程や地域の名産を知ると共に、農家の方や自然の恵みに感謝する機会になった。葡萄園の方々とも絆が生まれ、笑顔で体験をする生徒の様子が見られた。

（３）高等部

①地域清掃

秋晴れの中、高等部1年生がクラスに分かれて学校周辺を中心に清掃をした。フェンスのツタや雑草を抜いたり、ゴミを拾ったり、落ち葉を集めたりと、友達と協力して作業をすることができた。生徒たちは、袋いっぱいに集めた落ち葉やツタ、雑草等を見てとても達成感を得られた様子が見られた。清掃活動中に、近くを通った地域の方々から「ご苦労様」「掃除をしてくれて助かります」等と声を掛けられ、生徒たちも嬉しそうに応えていた。地域清掃を通して、地域の方々とコミュニケーションをとることができただけでなく、地域のために自分たちも役に立てたことを実感することができた。これからも地域清掃等の地域貢献活動を継続していきたい。

（４）全体

①ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブとの交流

本校は、開校当時からヴァンフォーレ甲府との交流会を行っている。例年は全校で交流会を行い、ヴァンフォーレ甲府の監督や多くの選手、スタッフに来校して頂いている。コロナ禍で実施が難しい状況が続いたが、今年度は感染対策や活動内容を確認した上で開催した。3年振りの実施ということもあり、交流会を楽しみにしている児童生徒が多く見られた。今回は、学部ごと日を設定し、それぞれに3名の選手と交流を行った。

小学部では、6年生を中心に交流会を行った。当日は、児童が会の進行を行い、選手からサイン

色紙を頂いたり技術を鑑賞したりと楽しい時間を過ごした。

中学部では、リモートで選手の格好良い技術を鑑賞したり、3年生の代表生徒が選手と一緒にパスやミニゲームをしたりした。3年生の有志による応援は、ヴァンフォーレのユニフォームを身に着け、力いっぱいエールを送ることができた。

高等部では、ビンゴゲームをしたり、選手の技術を見たりした。生徒は、間近でプロの選手の技に触れ、驚き興奮していた。また、かえで応援団の応援を披露した。選手の方々から、「元気をもらった」「次の試合もがんばる」と声を掛けて頂き、生徒たちも喜び、達成感を感じることができた。

各学部とも選手と会話を楽しんだり、写真撮影やサインを頂いたりと交流の時間を楽しく過ごすことができた。

②葡萄の贈呈式

今年度も、里垣地区社会福祉協議会から、里垣地区で栽培された葡萄を全校児童生徒に届けていただいた。今年度は、贈呈式を実施することが難しかったため、高等部の生徒が代表で葡萄を受け取った。いただいた葡萄は、各教室で一人ひとりに届けられた。葡萄を受け取った児童生徒は、とても嬉しそうな笑顔を見せ、毎年、この日を楽しみにしている様子がうかがえた。本校からは、学校長より感謝の言葉を伝えた。全校児童生徒との交流は難しかったが、里垣地区社会福祉協議会の方々には、日頃より本校を支えていただいていることを感謝する機会となった。

③校歌『フレンズ』

校歌『フレンズ』は、作曲家の杉本竜一氏に作詞・作曲していただいた曲である。杉本氏の「多くの方々にこの曲を知ってもらいたい」という考えから、希望する方にはＣＤや楽譜を渡すようにしている。

この曲は、本校の児童生徒のありのままの姿の美しさや心の素直さを表現した曲で、聴く人にやさしさを伝えてくれている。今後も、多くの方々に届くよう、校歌『フレンズ』の交流を広げていきたい。

5　成果と課題

（１）小学部

・今年度は、低学年が焼き芋会を通して、地域の方々と交流することができた。今後も安全に実施する方法を検討しながら、継続していきたい。
・焼き芋会は、本校の児童の実態に合う方法で交流していただけた。
・交流を通して、普段できない経験をすることができている。今後も授業計画に沿った形で、交流を進めていきたい。

（２）中学部

・実施にあたっては、昨年度の反省を生かしながら、今年度の生徒の実態や学習のねらいを考慮して計画を立てた。地域の方々の協力を得て、スムーズに交流を行うことができた。
・地域の方々が生徒の実態に配慮をし、かかわり方を工夫してくださったことで、自分から声を掛けることが難しい生徒もかかわり合える場面が多く見られた。たいへんありがたく思っている。

（３）高等部
・今年度も、コロナウイルス感染症予防のため地域の方と直接交流をすることは難しかった。活動中に地域の方々と挨拶を交わす等でコミュニケーションの機会をもつことができた。
・通学路や学校周辺地域の清掃を通して、多くの地域の方に支えられながら生活できていることを実感することができた。
・自分達も地域のために役立てることがあること等、充実感や達成感を味わうことができた。
・地域に貢献していくという意味で、もう少し学校から離れた場所の清掃等も行っていけると良いが、生徒の実態も考慮しながら活動を行っていきたい。

Ⅴ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

居住する地域の様々な人々とふれあうことにより、生涯を通じて地域と結び付いていく基盤をつくるとともに、地域の中で共に生きていくことができる力を培う。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部１年	笛吹市立富士見小学校	2	集団登校の体験をしたり、休み時間を一緒に過ごしたりした。
小学部２年	甲府市立湯田小学校	2	生活科の授業に参加し、自己紹介カードの発表や、自作の凧を持参して一緒に凧あげをした。
小学部２年	甲府市立国母小学校	1	生活科の授業に参加し、動くおもちゃで一緒に遊んだ。
小学部２年	甲府市立相川小学校	1	音楽科の授業に参加し、ダンスやリズム遊びを行った。
小学部２年	甲州市立塩山南小学校	1	特別活動に参加し、新聞紙を活用した遊びを一緒に行った。
小学部３年	甲府市立中道北小学校	2	音楽科の授業に参加したり、業間休みに一緒に遊んだりした。
小学部４年	笛吹市立一宮西小学校	2	朝の活動や体育科の授業に参加したり、業間休みに一緒に遊んだりした。
中学部１年	甲州市立勝沼中学校	2	学園祭に向けたソーラン節の練習に参加した。３学期の活動については未定。
中学部３年	甲府市立笛南中学校	3	体育祭に向けたソーラン節の練習に参加し、体育祭当日も一緒に活動した。休み時間には、同級生との会話を楽しんだ。また、メッセージの交換も行うことができた。

３　成果と課題

・今年度は、新規希望者が８名となり、９名での実施となった。
・事前の打ち合わせを丁寧に行うことで、お互いの児童生徒の実態について共通確認を行うことができた。
・幼児期や児童期に共に過ごした友達との交流に期待感をもって臨む姿が見られた。
・居住地校交流を実施した児童生徒が交流先の児童生徒から刺激を受け、自ら生活態度を見直したり、積極的に学習に参加したりする様子が見られ、有意義な時間を過ごしてきたことを感じ取ることができた。
・居住地交流についての情報は、分かりやすく家庭へ伝える方法を検討していく。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨県立高等支援学校桃花台学園

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立高等支援学校桃花台学園
所 在 地	〒４０６－００２６　山梨県笛吹市石和町中川１４００番地
電話番号	０５５－２６３－７７６０
校 長 名	望月　公
交流及び共同学習主任名	久保島　真奈美

２　学校教育目標

生徒に誇りと自信をもたせ、他者への思いやりや協調性を培うとともに、職業教育を通じて、意欲的に社会参加する力を養成する。

Ⅱ　交流及び共同学習推進会議の経過

１　交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所　　属・職　　名	備　　考
1	笛吹市石和町中川地区・区長	会長
2	山梨県立笛吹高等学校・校長	副会長
3	笛吹市立石和東小学校・校長	
4	山梨県立笛吹高等学校・生徒会主任	
5	山梨県立高等支援学校桃花台学園・校長	

２　経過

開催時期	内　　容
５月３１日（火）	第１回交流及び共同学習推進会議 委員委嘱状及び任命書の交付、推進事業の説明、運営要項の説明、本年度の活動計画の説明、意見交換
２月２１日（火）	第２回交流及び共同学習推進会議 本年度の活動状況、次年度への課題、意見交換

Ⅲ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）同世代の生徒及び異世代の児童との交流を通して、互いを理解し、助け合いや支え合って生きていくことの大切さを学ばせる。

（２）間接的な交流と直接交流を通して、同世代の生徒及び異世代の児童の活動の様子を見たりふれ合ったりするなかで、共に学び合い、高め合う機会とする。

２　提携校

交流及び共同学習提携校
山梨県立笛吹高等学校
笛吹市立石和東小学校

３　実施状況

月日	提携校	実施学年等	教科等区分	実施内容
６月１日（火）	石和東小学校	農業生産コース	専門教科	（小１）石和東小学校にて、サツマイモの苗植え
１１月１１日（金）		環境メンテナンスコース		（小６）本校にて、花苗の植栽・清掃
１２月６日（火）		農業生産コース 食品加工コース		（小１・２）本校にて、桃花ダイスキマーケットの案内・販売・接客
７月		美術部	特別活動	笛吹高校にて、笛吹祭での作品交流

４　学校間交流の様子

（１）石和東小学校との交流

新型コロナウイルス感染防止対策を講じて、例年より規模を縮小して実施した。

サツマイモの苗植えの説明

サツマイモの苗植え

①　サツマイモの定植

石和東小学校１年生２７人とサツマイモの定植の交流を行った。本校農業生産コースの生徒は、どのように教えればわかりやすいかを考えて準備や練習をし、当日は話し方やかかわり方を工夫して教え、畝立てから定植まで一緒に作業をした。

１年生が説明を一生懸命に聞く姿や、自分たちを頼りにする姿に直接触れることで、自己有用感を感じられた。また、工夫して準備をしたことで１年生が正しく理解して上手に定植ができたことで、充実感や達成感を味わうことができた。

秋には収穫したサツマイモに係る手紙を送っていただいた。生徒は、自分たちがかかわったことの結果を知ることができ、また、多くの感謝の言葉を受け取ることで、充実感を味わうことができた。

② 買い物学習

桃花ダイスキマーケット

石和東小学校１年生２７人、２年生２６人が、本校の桃花ダイスキマーケットに合わせて来校し買い物をした。サツマイモの定植で交流をした農業生産コースの２年生が中心となり、会場準備をし、児童の案内・販売・接客を通じておもてなしをした。

あらかじめ児童からの注文をとり、パンや焼き菓子、野菜を確実に購入できるよう準備した。また、小学生が買いやすいサイズや価格にした商品を用意した。購入時に双方がやりとりを確認できるよう、オリジナルのレシートも作成し、活用した。

本校生徒は、小さなお客様への接客の仕方を工夫し、児童の視線やペースに合わせて、優しく対応し、かかわりを楽しみながらやりとりをすることができた。

児童からサツマイモケーキのプレゼント

生徒は自分たちが作った商品を喜んで購入する姿を見て、やりがいを感じることができた。また、１年生から、収穫したサツマイモで作ったケーキのサプライズプレゼントがあり、交流の醍醐味を味わうことができた。

児童が本校で購入した商品について家族に話をすることで、本校の取組の様子が自然に地域に広がり、地域の理解や協力に繋がるきっかけとなっている。

③ 花苗の植栽、清掃

プランターへの植栽

石和東小学校６年生２０人が、植栽及び窓ふき体験を行った。

各グループに本校環境メンテナンスコースの生徒が加わり、花苗をプランターに寄せ植えする手順や窓清掃の実技指導をした。

本校生徒は、６年生に対して活動の手順や楽しさなどをどのように教えたらよいのか、本校生徒は事前に悩んだり考えたりして、交流会に臨んだ。その結果、児童の興味を引く取り組みや、やりとりを行うことができた。スクイージーできれいに窓ふきができた喜びを表現した感想等により、本校生徒は対象に合わせたやり方を教えることの大切さを学ぶことができた。

窓ふき清掃

はじめて本校に来た児童も多く、送られた後日の感想文の多くには、コロナが収まったらマーケットに来てみたいという希望や、担当した環境メンテナンスコースの生徒に感謝の言葉がつづられていた。

（２）笛吹高等学校との交流

今年度は、３年ぶりに美術部が笛吹祭に作品展示をすることができた。生徒同士の交流はなかったが、搬出時には本校の美術部員が笛吹高等学校に行くことで、学園祭での作品展示の様子を見たり、笛吹祭の雰囲気を感じたりすることができた。また、展示見学の感想をいただいたり、後に送られてきた写真を見たりすることで、次への創作意欲を高めることができた。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、来年度以降の交流方法を模索していければと考えている。

笛吹高校生徒の見学の様子

作品搬出

この交流は、本校の生徒には、同世代から新たな知識や技術を得る良い機会となり、笛吹高等学校の生徒や先生方には、本校生徒の様子を知っていただける機会となる。年度初めの確認を密にし、円滑に交流が実施できるように連絡、計画を行っていきたい。

５　成果と課題

石和東小学校との交流では、予定していた交流をすべて実施することができた。サツマイモの定植と花苗の植栽・清掃の交流では、わかりやすい教え方やかかわり方の工夫を事前に考え、準備を重ねた。本校の生徒は、中学校時代に何かを自分が教えるという環境にはなかった生徒が多い。悩んだり考えたりして準備をして、「教える」という体験につながった。また、石和東小学校の児童も、専門的知識や技術を習得できたり、地域にある特別支援学校を身近に感じたりする機会になったと感じる。本校生徒との交流をきっかけに、児童から家庭、家庭から地域へと、本校や障害の理解につながっていくであろうと思われる。小学校との交流は、学校間交流にとどまらず地域交流の発展にもつながっていくといえるので、今後も大切にして継続していきたい。

笛吹高等学校との交流は、今年度は作品交流のみ実施することができた。来年度以降、部活動で同じ目標に向かって頑張っている同世代の仲間がいるということを双方の生徒が実感できる交流を目指していきたい。

Ⅳ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）地域の方々とともに活動するなかで、相互扶助の経験を通して協同の大切さを学ばせる。

（２）学校で学習した内容を、社会の中で活用する経験を通してより確かな力に高める。

（３）地域の人々とのふれあいを通して、卒業後の就労に必要なコミュニケーション能力を実践的に育成する。

２　交流先

地域交流先
笛吹市石和町中川地区

３　実施状況

月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
５月～２月 （７回実施）	中川地区	２学年・３学年	専門教科	桃花ダイスキマーケット
５月～２月 （８回実施）	中川地区	広報委員会	特別活動	桃花ダイスキマーケット告知放送
６月３０日（水） ７月１日(木)	中川地区 藤巻農園	１学年	専門教科	ブドウのかさかけ
１１月１９日(土)	中川地区	全校	専門教科	秋の大収穫祭
１２月５日(月)	中川地区	環境メンテナンスコース	専門教科	公民館内及び周辺の清掃、植栽作業

４　地域交流の様子

桃花ダイスキマーケット

（１）「桃花ダイスキマーケット」

パンの販売

桃カフェ

桃花ダイスキマーケットを５月から２月にかけて７回行った。また、１１月には桃花ダイスキマーケット「秋の大収穫祭」を行った。来場者の多くが学校周辺の地域の方々である。前日に広報委員会の生徒が中川地区に放送したり、回覧板でのお知らせも行い、心待ちにしてくださっていたお客様が多かった。手指消毒や検温の徹底等、感染症対策をしっかり行い開催した。生徒が丁寧に育てた野菜や、工夫して製造したパン、焼き菓子を地域の方々に購入していただくことを通して、生徒の学習の成果を知っていただく良い機会となった。また、桃カフェでは、飲み物や焼き菓子を提供し、丁寧な接客を行うなかで、お客様の反応を直に感じられる大変有意義な機会となった。

桃花ダイスキマーケット「秋の大収穫祭」

花苗の販売

ネギの販売

ブドウのかさかけ

ブドウのかさかけ

（２）ブドウのかさかけ

１年生の農業生産の授業において、本校農場の隣にある藤巻農園でブドウのかさかけ実習を実施した。農園の方にブドウにかさをかける意味やその方法を教えていただき、かさかけを体験した。実際に手ほどきを受けたり、ブドウ栽培に関する質問をしたりしながら、作業を行った。

地域の世代の違う方とかかわり、お話を聞くことで、知識だけではなく、精神的にも得るものがあったようである。交流を重ねることで、地域の方に本校生徒の様子を知っていただけ、理解が深まっていることを感じる。

ブドウの収穫時期には、生徒達がかさかけをしたブドウを藤巻様が本校に届けてくださり、自分たちの作業の結果を知ることができた。本校生徒の感想文の中には、勤労の大変さや、苦労したからこその充実感・達成感について触れているものが多かった。

公民館清掃

植栽したプランター

（３）公民館清掃

中川地区にある公民館周辺の清掃を１年生の環境メンテナンスの授業で実施した。授業で学んだ清掃に関する知識や技術を生かし、地域の人々と一緒に館内外の清掃に取り組んだ

また、プランターに花を植栽して設置した。区長さんより、「公民館がきれいになりありがたい」というお礼の言葉を直接生徒にかけていただけた。生徒達は、温かな言葉に励まされ、自分の行動が地域や社会に役立つことを実感することができた。

５　成果と課題

新型コロナウイルス感染症対策として、屋外での活動、手指消毒、交流人数を減らす等、できる限りの対策を行い実施した。交流を心待ちにしていてくださった方が多く、昨年度までの交流の積み重ねにより交流が地域に根付いていることを感じた。生徒たちも、先輩たちが積み重ねてきた活動により、地域の方々から温かい言葉をいただき、次につなぐ大切さを感じることができた。また、地域の方々は、温かい気持ちで本校や生徒たちを見守ってくださっていることがわかり、それを実感して、感謝の気持ちでいっぱいになった。

今後も、本校の理解や生徒への理解のさらなる広がりを目指し、内容を検討していきたい。地域交流の充実・拡大を進め、さらに地域に根ざした学校を目指していきたい。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書 山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園
所 在 地	〒４００－０８５１　甲府市住吉２丁目１番１７号
電話番号	０５５－２８８－１６２８
校 長 名	中村　知佳
交流及び共同学習主任名	長田　健

２　学校教育目標

一人一人の心に寄り添った学習活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、自信をもって様々な事柄に意欲的に取り組む態度を養い、社会の中で主体的に生きていくために必要な「生きる力」を育む。

Ⅱ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

本校の児童生徒の実態及び個人情報について配慮する必要があることから、現在のところ学校間交流は実施していない。

Ⅲ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）学園内外周辺地域の清掃活動を通して、地域について知る。
（２）地域清掃や作品展示を通して、地域の人々とふれあう機会を増やし、社会参加の意識を育てる。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	山梨県子どものこころのサポートプラザ周辺（甲府市住吉・伊勢地区）
中学部	同上

３　実施状況

月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
５月１６日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
６月１３日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
９月２６日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
１０月３１日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
１１月２８日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	植栽活動
１月３０日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
２月２７日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	校舎周辺及びプラザ内の清掃活動
通年（６月～）	甲府市伊勢地区	全学年	図画工作	甲府伊勢四郵便局作品展示

４　地域交流の様子

（１）校舎周辺及びプラザ内の清掃活動

１学期は、小中学部合同で校舎玄関前や児童相談所の植え込みの除草作業を行った。児童生徒同士で分担をして、決められた区画を雑草の根から丁寧に除去している姿を見ることができた。２学期は、小中分かれ、小学部は中庭の除草作業、中学部は玄関前の除草作業や学校周辺の落ち葉拾いを行った。中学部では作業中に、地域の方とあいさつをするなど交流を図ることができた。地域の方との触れ合いは限られたものであったが、自分たちが生活している施設や学校を外から見たり、他者の気持ちを考えたりして美化活動をすることで学校と地域社会の関係を知ることができた。

（２）植栽活動

園庭が周辺の道から良く見えるため、地域の方々にも楽しんでいただけるように、チューリップの球根を植える活動に取り組んだ。児童生徒は、球根の色を選び、並べ方を考え、協力して、作業しようとする様子が見られた。地域の方々が通りがかった時にきれいに見えるように考える生徒もいた。

（３）地域郵便局での作品展示・地域だより・ホームページ

ホームページで活動等の写真を定期的に掲載したり、甲府伊勢四郵便局に各部の作品展示をさせていただいたりして、地域への発信をするようにした。新しい試みとして７月、１０月と地域だよりを各２４０部印刷・発行し、地域の方々に本校の活動内容を知ってもらう機会を作った。また、災害時の一時避難所としての本校の役割を自治会の方々に周知してもらうとともに校内を見学していただいてマニュアル作りを進めている。

５　成果と課題

本校は、児童相談所より短期の心理治療が必要であると判断・措置され、「山梨県立子ども心理治療センターうぐいすの杜」へ入所、または通所している児童生徒が在籍する特別支援学校である。児童生徒の実態や、個人情報に配慮が必要なため、直接の交流は実施できない状況があるが、今年度も清掃を通して、地域を知ることや、近所の方々とのあいさつ等でふれあう機会ができればと考え、計画・実施を行った。また、地域の郵便局に作品を展示、地域だより、ホームページのブログを通して、本校のことを知ってもらう良い機会となった。 今後も、地域清掃を継続的に実施し、ふれあいの機会をもつとともに、ホームページ、作品展示、地域だよりを通して地域とつながりを広げていくことや、さらに交流の可能性を探っていくことが望ましい。

Ⅳ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

本校の児童生徒の実態及び個人情報について配慮する必要があることから、現在のところ居住地校交流は実施していない。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書　　山梨大学教育学部附属特別支援学校

Ⅰ　学校概要

１　学校の概要

学 校 名	山梨大学教育学部附属特別支援学校
所 在 地	〒４００－０００６　甲府市天神町１７－３５
電話番号	０５５－２２０－８２８２
校 長 名	井坂　健一郎
交流及び共同学習主任名	数野　久実

２　学校教育目標

「自ら考え、行動し、まわりの人と助け合いながら生き生きと生活できるたくましい心と体を養う」

・心身を鍛え、健康を維持し、つよい心と体を持つ。
・身のまわりのことが自分でできる。
・人とのかかわりが持て、集団に参加し、仲間と協力できる。
・自ら考え、持てる力を精いっぱい出して行動できる。
・幅広い視野を持ち、心豊かで文化的な生活を営む。

Ⅱ　学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

１　目　的

（１）小学部
　①　同世代の友達と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。
　②　ともに活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

（２）中学部
　①　同世代の生徒と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。
　②　様々な活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

（３）高等部
　①　同世代の生徒と関わり、交流することで、互いに理解を深める。
　②　文化的な交流及び共同学習を通して、豊かな心を育てる。

２　提携校

学　　部	交流及び共同学習提携校
小学部	山梨大学教育学部附属小学校
中学部	山梨大学教育学部附属中学校、甲府市立北東中学校
高等部	日本航空高等学校

３　実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	４月	山梨大学教育学部附属小学校	全学年	生活単元学習	校外学習として附属小へ行き、「よろしくねの会」を行った。
	１１月	山梨大学教育学部附属小学校	全学年	生活単元学習	本校の体育館で、「なかよくなろうねの会」を行い、一緒にダンスやボッチャをして交流を深めた。
中	１０月	山梨大学教育学部附属中学校	全学年	総合的な学習の時間	本校学園祭「きりの子まつり」における舞台発表用大道具の手伝いを依頼するビデオを作成した。送っていただいたマーブリング作品を劇の大道具として使わせていただいた。
		甲府市立北東中学校	全学年	総合的な学習の時間	生徒会より、本校学園祭「きりの子まつり」に応援動画をいただき上映した。
	６月	甲府市立北東中学校特別支援学級	全学年	保健体育	北東中が来校し、交流会で自己紹介・学校紹介を行った後、体育館でボール投げの題材を用いたゲームを行った。
	１２月	山梨大学教育学部附属中学校 甲府市立北東中学校	全学年	総合的な学習の時間	きりの子まつりの劇発表の紹介動画作成し、２校に活動を紹介した。
高	相手校と検討の結果中止	日本航空高等学校	全学年	特別活動	演奏の様子をＤＶＤとして頂いた。今後、本校の演奏動画を送る予定。

４　学校間交流の様子

（１）小学部

附属小学校４年生との活動について

小学部では、附属小学校４年生との学校間交流を毎年行っている。コロナ禍以降、オンラインでの交流を試みてきたが、今年度は直接的な交流を２回行った。４月には、本校小学部児童１８名が附属小学校まで歩いて行き、低学年校庭で遊ぶ校外学習の日に合わせて、附属小の４年生代表児童１５名と「よろしくねの会」を行った。屋外で対面し、本校からは、高学年（５・６年生）の児童６名が、「よろしくね！」の文字付きの団扇を附属小児童に見せながら、挨拶をした。附属小代表児童からは、一人一人自己紹介があった。

１１月には２回目の学校間交流として、生活単元学習「こうりゅうをしよう」を設定し、本校の体育館に附属小の４年生を招き「なかよくなろうねの会」を開き、直接交流をした。感染症対策として、附属小学校の４年生に１クラスごと（３０名程度）時間差で来校してもらい、最初に小学部の教室の様子を見学してもらった後、体育館で一緒に活動するという形をとった。「なかよくなろうねの会」は、始めの会、ダンス、ボッチャ、終わりの会を行った。ダンスは本校児童が好きな「めっちゃ元気体操」「パプリカ」「ごりらっパンダ」の３曲とした。本校で普段から取り組んでいる活動を一緒に行う直接的な交流を通して、本校児童の理解に繋げること、同世代の友達に互いに関心をもつことなどをねらいとし、実施することができた。

（２）中学部

本年度は感染症の状況を鑑みながら相手校と内容を検討し間接的な交流を実施した。

附属中学校とは、本校学園祭「きりの子まつり」で使う大道具の共同制作を通して交流を行った。マーブリングの作品を制作していただき、それらを活用して舞台を彩ることができた。依頼やお礼など事前事後に動画を通しての交流を図ることができた。

北東中学校とは感染症の状況を鑑みながら、６月に特別支援学級の生徒と体育の授業を通して、対面での交流を行うことができた。感染症予防に配慮しつつ交流ができるボール投げのゲームを考え、安全に実施することができた。学校間で協力したり、応援したりすることができ、有意義な時間となった。また、「きりの子まつり」に際して生徒会より文化祭の紹介動画をいただいた。学部で鑑賞し、北東中での取り組みに刺激を受ける生徒もいた。本校からもきりの子まつりの様子を動画で紹介し、交流を深めることができた。

（３）高等部

日本航空高等学校太鼓隊との活動について

今年度の学校間交流は、提携校と検討した結果、感染症の状況により中止に至った。対面による交流の難しさが考えられるが、生徒の意欲にも繋がっている提携校との交流は続けていきたいと考えている。その為、リモート等における間接交流での実施を視野に、交流を図っていきたい。

５　成果と課題

（１）小学部

今年度の学校間交流は、感染症拡大防止のための制約はあったが、できるだけ直接交流が実現できるように協議を重ねた。体育館という会場設定は、天候に左右されず、密を回避するための広さを確保できて良かった。附属小学校４年生全員と場を共有することは難しかったが、附属小学校児童１０人程度と本校児童６人ずつのグループを３つ作り、グループごとに活動を行ったことで、関わりやすい環境となり、自分から話しかけている様子も両校に見られたので良かった。一方、３クラスのローテーションでの活動設定では、１クラスの交流時間が２０分程度と短くなってしまい、附属小児童からは、もっとやりたかったという声も聞かれた。今回の直接交流で、ようやく交流を実感できた様子だったので、来年度は、年に２回の交流をより深めるための内容設定を協議していきたい。

（２）中学部

昨年度に続き今年度も、交流校と検討した結果、コロナ禍においても安全に行える間接的な交流活動を計画し実施することができた。間接的な交流となったが、動画を活用してお互い相手の顔が見える交流になるよう工夫した。感染が落ち着いた６月には、対面による保健体育での交流授業が実施できた。授業で取り組んできたボール投げを題材にしたゲームを行うことで、同じ場を介して子ども同士の関わりをもつことができた。交流会が始まる前は緊張感が感じられたが、ゲームを通して応援しあったり、笑顔が見られたりと、楽しい雰囲気で活動することができた。

例年行ってきた対面での「劇の背景画共同製作」や「きりの子まつりへの招待」「きりの子バザールへの招待」などを、今後感染症の状況を見ながら再開したい。

（３）高等部

８月下旬に日本航空高等学校太鼓隊をお招きすることになっていたが、新型コロナウイルス感染症の状況により、実現には至らなかった。しかし、日本航空高校太鼓隊の生徒自ら、基本の打ち方、構え方などの太鼓演奏を録画し、ＤＶＤとして贈っていただくことができた。きりの子まつりに向けて、生徒達は素晴らしい日本航空高等学校太鼓隊の演奏を鑑賞することができた。生徒達は構えなどを真似して、よりよい武田きりの子太鼓を目指すことができた。来年はぜひ、本校に生の日本航空高等学校太鼓隊を招き、互いに太鼓演奏を行うことで交流を図っていきたい。

Ⅲ　地域における交流活動（地域交流）

１　目　的

（１）小学部

① 地域の方々と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。

② 共に活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

（２）中学部

① 地域の方々と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。

② 校内外での活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

（３） 高等部

① 地域の方々とのふれあいの中から、豊かな心を育てる。

② 協力し合い、共生することの大切さに気づく機会を作る。

２　交流先

学　　部	地域交流先
小学部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ
中学部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ
高等部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ、山梨大学の方々、学校周辺の方々

３　実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	９月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	生活単元学習	９月のわくわく集会で「敬老の日」の学習をし、シニアクラブの方々と一緒に手遊び歌やボッチャをした。
中	１月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	総合的な学習の時間	「きりの子まつり」での劇発表を動画で紹介し、コメントをもらい、感謝の手紙を贈るなどの活動を通して交流を深めた。
高	１１月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	音楽	武田きりの子太鼓を発表したり、全員合唱で「ふるさと」を歌ったり、作業学習の製品をプレゼントしたりした。
	本校で検討の結果中止	大学内の方々及び学校周辺の方々	全学年		

４　地域交流の様子

（１）小学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

今年度は、９月のわくわく集会にシニアクラブの６名の方々を招いた。児童は、「敬老の日」の学習を行った後、シニアクラブの方々の自己紹介を聞いたり活動をしたりした。手遊び歌「ぐーちょきぱーで」では、児童とシニアクラブの方が隣同士で座ることで、顔を見合ったり話しかけたりしながら一緒に手遊びを楽しむことができた。ボッチャでは、

学級ごとに分かれ、３つの場を設定して活動した。１学級６名の児童に２名ずつシニアクラブの方が加わり、応援し合ったり拍手をし合ったりする温かい雰囲気の交流となった。

（２）中学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

今年度も昨年度と同様、感染症の状況を鑑みて、対面による交流は行わず間接交流で実施することとした。きりの子まつりの一幕で、「すてきな自分」をテーマにした発表動画を、ＤＶＤにしてシニアクラブの方に見ていただいた。シニアクラブの方々から中学部生徒一人一人に心温かなコメントをいただき、生徒たちは達成感を感じると共に自己理解を深めることができた。また本校からは、シニアクラブの方々に本校作業学習製品とお礼の手紙を贈ることで交流を深めることができた。

（３）高等部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

感染症対策を行い、３年ぶりに地域の方々との交流会を実施した。武田きりの子太鼓の発表をメインに、全員で「ふるさと」を合唱し、作業学習の製品をプレゼントすることができた。聴いてくださった方々には、「生徒の頑張る姿を見たり、一緒に歌ったりしたことが嬉しかった。」と感想を述べていただいた。

５　成果と課題

（１）小学部

昨年度はコロナ禍のため、ご高齢の方を学校に招いて直接交流をすることを控えたが、今年度は感染症対策を行いながら、６名のシニアクラブの方々と直接交流をすることができた。健康チェックやマスクの着用、活動時における手指の消毒、用具の消毒等を念入りに行い、安全に配慮しながら交流を実施できたことは成果としてあげられる。また児童と直接関わったことで、地域の方々の児童への関心が高まり、温かい眼差しで児童を理解しようとしてくださっていたことが成果である。また、障害者スポーツであるボッチャを初めて経験する機会にもなったようだった。来年度も、感染症対策を踏まえどのように地域の方々と交流を行うことができるのかを検討していく必要がある。

（２）中学部

コロナ禍以前は、甲府市新紺屋地区のシニアクラブの方々を学校に招き交流会を行ってきたが、感染症予防対策により間接交流の形で行った。「すてきな自分」をテーマに発表したときの様子を動画で見ていただいたことで、中学部の生徒に対してのメッセージや取り組みについてのコメントをいただくことができた。それらのコメントに対してお礼の手紙を贈ることで、交流を深めることができた。代表の方からの動画でのメッセージをいただいたことで、シニアクラブの方々に対して深い感謝の気持ちをもつことができた。来年度も、感染症予防対策をふまえながら、内容や方法を早めに検討し有意義な交流を行っていきたい。

（３）高等部

例年、作業学習の製品を販売することを通して地域の方々との交流や、本校に新紺屋地区シニアクラブの方々を招き和太鼓の演奏を鑑賞していただく交流を行ってきた。作業学習の製品を販売することは今年度も残念ながら実施できなかったが、感染症対策を踏まえ、３年ぶりに地域の方々と交流会を行い、地域の方々に本校の生徒の様子を知っていただき、短い時間であったがふれ合うことができたことは成果であった。

Ⅳ　居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

１　目　的

（１）同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。

（２）居住地域における交流及び共同学習を通し、日常的な交流場面への発展を導く。

（３）将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

２　実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）の内容
小学部４学年	甲斐市立双葉東小学校	1	昨年に引き続き交流を行った。今年度は特別支援学級ではなく、通常の学級（４年生）での交流となった。
小学部５学年	甲府市立相川小学校	1	特別支援学級の自立活動の授業に参加した。自己紹介やゲームを通して交流をした。
中学部２学年	北杜市立高根中学校	1	学園祭の準備期間に交流し、自己紹介をしたり、劇練習の様子を参観したりした。

３　成果と課題

小学部４年児童は、４年生の通常学級で音楽の授業に参加した。音楽の授業の中では、４年生の友達と一緒に簡単なリズム遊びをしたり、器楽演奏を行ったり、歌唱をしたりした。途中、戸惑う場面もあったようだが、周りの友達の様子を見たり、近くにいる友達の声かけに応じたりし、一緒に音楽活動に取り組むことができた。最後に「かもつれっしゃ」をして遊ぶ場面では、相手校の学級役員の男児が声をかけてくれたり気にかけてくれたりし、仲間の輪に入って遊ぶことができたようだ。昨年度は特別支援学級での交流であったが、今年度は、同じ地域に住む同学年の児童と関わることができ本児にとって貴重な経験となった。

来年度は、年に２回の交流が可能かどうか、相手校と相談する中で検討していきたい。

小学部５年児童は，特別支援学級の授業に参加し，自己紹介やゲームを楽しんだ。居住地の同学年児童との交流は，今回が初めてということで，本人も当日を楽しみにしていた。初めは少し緊張していたようだが，同じ放課後等デイサービスに通う児童もいたことから，徐々に緊張も和らぎ，楽しく活動に参加することができた。初めての交流経験を今後にどう生か

していくかが課題である。

　また、中学部の生徒は、学園祭の練習期間に訪問し、劇練習の様子を見たり大道具作成の様子を見たりして楽しみながら一緒に学習することができた。小学校時代に交流のあった同級生の友達とも再開し交流を深めることもできた。

令和４年度交流及び共同学習実施報告書

山梨県教育委員会